

# 四半期報告書

(第52期第2四半期)

自 平成26年7月1日

至 平成26年9月30日

オリックス株式会社

# 目 次

	頁
表 紙 .....	1
第一部 企業情報 .....	2
第1 企業の概況 .....	2
1 主要な経営指標等の推移 .....	2
2 事業の内容 .....	2
第2 事業の状況 .....	2
1 事業等のリスク .....	3
2 経営上の重要な契約等 .....	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	3
第3 提出会社の状況 .....	15
1 株式等の状況 .....	15
2 役員の状況 .....	19
第4 経理の状況 .....	20
1 四半期連結財務諸表 .....	21
2 その他 .....	110
第二部 提出会社の保証会社等の情報 .....	111

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月13日
【四半期会計期間】	第52期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	オリックス株式会社
【英訳名】	ORIX CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表執行役 井上 亮
【本店の所在の場所】	東京都港区浜松町2丁目4番1号 世界貿易センタービル内
【電話番号】	03（3435）3000（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 内村 幸夫
【最寄りの連絡場所】	東京都港区浜松町2丁目4番1号 世界貿易センタービル内
【電話番号】	03（3435）3000（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 内村 幸夫
【縦覧に供する場所】	オリックス株式会社 大阪本社 （大阪市西区西本町1丁目4番1号 オリックス本町ビル） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第51期 第2四半期 連結累計期間	第52期 第2四半期 連結累計期間	第51期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
営業収益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	609,103 (333,031)	945,175 (507,432)	1,341,651
税引前四半期(当期)純利益 (百万円)	122,131	203,004	283,726
当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	80,408 (35,401)	142,106 (73,501)	186,794
当社株主に帰属する 四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	85,568	150,777	223,059
当社株主資本 (百万円)	1,759,626	2,036,578	1,918,740
総資産額 (百万円)	8,429,989	11,215,063	9,069,392
1株当たり当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (第2四半期連結会計期間) (円)	64.67 (28.19)	108.50 (56.12)	147.30
潜在株式調整後 1株当たり当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (円)	61.86	108.34	142.77
当社株主資本比率 (%)	20.9	18.2	21.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	218,969	108,760	470,993
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△110,713	△141,111	△202,166
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△230,853	16,571	△274,579
現金および現金等価物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	706,289	814,923	827,299

(注) 1 米国預託証券の発行等に関して要請されている用語、様式および作成方法(以下、「米国会計基準」という。)に基づき記載されています。

2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書(以下、会計基準編纂書)205-20(財務諸表の表示-非継続事業)に従い、第52期以前において、重要な継続的関与がなく売却された、または売却等による処分予定の子会社および事業ならびに一部の不動産に伴う第51期の損益を組替再表示しています。

3 営業収益には、消費税等は含まれていません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、オリックスグループ(当社および当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりです。

##### リテール事業部門

当第2四半期連結会計期間に、当社は、当社の100%子会社であるオリックス生命保険株式会社(以下、「オリックス生命」)において、オリックス生命の資本強化と経営の健全性の向上を図り、今後の成長を目指すため、The Hartford Financial Services Group, Inc.の孫会社であるHartford Life, Inc.(所在地:アメリカ合衆国コネチカット州シムズベリー)が保有するハートフォード生命保険株式会社(所在地:東京都港区、事業内容:生命保険事業およびその再保険事業)の発行済株式の全てを取得し、連結子会社化しました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した「事業等のリスク」はありません。  
また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の財政状態および経営成績の分析は、オリックスグループの財政状態および経営成績に大きなインパクトを与えた事象や要因を経営陣の立場から説明したものです。一部には将来の財政状態や経営成績に影響を与える要因や傾向を記載していますが、それだけに限られるものではないことをご承知おきください。なお、将来に関する事項の記載は、本四半期報告書提出日現在において判断したものです。以下の記載においては、米国会計基準に基づく数値を用いています。

#### (1) 経営成績の分析

世界経済は、年初より米国経済を主導として景気回復傾向にありましたが、現在は景気の先行き見通しに対して見方が分かれ、主要経済指標の公表結果に株式市場が敏感に反応する状態になっています。

米国では、雇用情勢、個人消費は回復傾向にあり、利上げ時期を巡る議論が本格化している一方、欧州経済は先行き不透明感が生じ、欧州中央銀行による金融緩和策の今後の行方が注目されています。

アジア新興国では、各国の成長は均一ではなく、中国は持続可能な成長に向けて経済成長率は緩やかに低下していますが、その他の諸国では、世界経済の影響を受けるものの一定の経済成長率を維持しています。

日本経済は、消費税増税の反動もあり、一部の経済指標の弱さも見られますが、雇用情勢が底堅く、緩やかな成長が継続しています。

#### 業績総括

当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

営業収益	945,175百万円	（前年同期比55%増）
営業費用	809,000百万円	（前年同期比61%増）
税引前四半期純利益	203,004百万円	（前年同期比66%増）
当社株主に帰属する四半期純利益	142,106百万円	（前年同期比77%増）
1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益（基本的）	108.50円	（前年同期比68%増）
1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益（希薄化後）	108.34円	（前年同期比75%増）
ROE（当社株主資本・当社株主に帰属する四半期純利益率、年換算）	14.4%	（前年同期9.5%）
ROA（総資本・当社株主に帰属する四半期純利益率、年換算）	2.80%	（前年同期1.91%）

当第2四半期連結累計期間の営業収益は、前年同期の609,103百万円に比べて55%増の945,175百万円になりました。平成26年7月1日に買収したハートフォード生命保険株式会社（以下、ハートフォード生命）の連結子会社化により、変額年金保険契約および変額保険契約にかかる運用資産からの運用益を計上したため「生命保険料収入および運用益」が増加しました。また、平成25年7月1日に買収した資産運用会社のRobeco Groep N.V.（以下、ロベコ）の連結子会社化により「アセットマネジメントおよびサービシング収入」が増加したほか、主に新規のPE投資による買収子会社の貢献により「商品売上高」が増加しました。さらに、平成26年2月27日に買収した株式会社大京（以下、大京）の連結子会社化やPE投資による買収子会社の貢献、環境エネルギー関連事業の伸長により「その他の営業収入」や「不動産販売収入」が増加したほか、マネックスグループ株式会社株式等の売却により「有価証券等仲介手数料および売却益」が増加しました。一方、営業貸付金の平均残高の減少や売却益の減少により「貸付金および有価証券利息」が前年同期に比べて減少しました。

営業費用は、前年同期の502,116百万円に比べて61%増の809,000百万円になりました。上述の収益の増加と同様に、主に「生命保険費用」、「不動産販売原価」、「アセットマネジメントおよびサービシング費用」、「商品売上原価」および「その他の営業費用」が増加しました。また、連結子会社の増加および米州の手数料ビジネスが好調なことから「販売費および一般管理費」も増加しました。一方、借入債務平均残高の減少により「支払利息」は前年同期に比べて減少しました。

「子会社・関連会社株式売却損益および清算損」は主にSTX Energy Co., Ltd. (現・GS E&R Corp. 以下、「STX Energy」)の株式を一部売却したことによる売却益を計上したため、前年同期に比べて増加しました。また、ハートフォード生命の連結子会社化において、取得対価の公正価値が認識した純資産の公正価値を下回ったため、その差額36,761百万円を「バーゲン・パーチェス益」として認識しました。

以上のことから、税引前四半期純利益は、前年同期の122,131百万円に比べて66%増の203,004百万円、当社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期の80,408百万円に比べて77%増の142,106百万円になりました。

なお、ハートフォード生命の連結子会社化については、「第4 経理の状況 四半期連結財務諸表注記 4 買収」をご参照ください。

## セグメント情報

セグメント収益およびセグメント利益を事業の種類別セグメントごとに示すと以下のとおりです。

	前第2四半期 連結累計期間		当第2四半期 連結累計期間		増減(収益)		増減(利益)	
	セグメント 収益	セグメント 利益	セグメント 収益	セグメント 利益	金額	比率	金額	比率
	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)
法人金融サービス事業部門	37,273	11,446	37,444	12,646	171	0	1,200	10
メンテナンスリース事業部門	125,236	20,513	131,729	21,509	6,493	5	996	5
不動産事業部門	99,300	8,769	92,204	15,750	△7,096	△7	6,981	80
事業投資事業部門	78,683	22,215	241,251	15,323	162,568	207	△6,892	△31
リテール事業部門	103,474	28,379	181,924	77,724	78,450	76	49,345	174
海外事業部門	151,364	34,204	251,733	61,533	100,369	66	27,329	80
セグメント計	595,330	125,526	936,285	204,485	340,955	57	78,959	63
四半期連結財務諸表との調整	13,773	△3,395	8,890	△1,481	△4,883	△35	1,914	—
連結合計	609,103	122,131	945,175	203,004	336,072	55	80,873	66

総資産残高を事業の種類別セグメントごとに示すと以下のとおりです。

	前連結 会計年度末		当第2四半期 連結会計期間末		増減	
	総資産残高	構成比	総資産残高	構成比	金額	比率
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)
法人金融サービス事業部門	992,078	10.9	983,575	8.8	△8,503	△1
メンテナンスリース事業部門	622,009	6.9	656,143	5.9	34,134	5
不動産事業部門	962,404	10.6	885,334	7.9	△77,070	△8
事業投資事業部門	565,740	6.2	606,045	5.4	40,305	7
リテール事業部門	2,166,986	23.9	3,907,031	34.8	1,740,045	80
海外事業部門	1,972,138	21.8	2,090,120	18.6	117,982	6
セグメント計	7,281,355	80.3	9,128,248	81.4	1,846,893	25
四半期連結財務諸表 (連結財務諸表)との調整	1,788,037	19.7	2,086,815	18.6	298,778	17
連結合計	9,069,392	100.0	11,215,063	100.0	2,145,671	24

当第2四半期連結累計期間のセグメント利益は、前年同期の125,526百万円から63%増の204,485百万円となりました。事業投資事業部門が減益となりましたが、リテール事業部門、海外事業部門、不動産事業部門が大きく貢献し、法人金融サービス事業部門、メンテナンスリース事業部門も堅調に推移しました。

各セグメントの当第2四半期連結累計期間の動向は以下のとおりです。

**法人金融サービス事業部門**：融資事業、リース事業、各種手数料ビジネス

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
セグメント利益 (百万円)	11,446	12,646	1,200	10

	前連結会計 年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減	増減率 (%)
セグメント資産 (百万円)	992,078	983,575	△8,503	△1

国内の経済環境は、消費税増税による個人消費・住宅投資などへの一時的な反動減は見られましたが、企業収益の改善は継続し、引き続き設備投資も緩やかに増加する動きが見られます。金融機関による貸出金は、大企業向けのみならず中小企業向けにも増加基調が見られますが、貸出競争の熾烈化は継続しています。

営業貸付金収益が、平均貸付金残高減少に伴い減少した一方、ファイナンス・リース収益が、平均投資残高の増加に伴い堅調に推移しました。また、国内の中堅・中小企業に対する太陽光パネル販売や生命保険販売などの手数料ビジネスが順調なことから、セグメント利益は、前年同期に比べて増加しました。

セグメント資産は、投資有価証券が増加したものの、営業貸付金が減少したため、前連結会計年度末に比べて減少しました。

**メンテナンスリース事業部門**：自動車リース事業、レンタカー事業、カーシェアリング事業、電子計測器・IT関連機器等のレンタル事業およびリース事業

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
セグメント利益 (百万円)	20,513	21,509	996	5

	前連結会計 年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減	増減率 (%)
セグメント資産 (百万円)	622,009	656,143	34,134	5

自動車リース業界においては、消費税増税による一時的な反動減は見られたものの、緩やかな景気回復も背景に新規自動車リース台数も回復基調にあります。また、リテールマーケットにおいて、自動車の中古車販売にオンライン通販会社が参入するなど新しい動きも見られます。

自動車事業において順調に資産が拡大していることにより、オペレーティング・リース収益、ファイナンス・リース収益が増加し、収益拡大に伴いオペレーティング・リース原価、販売費および一般管理費も増加しました。セグメント利益は、資産拡大に伴う利益増加により中古車売却益の減少をカバーし、前年同期に比べて増加しました。

セグメント資産は、自動車事業を中心にオペレーティング・リース投資およびファイナンス・リース投資が順調に増加しました。

**不動産事業部門**：不動産開発・賃貸・ファイナンス事業、施設運営事業、不動産投資法人（REIT）の資産運用・管理事業、不動産投資顧問業

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
セグメント利益 (百万円)	8,769	15,750	6,981	80

	前連結会計 年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減	増減率 (%)
セグメント資産 (百万円)	962,404	885,334	△77,070	△8

オフィスビル市場は、引き続きオフィス賃料、空室率ともに改善が続いています。J-REIT市場では、引き続き不動産取得は活発であり、物件取得競争による不動産価格の上昇や大型の不動産売買事例も見られます。また、有料老人ホームなど高齢者施設を主な投資対象にするヘルスケアREITの上場も計画されるなど、REITの投資対象分野は拡大しています。

資産残高の減少に伴い賃貸収益や金利収益が減少し、主にオリックス不動産のマンション引き渡し戸数の減少に伴い不動産販売収入が減少しました。一方で、賃貸不動産売却益は増加しました。加えて、主に棚卸資産の評価損（不動産販売原価に含まれます）や長期性資産評価損が減少したため、セグメント利益は前年同期に比べて増加しました。

セグメント資産は、主に賃貸不動産の売却を行ったことにより、前連結会計年度末に比べて減少しました。



**事業投資事業部門**：環境エネルギー関連事業、プリンシパル・インベストメント事業、サービサー（債権回収）事業

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
セグメント利益 (百万円)	22,215	15,323	△6,892	△31

	前連結会計 年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減	増減率 (%)
セグメント資産 (百万円)	565,740	606,045	40,305	7

国内の環境エネルギービジネスは、再生可能エネルギーの買い取り制度を見直す動きが見られるものの、中長期的に再生可能エネルギーの重要性は高く、太陽光発電以外にも風力、地熱発電事業へと投資対象は広がっています。資本市場においては、昨年度は新規上場会社数が4年連続で増加しました。また、今年度も引き続き好調な環境が継続し、国内外で大型案件の上場が行われています。

プリンシパル・インベストメント事業における投資先からの取込利益や、環境エネルギー関連事業からの利益計上が貢献しましたが、サービサー事業における営業貸付金収益や大京の利益が減少したため、セグメント利益は前年同期と比べて減少しました。

セグメント資産は、サービサー事業における営業貸付金が減少した一方、環境エネルギー関連事業における資産等が増加した結果、前連結会計年度末に比べて増加しました。

**リテール事業部門**：生命保険事業、銀行事業、カードローン事業

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
セグメント利益 (百万円)	28,379	77,724	49,345	174

	前連結会計 年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減	増減率 (%)
セグメント資産 (百万円)	2,166,986	3,907,031	1,740,045	80

生命保険業界は、人口減少のマクロ要因の影響を受けるものの医療保険等のニーズは高まり、各社で新規商品を開発する動きが見られます。個人向けのローン需要は、景気回復に伴う個人消費マインドの回復により増加し、各社は販売活動を活発化しています。

銀行事業における貸付金収益の増加や生命保険事業における契約数の伸長による保険収益の増加に加え、マネックスグループ株式会社の株式売却益の計上および平成26年7月1日に買収したハートフォード生命の連結子会社化に伴うバーゲン・パーチェス益36,761百万円の計上により、セグメント利益は、前年同期と比べて大きく増加しました。

セグメント資産は、銀行事業における資産拡大に加えて、平成26年7月1日に買収したハートフォード生命の連結子会社化に伴う投資有価証券の増加により、前連結会計年度末に比べて大きく増加しました。

**海外事業部門**：リース事業、融資事業、債券投資事業、投資銀行事業、アセットマネジメント事業、船舶・航空機関連事業

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
セグメント利益 (百万円)	34,204	61,533	27,329	80

	前連結会計 年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減	増減率 (%)
セグメント資産 (百万円)	1,972,138	2,090,120	117,982	6

米国では、雇用情勢、個人消費は回復傾向にあり、利上げ時期を巡る議論が本格化している一方、欧州経済は先行き不透明感が生じ、欧州中央銀行による金融緩和策の今後の行方が注目されています。アジア新興国では、各国の成長は均一ではなく、中国は持続可能な成長に向けて経済成長率は緩やかに低下していますが、その他の諸国では、世界経済の影響を受けるものの一定の経済成長率を維持しています。

平成25年7月1日に買収したロベコのアセットマネジメント収益の計上に加え、米州の手数料収益が増加しました。また、連結子会社であったSTX Energyの保有株式を一部売却したことに伴う売却益の計上がありました。収益の拡大に伴う販売費および一般管理費の増加もありましたが、セグメント利益は、前年同期に比べて大きく増加しました。

セグメント資産は、STX Energyの株式を一部売却したことにより連結子会社から持分法適用関連会社となったため、その他営業資産が減少しましたが、米州における営業貸付金および投資有価証券が増加したため、前連結会計年度末に比べて増加しました。

(2) 財政状態の状況

	前連結会計年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減	
			金額	率 (%)
総資産 (百万円)	9,069,392	11,215,063	2,145,671	24
(うち、セグメント資産)	7,281,355	9,128,248	1,846,893	25
負債合計 (百万円)	6,921,037	8,931,551	2,010,514	29
(うち、長短借入債務)	4,168,465	4,200,244	31,779	1
(うち、預金)	1,206,413	1,218,164	11,751	1
当社株主資本 (百万円)	1,918,740	2,036,578	117,838	6
1株当たり当社株主資本 (円)	1,465.31	1,556.84	91.53	6

(注) 株主資本は米国会計基準に基づき、当社株主資本合計を記載しています。1株当たり株主資本は当該株主資本合計を用いて算出しています。

	前連結会計年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減
当社株主資本比率 (%)	21.2	18.2	△3.0
調整後当社株主資本比率 (%) ※	21.8	18.6	△3.2
D/E比率(長短借入債務(預金除く) / 当社株主資本) (倍)	2.2	2.1	△0.1
調整後D/E比率 (倍) ※	2.0	1.9	△0.1

※ 調整後当社株主資本比率および調整後D/E比率は、平成22年4月1日より変動持分事業体(VIE)の連結にかかる会計基準を適用した結果、新たに連結対象となったVIEの特定の資産・負債および利益剰余金への影響を除いた財務指標です。米国会計基準に準拠した最も直接的に比較できる財務指標との調整表などの詳細につきましては、「(9)米国会計基準に準拠していない財務指標」をご参照ください。

総資産は、前連結会計年度末の9,069,392百万円に比べて24%増の11,215,063百万円になりました。ハートフォード生命の連結子会社化に伴い、主に「投資有価証券」および「その他資産」が増加しました。「営業貸付金」は主に米州における債権買取の増加により増加しました。一方、「オペレーティング・リース投資」は賃貸不動産や航空機の売却等により、「その他営業資産」はSTX Energyが持分法適用関連会社になったことにより減少しました。なお、セグメント資産は、前連結会計年度末に比べて25%増の9,128,248百万円になりました。

負債については、資産、手元流動性および国内外の金融環境の状況に応じて有利子負債残高を適切にコントロールしています。この結果、前連結会計年度末に比べて長短借入債務および預金が増加しました。また、ハートフォード生命の連結子会社化に伴い、変額年金保険契約および変額保険契約にかかる「保険契約債務および保険契約者勘定」が増加しました。

当社株主資本は、主に「利益剰余金」が増加したことにより、前連結会計年度末から6%増の2,036,578百万円になりました。

なお、ハートフォード生命の連結子会社化に伴う影響は以下のとおりです。

ハートフォード生命では主に変額年金保険商品および変額保険商品を取り扱っています。変額年金保険商品および変額保険商品は、契約者から払い込まれた保険料を契約者勘定で運用し、その運用実績に応じて保険金支給額が変動する保険商品です。変額年金保険契約者および変額保険契約者のために運用している資産は主に短期売買目的有価証券に分類される持分証券であり、当第2四半期連結会計期間末において1,448,821百万円を四半期連結貸借対照表上「投資有価証券」に計上しています。当第2四半期連結会計期間において当該運用資産から生じる売却損益および評価損益58,463百万円を、四半期連結損益計算書上「生命保険料収入および運用益」に計上しています。また、変額年金保険契約および変額保険契約の最低保証の履行リスクの一部を移転するため、再保険契約を締結し、四半期連結貸借対照表上「その他資産」に当該再保険契約にかかる再保険貸の金額を計上しています。当社は、当該再保険契約に対して公正価値オプションを適用し、四半期連結損益計算書上「生命保険費用」に再保険契約の価値の変動を計上しています。さらに最低保証の履行リスクの一部を経済的にヘッジするために、デリバティブ取引を行い、関連する損益は四半期連結損益計算書上「生命保険料収入および運用益」に計上しています。当社は、変額年金保険契約および変額保険契約に対して公正価値オプションを適用し、当該公正価値の金額を四半期連結貸借対照表上「保険契約債務および保険契約者勘定」に計上し、公正価値の変動を四半期連結損益計算書上「生命保険費用」に計上しています。変額年金保険契約および変額保険契約の公正価値は、裏付となる運用資産の価値の変動に連動しています。さらに、変額年金保険契約および変額保険契約は最低保証リスクにさらされていますが、このリスクは再保険契約およびデリバティブ契約により適切に管理しています。

### (3) 資金調達および流動性

オリックスグループは、運転資金の確保、新規の投資融資等のため常時資金調達を必要としています。そのために、調達の安定性維持と十分な流動性の確保、資金コストの低減を資金調達の重要な目標としながら市場環境の大きな変化に備えた方針を決定し、実際の資産の動きや市場の状況に応じて資金調達を行っています。具体的には経営計画に基づくキャッシュ・フロー、資産の流動性、手元流動性の状況を踏まえた資金調達計画を策定した上で、環境の変化や営業・投資活動の資金需要の変化に迅速に対応して計画を見直し、機動的に必要な資金を調達しています。

資金調達を行うにあたり、資金調達の分散および多様化、資金調達の長期化および償還時期の分散、適切な手元流動性の確保等の施策を実施し、財務体質を強化しています。

資金調達は、金融機関からの借入と資本市場からの調達および預金で構成され、その合計額は、当第2四半期連結会計期間末現在で5,418,408百万円です。

そのうち金融機関からの借入については、大手銀行、地方銀行、外資系銀行、生損保会社等、調達先は多岐にわたり、その数は当第2四半期連結会計期間末現在で200社超にのびます。資本市場からの調達については、社債およびメディアム・ターム・ノート、コマーシャル・ペーパー、ファイナンス・リースおよび貸付債権等の証券化に伴う支払債務（ABS等）で構成されています。また、預金の多くはオリックス銀行株式会社が受け入れたものです。

当第2四半期連結累計期間には、資金調達の長期化を図るため、機関投資家向けに期間10年、個人向けに期間7年および10年の普通社債を発行しました。今後も調達のバランスを考慮しながら、財務の安定化を図っていきます。

#### 短期、長期借入債務および預金

##### (a) 短期借入債務

	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
金融機関からの借入	208,598	187,111
コマーシャル・ペーパー	100,993	163,186
合計	309,591	350,297

当第2四半期連結会計期間末現在における短期借入債務は350,297百万円であり、長短借入債務の総額（預金は含まない）に占める割合は前連結会計年度末の7%に対し当第2四半期連結会計期間末現在は8%です。

また、当第2四半期連結会計期間末現在における短期借入債務350,297百万円であるのに対し、現金および現金等価物およびコミットメントライン未使用額の合計額は1,218,754百万円であり、十分な水準を維持しています。

##### (b) 長期借入債務

	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
金融機関からの借入	2,430,225	2,500,645
社債	1,128,788	1,063,936
メディアム・ターム・ノート	46,034	48,062
ファイナンス・リースおよび貸付債権等の証券化に伴う支払債務	253,827	237,304
合計	3,858,874	3,849,947

当第2四半期連結会計期間末現在における長期借入債務は3,849,947百万円であり、長短借入債務の総額（預金は含まない）に占める割合は、前連結会計年度末の93%に対し、当第2四半期連結会計期間末現在は92%となっています。またファイナンス・リースおよび貸付債権等の証券化に伴う支払債務の残高を除いた場合の調整後長期借入比率（預金は含まない）は、前連結会計年度末の92%に対し、当第2四半期連結会計期間末現在は91%となっています。この比率は米国会計基準に準拠しない財務指標であり、ファイナンス・リースおよび貸付債権等の証券化に伴う支払債務を控除して算定しています。米国会計基準に準拠した最も直接的に比較できる財務指標との調整表などの詳細につきましては、「(9) 米国会計基準に準拠していない財務指標」をご参照ください。

(c) 預金

	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
預金	1,206,413	1,218,164

前記の長短借入債務に加えて、オリックス銀行株式会社およびORIX Asia Limitedは預金の受け入れを行っています。これらの預金を受け入れている子会社は金融当局および関連法令により規制を受け、当社および子会社への貸付には制限があります。

(4) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末現在の現金および現金等価物（以下、「資金」）は、前連結会計年度末より12,376百万円減少し、814,923百万円になりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べて四半期純利益が増加するとともに、短期売買目的有価証券の売却による収入が増加した一方で、保険契約債務および保険契約者勘定が増加から減少に転じたことや、支払手形および未払金等の減少額が拡大したことに加え、子会社・関連会社株式売却損益および清算損、バーゲン・パーチェス益などを加減した結果、前年同期の218,969百万円から当第2四半期連結累計期間は108,760百万円へ資金流入が減少しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、ロベコを買収した前年同期に比べて子会社買収による支出が減少したことや、売却可能有価証券の売却による収入が増加した一方で、顧客への営業貸付金の実行による支出が増加するとともに、営業貸付金の元本回収による収入が減少したことなどにより、前年同期の110,713百万円から当第2四半期連結累計期間は141,111百万円へ資金流出が増加しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、満期日が3ヶ月超の借入債務による調達が増加した一方で、満期日が3ヶ月以内の借入債務が減少から増加に転じたことや、満期日が3ヶ月超の借入債務の返済が減少したことなどにより、前年同期の230,853百万円の資金流出から当第2四半期連結累計期間は16,571百万円の資金流入となりました。

(5) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、オリックスグループの対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動の金額、その状況

当第2四半期連結累計期間において、オリックスグループの研究開発活動について、重要な変更はありません。

(7) 従業員の状況

当第2四半期連結累計期間において、従業員数は、前連結会計年度末の25,977人に比べて4,270人増加の30,247人となりました。主な理由は事業投資事業部門での企業買収によるものです。

(8) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、著しい変動はありません。

(9) 米国会計基準に準拠していない財務指標

(2) 財政状態の状況および(3) 資金調達および流動性の一部の開示には、米国会計基準に準拠しない(Non-GAAP)財務指標を含んでいます。具体的には、証券化に伴う支払債務(ABS、CMBIS)を控除した総資産および長期借入債務、平成22年4月1日に適用された変動持分事業体(VIE)の連結にかかる会計基準の適用による利益剰余金への累積的影響額を控除した当社株主資本や、さらにそれらを用いて計算したその他の指標を、Non-GAAP財務指標として開示しています。

これらのNon-GAAP財務指標は、平成26年9月30日現在の財政状態を過年度期間と比較する上で意味のある追加的な情報を投資家に提供していると考えています。平成22年4月1日に会計基準書アップデート第2009-16号および2009-17号(以下、「当会計基準」)を適用したことで、特定のVIEを連結することが求められました。当会計基準の適用は、連結財務諸表上の資産および負債の著しい増加と利益剰余金(税効果控除後)の減少をもたらしましたが、これら連結VIEへの投資から得られる正味のキャッシュ・フローや経済的効果は変わりありません。したがって、米国会計基準に準拠して計算された財務情報の補足として、特定のVIEを連結することによる資産・負債への影響を除いた財務指標を提供することは、現在の財政状態の全体的な理解を向上させ、当会計基準の適用による連結貸借対照表の大きな変動を除くこれまでの財務および営業のトレンドを投資家が評価することを可能にしていると考えています。

米国会計基準に準拠した連結財務諸表の補足情報としてNon-GAAP財務指標を提供しています。そのため、Non-GAAP財務指標だけを利用したり、Non-GAAP財務指標をその最も直接的に比較できる米国会計基準に準拠した財務指標の代替指標として利用すべきではありません。これらNon-GAAP財務指標と米国会計基準に準拠した最も直接的に比較することができる財務指標との調整表を本資料で開示された期間について示すと、以下のとおりです。

財務指標	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期 連結会計期間末 (百万円)
総資産 (a)	9,069,392	11,215,063
控除：ファイナンス・リースおよび貸付債権等の 証券化に伴う支払債務 ※	253,827	237,304
調整後総資産 (b)	8,815,565	10,977,759
短期借入債務 (c)	309,591	350,297
長期借入債務 (d)	3,858,874	3,849,947
控除：ファイナンス・リースおよび貸付債権等の 証券化に伴う支払債務 ※	253,827	237,304
調整後長期借入債務 (e)	3,605,047	3,612,643
長短借入債務(預金除く) (f) = (c)+(d)	4,168,465	4,200,244
調整後長短借入債務(預金除く) (g) = (c)+(e)	3,914,638	3,962,940
当社株主資本 (h)	1,918,740	2,036,578
控除：当会計基準の適用に伴う利益剰余金への 累積的影響額	△5,195	△2,993
調整後当社株主資本 (i)	1,923,935	2,039,571
当社株主資本比率 (h) / (a)	21.2%	18.2%
調整後当社株主資本比率 (i) / (b)	21.8%	18.6%
D/E比率(長短借入債務/当社株主資本) (f) / (h)	2.2倍	2.1倍
調整後D/E比率(調整後長短借入債務/調整後当社株主資本) (g) / (i)	2.0倍	1.9倍
長期借入比率 (d) / (f)	93%	92%
調整後長期借入比率 (e) / (g)	92%	91%

※ 連結貸借対照表上、長期借入債務として負債計上されている金額を控除額として用いています。

## (10) 特定金融会社等の開示に関する内閣府令に基づく営業貸付金の状況

「特定金融会社等の開示に関する内閣府令」（平成11年5月19日 大蔵省令第57号）に基づく、提出会社個別における営業貸付金の状況は以下のとおりです。

本項目における数値は、日本会計基準により作成しています。また、貸金業法の規定に該当しない債権838,735百万円を含めて表示しています。

## ① 貸付金の種別残高内訳

平成26年9月30日現在

貸付種別		件数 (件)	構成割合 (%)	残高 (百万円)	構成割合 (%)	平均約定金利 (%)
消費者向	無担保 (住宅向を除く)	—	—	—	—	—
	有担保 (住宅向を除く)	—	—	—	—	—
	住宅向	3,916	28.78	67,123	5.30	1.81
	計	3,916	28.78	67,123	5.30	1.81
事業者向	計	9,691	71.22	1,200,417	94.70	2.17
合計		13,607	100.00	1,267,541	100.00	2.15

## ② 資金調達内訳

平成26年9月30日現在

借入先等	残高 (百万円)	平均調達金利 (%)
金融機関等からの借入	1,630,057	0.98
その他	1,277,176	1.46
(社債・CP)	(1,262,072)	(1.47)
合計	2,907,234	1.17
自己資本	732,520	—
(資本金・出資額)	(220,051)	(—)

(注) 当第2四半期累計期間における貸付金譲渡金額は、4,941百万円です。

## ③ 業種別貸付金残高内訳

平成26年9月30日現在

業種別	先数 (件)	構成割合 (%)	残高 (百万円)	構成割合 (%)
製造業	942	8.71	18,165	1.43
建設業	1,285	11.88	22,938	1.81
電気・ガス・熱供給・水道業	39	0.36	21,800	1.72
運輸・通信業	266	2.46	53,475	4.22
卸売・小売業、飲食店	1,995	18.44	28,493	2.25
金融・保険業	83	0.77	535,742	42.27
不動産業	768	7.10	303,834	23.97
サービス業	2,163	19.99	205,500	16.21
個人	3,163	29.24	67,123	5.30
その他	114	1.05	10,466	0.82
合計	10,818	100.00	1,267,541	100.00

(注) 不動産業には、特別目的会社を債務者とするノンリコースローンを含めて表示しています。

## ④ 担保別貸付金残高内訳

平成26年9月30日現在

受入担保の種類	残高（百万円）	構成割合（%）
有価証券	945	0.07
（うち株式）	(917)	(0.07)
債権	109,400	8.63
（うち預金）	(1,659)	(0.13)
商品	—	—
不動産	266,846	21.05
財団	—	—
その他	45,065	3.56
計	422,258	33.31
保証	100,528	7.93
無担保	744,754	58.76
合計	1,267,541	100.00

（注） 無担保には、関係会社に対する貸付金731,357百万円が含まれています。

## ⑤ 期間別貸付金残高内訳

平成26年9月30日現在

期間別	件数（件）	構成割合（%）	残高（百万円）	構成割合（%）
1年以下	5,368	39.45	168,861	13.32
1年超 5年以下	4,508	33.13	826,275	65.19
5年超 10年以下	1,417	10.41	228,020	17.99
10年超 15年以下	740	5.44	16,823	1.33
15年超 20年以下	502	3.69	14,109	1.11
20年超 25年以下	609	4.48	4,835	0.38
25年超	463	3.40	8,614	0.68
合計	13,607	100.00	1,267,541	100.00
一件当たり平均期間			4.09年	

（注） 期間は、約定期間によっています。

## (11) 特定金融会社等の会計の整理に関する内閣府令に基づく不良債権に関する注記

「特定金融会社等の会計の整理に関する内閣府令」（平成11年5月19日 総理府・大蔵省令第32号）第21条第2項に基づく、前事業年度末および当第2四半期会計期間末現在における、提出会社個別の営業貸付金にかかる不良債権の内訳は以下のとおりです。

本項目における数値は、日本会計基準により作成しています。

	前事業年度末 （百万円）	当第2四半期会計期間末 （百万円）
破綻先債権	5,494	5,453
延滞債権	24,643	21,767
3ヶ月以上延滞債権	695	587
貸出条件緩和債権	18,925	12,640

- （注） 1 破綻先債権とは、相当期間未収が継続するなど未収利息を不計上とすることが認められる貸付金（以下、「未収利息不計上貸付金」）のうち、破産債権、更生債権その他これらに準ずる債権です。
- 2 延滞債権とは、未収利息不計上貸付金のうち、破綻先債権に該当しないものです。
- 3 3ヶ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払いが、約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞している貸付金で、破綻先債権および延滞債権に該当しないものです。
- 4 貸出条件緩和債権とは、当該債権の回収を促進することなどを目的に、金利減免等、債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破綻先債権、延滞債権および3ヶ月以上延滞債権に該当しないものです。



### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,590,000,000
計	2,590,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月13日)	上場金融商品取引所名 または登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,323,639,628	1,323,639,628 ※	東京証券取引所市場第一部 ニューヨーク証券取引所	単元株式数は100株です。
計	1,323,639,628	1,323,639,628	—	—

※ 「提出日現在発行数」には、平成26年11月1日から当四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれていません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	—	1,323,639	—	220,051	—	247,230

## (6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	107,535	8.12
ジェーピーモルガンチェースバンク380055 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	270 PARK AVENUE, NEW YORK, NY 10017, UNITED STATES OF AMERICA (東京都中央区月島4丁目16番13号)	81,559	6.16
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	79,247	5.98
ザチェースマンハッタンバンク385036 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	360 N. CRESCENT DRIVE BEVERLY HILLS, CA 90210 U. S. A. (東京都中央区月島4丁目16番13号)	38,119	2.87
ステートストリートバンクアンドトラスト カンパニー (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	28,739	2.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会 社(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	24,923	1.88
ステートストリートバンクアンドトラスト カンパニー505225 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U. S. A. (東京都中央区月島4丁目16番13号)	22,963	1.73
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロ ンドンエスエルオムニバスアカウント (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島4丁目16番13号)	22,120	1.67
ザバンクオブニューヨークメロンエスエー エヌブイ10 (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	RUE MONTROYERSTRAAT 46, 1000 BRUSSELS, BELGIUM (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	19,461	1.47
CITIBANK, N.A. -NY, AS DEPOSITARY BANK FOR DEPOSITARY SHARE HOLDERS (常任代理人 シティバンク銀行株式会 社)	388 GREENWICH STREET NEW YORK, NY 10013 USA (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	17,624	1.33
計	—	442,293	33.41

(注) 1 信託銀行等の信託業務にかかる株式数については、当社として網羅的に把握することができないため、株主名簿上の名義での保有株式数を記載しています。

2 キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー、キャピタル・インターナショナル・リミテッド、キャピタル・インターナショナル株式会社、キャピタル・ガーディアン・トラスト・カンパニー、キャピタル・インターナショナル・インクの5社による連名の大量保有報告書(変更報告書)の提出が、平成26年5月9日および13日付であり、平成26年4月30日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けましたが、当社としては当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記「(6)大株主の状況」には含めていません。

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合 (%)
キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー	73,629	5.57
キャピタル・インターナショナル・リミテッド	2,849	0.22
キャピタル・インターナショナル株式会社	6,385	0.48
キャピタル・インターナショナル・インク	1,209	0.09
計	84,074	6.36

3 ブラックロック・ジャパン株式会社、ブラックロック・アドバイザーズ・エルエルシー (BlackRock Advisers, LLC)、ブラックロック・ライフ・リミテッド (BlackRock Life Limited)、ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド (BlackRock Asset Management Ireland Limited)、ブラックロック・アドバイザーズ (UK) リミテッド (BlackRock Advisers (UK) Limited)、ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ (BlackRock Fund Advisors)、ブラックロック・インターナショナル・リミテッド (BlackRock International Limited)、ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エヌ．エイ． (BlackRock Institutional Trust Company, N.A.) の8社による連名の大量保有報告書 (変更報告書) の提出が、平成26年8月6日付であり、平成26年7月31日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けましたが、当社としては当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記「(6) 大株主の状況」には含めていません。

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合 (%)
ブラックロック・ジャパン株式会社	14,071	1.06
ブラックロック・アドバイザーズ・エルエルシー (BlackRock Advisers, LLC)	2,724	0.21
ブラックロック・ライフ・リミテッド (BlackRock Life Limited)	3,988	0.30
ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド (BlackRock Asset Management Ireland Limited)	5,754	0.43
ブラックロック・アドバイザーズ (UK) リミテッド (BlackRock Advisers (UK) Limited)	2,373	0.18
ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ (BlackRock Fund Advisors)	13,793	1.04
ブラックロック・インターナショナル・リミテッド (BlackRock International Limited)	2,884	0.22
ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エヌ．エイ． (BlackRock Institutional Trust Company, N.A.)	20,756	1.57
	66,347	5.01

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 13,334,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 588,200	—	—
完全議決権株式 (その他) ※1, 2	普通株式 1,309,517,300	13,095,173	—
単元未満株式 ※1, 3	普通株式 200,128	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	1,323,639,628	—	—
総株主の議決権	—	13,095,173	—

※1 「完全議決権株式 (その他)」欄および「単元未満株式」欄には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ15,800株 (議決権158個) および90株が含まれています。

※2 「完全議決権株式 (その他)」欄の普通株式には、役員報酬BIP信託 (役員報酬制度のうち、将来支給する株式報酬に充当するもの) として保有する当社株式2,153,800株 (議決権21,538個) が含まれています。

※3 単元未満株式には、当社所有の自己株式77株が含まれています。

## ② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合 (%)
(自己保有株式) オリックス株式会社	東京都港区浜松町 2-4-1	13,334,000	—	13,334,000	1.01
(相互保有株式) ワイエムリース株式会社	下関市南部町19-7	150,000	—	150,000	0.01
トモニリース株式会社	高松市亀井町7-1	130,200	—	130,200	0.01
しがぎんリース・ キャピタル株式会社	大津市浜町4-28	60,000	—	60,000	0.00
中銀リース株式会社	岡山市北区丸の内 1-14-17	60,000	—	60,000	0.00
とりぎんリース株式会社	鳥取市扇町9-2	60,000	—	60,000	0.00
百五リース株式会社	津市栄町3-123-1	60,000	—	60,000	0.00
みなとリース株式会社	神戸市中央区伊藤町107-1	36,000	—	36,000	0.00
北銀リース株式会社	富山市荒町2-21	20,000	—	20,000	0.00
ニッセイ・リース 株式会社	東京都千代田区有楽町 1-1-1	12,000	—	12,000	0.00
計	—	13,922,200	—	13,922,200	1.05

## 2 【役員 の 状 況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第2四半期累計期間における役員の変動は、以下のとおりです。

(1) 取締役の状況

当該事項はありません。

(2) 執行役の状況

① 新任執行役

当該事項はありません。

② 退任執行役

当該事項はありません。

③ 役職の変動

新役名および職名	旧役名および職名	氏名	異動年月日
執行役 不動産事業統括本部長 兼 投資事業担 当、スペシャル・インベストメンツグ ループ管掌、融資事業部管掌 オリックス不動産株式会社代表取締役 社長	執行役 不動産事業本部長、スペシャル・イン ベストメンツグループ管掌、融資事業 部管掌 オリックス不動産株式会社代表取締役 社長	益子 哲郎	平成26年7月1日

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」）第95条の規定により、米国において一般に公正妥当と認められた会計基準による用語、様式および作成方法に基づいて作成しています。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）および第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）にかかる四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けています。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

		前連結会計年度末にかかる 要約連結貸借対照表 (平成26年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (平成26年9月30日)
区分	注記番号	金額(百万円)	金額(百万円)
資産の部			
1 現金および現金等価物	※21	827,299	814,923
2 使途制限付現金	※21	86,690	97,985
3 定期預金	※21	7,510	25,280
4 ファイナンス・リース投資	※5, 7, 22	1,094,073	1,145,763
5 営業貸付金 (平成26年3月31日および平成 26年9月30日において、会計基 準編纂書825に基づき公正価値 評価した、それぞれ12,631百万 円および7,616百万円を含む)	※3, 5, 7, 21, 22	2,315,555	2,379,717
6 貸倒引当金	※3, 5, 21	△ 84,796	△ 77,793
7 オペレーティング・リース投資	※3, 17, 22	1,375,686	1,342,156
8 投資有価証券 (平成26年3月31日および平成 26年9月30日において、会計基 準編纂書825に基づき公正価値 評価した、それぞれ11,433百万 円および17,627百万円を含む)	※3, 4, 6, 7, 21, 22	1,214,576	2,985,798
9 その他営業資産	※3, 7, 17, 22	312,774	272,567
10 関連会社投資	※3, 9	314,300	346,590
11 その他受取債権	※3, 19, 20, 21	239,958	298,950
12 棚卸資産	※3	136,105	137,472
13 前払費用		61,909	70,707
14 社用資産		126,397	126,495
15 その他資産 (平成26年9月30日において、 会計基準編纂書825に基づき公 正価値評価した、55,500百万円 を含む)	※3, 4, 22	1,041,356	1,248,453
資産合計		9,069,392	11,215,063

(注) 連結している変動持分事業体の資産のうち当該事業体の債務を決済することのみに使用できるものは、以下のとおりです。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
現金および現金等価物	5,223	3,737
ファイナンス・リース投資(貸倒引当金控除後)	109,642	123,779
営業貸付金(貸倒引当金控除後)	154,901	133,805
オペレーティング・リース投資	227,062	181,437
関連会社投資	11,034	10,627
その他	97,445	105,317
資産合計	605,307	558,702

		前連結会計年度末にかかる 要約連結貸借対照表 (平成26年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (平成26年9月30日)
区分	注記番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
<b>負債の部</b>			
1 短期借入債務	※21, 22	309, 591	350, 297
2 預金	※21	1, 206, 413	1, 218, 164
3 支払手形および未払金等	※3, 19, 20, 21, 22	443, 333	443, 825
4 未払費用		190, 414	192, 118
5 保険契約債務および保険契約者勘定 (平成26年9月30日において、 会計基準編纂書825に基づき公 正価値評価した、 1, 575, 331百万円を含む)	※3, 4, 15	454, 436	2, 408, 656
6 未払法人税等		299, 509	304, 475
7 受入保証金		158, 467	164, 069
8 長期借入債務	※21, 22	3, 858, 874	3, 849, 947
負債合計		6, 921, 037	8, 931, 551
償還可能非支配持分	※10	53, 177	58, 487
契約債務および偶発債務	※22		
<b>資本の部</b>			
I 資本金	※12	219, 546	220, 051
II 資本剰余金	※12	255, 449	255, 827
III 利益剰余金	※12	1, 467, 602	1, 579, 309
IV その他の包括利益累計額	※6, 11, 14, 19	2	8, 673
V 自己株式 (取得価額)	※12	△ 23, 859	△ 27, 282
当社株主資本合計		1, 918, 740	2, 036, 578
VI 非支配持分	※4	176, 438	188, 447
資本合計		2, 095, 178	2, 225, 025
負債・資本合計		9, 069, 392	11, 215, 063

(注) 連結している変動持分事業体の負債のうち債権者または受益権者が当社または子会社の他の資産に対する請求権をもたないものは、以下のとおりです。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
短期借入債務	2, 180	1, 520
支払手形および未払金等	3, 574	4, 276
受入保証金	4, 764	3, 311
長期借入債務	394, 736	349, 921
その他	3, 555	3, 414
負債合計	408, 809	362, 442



## (2) 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

区分	注記番号	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
I 営業収益					
1 ファイナンス・リース収益	※7	28,387		29,825	
2 オペレーティング・リース収益		162,234		171,886	
3 貸付金および有価証券利息	※6, 7, 11, 19	69,752		59,755	
4 有価証券等仲介手数料および売却益	※11, 19	15,318		31,320	
5 生命保険料収入および運用益	※11, 15	75,796		137,939	
6 不動産販売収入		10,976		43,914	
7 賃貸不動産売却益(△損)		△924		9,017	
8 アセットマネジメントおよびサービシング収入		43,517		91,954	
9 商品売上高		34,398		119,682	
10 その他の営業収入	※4, 19	169,649	609,103	249,883	945,175
II 営業費用					
1 支払利息	※11, 19	42,277		36,727	
2 オペレーティング・リース原価		106,497		117,183	
3 生命保険費用	※15	51,326		108,597	
4 不動産販売原価		15,860		45,390	
5 アセットマネジメントおよびサービシング費用		11,837		25,056	
6 商品売上原価		28,032		102,257	
7 その他の営業費用	※19	88,768		167,098	
8 販売費および一般管理費	※4, 13, 14	137,933		194,698	
9 貸倒引当金繰入額	※5	5,229		1,977	
10 長期性資産評価損	※16	11,915		6,783	
11 有価証券評価損	※6, 11	2,003		1,754	
12 為替差損	※11, 19	439	502,116	1,480	809,000
営業利益			106,987		136,175
持分法投資損益	※9		10,527		10,211
子会社・関連会社株式売却損益および清算損	※4, 9, 11, 19		4,617		19,857
バーゲン・パーチェス益	※4		-		36,761
税引前四半期純利益			122,131		203,004
法人税等			44,213		55,673
継続事業からの利益			77,918		147,331
非継続事業からの損益					
非継続事業からの損益	※16, 17		9,995		463
法人税等			△3,868		△166
非継続事業からの損益(税効果控除後)			6,127		297
四半期純利益			84,045		147,628
非支配持分に帰属する四半期純利益			2,217		3,494
償還可能非支配持分に帰属する四半期純利益	※10		1,420		2,028
当社株主に帰属する四半期純利益			80,408		142,106

- (注) 1 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書(以下、「会計基準編纂書」)205-20(財務諸表の表示-非継続事業)に従い、非継続事業にかかる損益を独立表示するとともに、当該事業にかかる過年度の損益を組替再表示しています。
- 2 平成26年4月1日より、会計基準書アップデート第2014-08号(非継続事業の財務報告および企業の構成単位の処分に関する開示-会計基準編纂書205(財務諸表の表示)および会計基準編纂書360(有形固定資産))を早期適用し、当第1四半期連結累計期間より、このアップデートに従い、非継続事業からの損益を表示しています。ただし、当第2四半期連結累計期間において、このアップデートの適用日以前の構成単位または構成単位グループの処分または売却予定への分類は、このアップデートの適用対象ではないため、改正前の会計基準編纂書205-20に従い、非継続事業からの損益を表示しています。
- 3 当第2四半期連結会計期間より、商品売買にかかる売上および原価を「商品売上高」および「商品売上原価」として独立して表示しています。これに伴い前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、当第2四半期連結累計期間の表示に合わせて、一部の金額について表示区分の変更を行っています。

当社株主に帰属する利益:	※18		
継続事業からの利益		74,284	141,809
非継続事業からの損益		6,124	297
当社株主に帰属する四半期純利益		80,408	142,106
1株当たり当社株主に帰属する利益:	※18		
基本的			
継続事業からの利益(円)		59.74	108.27
非継続事業からの損益(円)		4.93	0.23
当社株主に帰属する四半期純利益(円)		64.67	108.50
希薄化後			
継続事業からの利益(円)		57.16	108.11
非継続事業からの損益(円)		4.70	0.23
当社株主に帰属する四半期純利益(円)		61.86	108.34

【第2四半期連結会計期間】

区分	注記番号	前第2四半期連結会計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)	
		金額 (百万円)		金額 (百万円)	
<b>I 営業収益</b>					
1 ファイナンス・リース収益	※7	14,145		14,591	
2 オペレーティング・リース収益		81,930		87,513	
3 貸付金および有価証券利息	※6, 7, 11, 19	32,466		29,833	
4 有価証券等仲介手数料および売却益	※11, 19	7,768		7,411	
5 生命保険料収入および運用益	※11, 15	38,278		97,511	
6 不動産販売収入		9,248		11,802	
7 賃貸不動産売却益 (△損)		△988		2,745	
8 アセットマネジメントおよびサービシング収入		38,629		47,735	
9 商品売上高		24,231		78,373	
10 その他の営業収入	※4, 19	87,324	333,031	129,918	507,432
<b>II 営業費用</b>					
1 支払利息	※11, 19	19,433		17,988	
2 オペレーティング・リース原価		54,308		60,075	
3 生命保険費用	※15	27,362		81,311	
4 不動産販売原価		10,767		15,317	
5 アセットマネジメントおよびサービシング費用		11,664		12,747	
6 商品売上原価		19,694		67,217	
7 その他の営業費用	※19	46,409		90,875	
8 販売費および一般管理費	※4, 13, 14	77,977		103,768	
9 貸倒引当金繰入額	※5	2,881		1,726	
10 長期性資産評価損	※16	9,144		4,045	
11 有価証券評価損	※6, 11	1,315		1,654	
12 為替差損	※11, 19	120	281,074	936	457,659
営業利益			51,957		49,773
持分法投資損益	※9		6,595		5,145
子会社・関連会社株式売却損益および清算損	※9, 11, 19		1,651		9
バーゲン・パーチェス益	※4		-		36,761
税引前四半期純利益			60,203		91,688
法人税等			23,259		16,757
継続事業からの利益			36,944		74,931
非継続事業からの損益	※16, 17				
非継続事業からの損益			1,750		362
法人税等			△679		△130
非継続事業からの損益 (税効果控除後)			1,071		232
四半期純利益			38,015		75,163
非支配持分に帰属する四半期純利益			1,863		621
償還可能非支配持分に帰属する四半期純利益	※10		751		1,041
当社株主に帰属する四半期純利益			35,401		73,501

- (注) 1 会計基準編纂書205-20(財務諸表の表示-非継続事業)に従い、非継続事業にかかる損益を独立表示するとともに、当該事業にかかる過年度の損益を組替再表示しています。
- 2 平成26年4月1日より、会計基準書アップデート第2014-08号(非継続事業の財務報告および企業の構成単位の処分に関する開示-会計基準編纂書205(財務諸表の表示)および会計基準編纂書360(有形固定資産))を早期適用し、当第1四半期連結累計期間より、このアップデートに従い、非継続事業からの損益を表示しています。ただし、当第2四半期連結会計期間において、このアップデートの適用日以前の構成単位または構成単位グループの処分または売却予定への分類は、このアップデートの適用対象ではないため、改正前の会計基準編纂書205-20に従い、非継続事業からの損益を表示しています。
- 3 当第2四半期連結会計期間より、商品売買にかかる売上および原価を「商品売上高」および「商品売上原価」として独立して表示しています。これに伴い前第2四半期連結会計期間の四半期連結損益計算書は、当第2四半期連結会計期間の表示に合わせて、一部の金額について表示区分の変更を行っています。

当社株主に帰属する利益：	※18		
継続事業からの利益		34,332	73,269
非継続事業からの損益		1,069	232
当社株主に帰属する四半期純利益		35,401	73,501
<b>I 株当たり当社株主に帰属する四半期純利益：</b>	※18		
基本的			
継続事業からの利益 (円)		27.34	55.94
非継続事業からの損益 (円)		0.85	0.18
当社株主に帰属する四半期純利益 (円)		28.19	56.12
希薄化後			
継続事業からの利益 (円)		26.32	55.86
非継続事業からの損益 (円)		0.81	0.18
当社株主に帰属する四半期純利益 (円)		27.13	56.04

## (3) 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
区分	金額 (百万円)	金額 (百万円)
四半期純利益	84,045	147,628
その他の包括利益 (△損失)		
未実現有価証券評価損益	6,422	△2,786
確定給付年金制度	△342	233
為替換算調整勘定	2,478	15,307
未実現デリバティブ評価損益	1,033	△62
その他の包括利益 計	9,591	12,692
四半期包括利益	93,636	160,320
非支配持分に帰属する四半期包括利益	5,008	4,091
償還可能非支配持分に帰属する四半期包括利益	3,060	5,452
当社株主に帰属する四半期包括利益	85,568	150,777

## 【第2四半期連結会計期間】

	前第2四半期連結会計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)
区分	金額 (百万円)	金額 (百万円)
四半期純利益	38,015	75,163
その他の包括利益 (△損失)		
未実現有価証券評価損益	6,107	3,313
確定給付年金制度	△277	323
為替換算調整勘定	△7,101	26,280
未実現デリバティブ評価損益	483	220
その他の包括利益 (△損失) 計	△788	30,136
四半期包括利益	37,227	105,299
非支配持分に帰属する四半期包括利益	3,239	3,312
償還可能非支配持分に帰属する四半期包括利益	409	5,270
当社株主に帰属する四半期包括利益	33,579	96,717

## (4) 【四半期連結資本変動計算書】

前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)								
	当社株主資本					当社株主 資本合計 (百万円)	非支配持分 (百万円)	資本合計 (百万円)
	資本金 (百万円)	資本剰余金 (百万円)	利益剰余金 (百万円)	その他の 包括利益 累計額 (百万円)	自己株式 (百万円)			
平成25年3月31日残高	194,039	229,600	1,305,044	△36,263	△48,824	1,643,596	43,977	1,687,573
子会社への出資						—	2,166	2,166
非支配持分との取引		24				24	△582	△558
四半期包括利益								
四半期純利益			80,408			80,408	2,217	82,625
その他の包括利益(△損失)								
未実現有価証券評価損益				5,991		5,991	431	6,422
確定給付年金制度				△346		△346	4	△342
為替換算調整勘定				△1,500		△1,500	2,338	838
未実現デリバティブ評価損益				1,015		1,015	18	1,033
その他の包括利益 計						5,160	2,791	7,951
四半期包括利益 計						85,568	5,008	90,576
配当金			△15,878			△15,878	△1,356	△17,234
転換社債の株式への転換による増加額	13,307	13,086				26,393	—	26,393
ストックオプションの権利行使による増加額	230	218				448	—	448
自己株式の取得による増加額					△8	△8	—	△8
ロベコ買収による影響額			△5,471		24,880	19,409	25,607	45,016
その他の増減		104	△134		104	74	—	74
平成25年9月30日残高	207,576	243,032	1,363,969	△31,103	△23,848	1,759,626	74,820	1,834,446

当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)								
	当社株主資本					当社株主 資本合計 (百万円)	非支配持分 (百万円)	資本合計 (百万円)
	資本金 (百万円)	資本剰余金 (百万円)	利益剰余金 (百万円)	その他の 包括利益 累計額 (百万円)	自己株式 (百万円)			
平成26年3月31日残高	219,546	255,449	1,467,602	2	△23,859	1,918,740	176,438	2,095,178
子会社への出資						—	23,585	23,585
非支配持分との取引		39				39	△13,675	△13,636
四半期包括利益								
四半期純利益			142,106			142,106	3,494	145,600
その他の包括利益(△損失)								
未実現有価証券評価損益				△3,352		△3,352	566	△2,786
確定給付年金制度				101		101	132	233
為替換算調整勘定				11,942		11,942	△59	11,883
未実現デリバティブ評価損益				△20		△20	△42	△62
その他の包括利益 計						8,671	597	9,268
四半期包括利益 計						150,777	4,091	154,868
配当金			△30,117			△30,117	△1,992	△32,109
ストックオプションの権利行使による増加額	505	491				996	—	996
自己株式の取得による増加額					△3,423	△3,423	—	△3,423
その他の増減		△152	△282			△434	—	△434
平成26年9月30日残高	220,051	255,827	1,579,309	8,673	△27,282	2,036,578	188,447	2,225,025

上記の四半期連結資本変動計算書には、償還可能非支配持分の変動は含まれていません。詳細につきましては、注記10「償還可能非支配持分」をご参照ください。

## (5) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
区分	金額(百万円)	金額(百万円)
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー:</b>		
四半期純利益	84,045	147,628
営業活動から得た現金(純額)への四半期純利益の調整:		
減価償却費・その他償却費	99,458	109,601
貸倒引当金繰入額	5,229	1,977
持分法投資損益(貸付利息を除く)	△10,421	△10,092
子会社・関連会社株式売却損益および清算損 バーゲン・パーチェス益	△4,617	△19,857
	—	△36,761
売却可能有価証券の売却益	△11,793	△19,160
賃貸不動産売却損益	924	△9,017
賃貸不動産以外のオペレーティング・リース資産の売却益	△9,427	△9,886
長期性資産評価損	11,915	6,783
有価証券評価損	2,003	1,754
使途制限付現金の減少(増加)	14,478	△9,878
短期売買目的有価証券の減少	6,898	168,438
棚卸資産の減少	10,305	7,344
その他受取債権の減少(増加)	7,060	△24,565
支払手形および未払金等の減少	△124	△37,752
未払費用の減少	△10,502	△1,302
保険契約債務および保険契約者勘定の増加(減少)	12,154	△171,037
その他の増減(純額)	11,384	14,542
営業活動から得た現金(純額)	218,969	108,760
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー:</b>		
リース資産の購入	△428,197	△417,745
ファイナンス・リース投資の回収	230,028	231,315
顧客への営業貸付金の実行	△465,310	△564,920
営業貸付金の元本回収	688,509	506,353
オペレーティング・リース資産の売却	101,244	131,540
関連会社への投資(純額)	△52,272	△28,647
関連会社投資の売却	15,116	7,320
売却可能有価証券の購入	△489,267	△563,590
売却可能有価証券の売却	209,437	326,113
売却可能有価証券の償還	275,509	244,019
満期保有目的有価証券の購入	△2,622	△230
その他の有価証券の購入	△9,074	△18,048
その他の有価証券の売却	8,828	23,577
その他営業資産の購入	△11,841	△29,111
子会社買収(取得時現金控除後)	△193,970	△19,115
子会社売却(売却時現金控除後)	—	47,600
その他の増減(純額)	13,169	△17,542
投資活動に使用した現金(純額)	△110,713	△141,111
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー:</b>		
満期日が3ヶ月以内の借入債務の増加(減少)(純額)	△95,299	36,338
満期日が3ヶ月超の借入債務による調達	715,675	613,868
満期日が3ヶ月超の借入債務の返済	△862,174	△621,993
預金の受入の増加(純額)	30,986	11,735
親会社による配当金の支払	△15,878	△30,117
コールマネーの増加(減少)(純額)	△5,000	10,000
その他の増減(純額)	837	△3,260
財務活動から得た(に使用した)現金(純額)	△230,853	16,571
<b>IV 現金および現金等価物に対する為替相場変動の影響額</b>	2,590	3,404
<b>V 現金および現金等価物減少額(純額)</b>	△120,007	△12,376
<b>VI 現金および現金等価物期首残高</b>	826,296	827,299
<b>VII 現金および現金等価物期末残高</b>	706,289	814,923

1 会計処理の原則および手続ならびに四半期連結財務諸表の表示方法

この四半期連結財務諸表は、米国預託証券の発行等に関して要請されている会計処理の原則および手続ならびに表示方法について、株式分割の会計処理（2(n)参照）を除き米国において一般に公正妥当と認められた会計原則（米国財務会計基準審議会会計基準編纂書（以下、「会計基準編纂書」）等）によって作成しています。

当社は、平成10年9月にニューヨーク証券取引所に上場して以来、米国預託証券の発行等に関して要請されている用語、様式および作成方法により作成した連結財務諸表を含めた年次報告書を米国証券取引委員会に登録しています。

なお、当社が採用している会計処理の原則および手続ならびに表示方法のうち、わが国の四半期連結財務諸表作成基準および四半期連結財務諸表規則に準拠した場合と異なるもので主要なものは以下のとおりです。

(a) 初期直接費用

米国会計基準では、ファイナンス・リースおよび貸付実行に伴う初期直接費用は、繰延経理を行い、実行時の利回りに対する修正として、契約期間にわたって利息法により配分しています。

日本会計基準では、発生時に費用処理することとなっています。

(b) オペレーティング・リースの会計処理

米国会計基準では、オペレーティング・リース収益は契約期間にわたって定額で認識しています。またオペレーティング・リース資産は、主として見積耐用年数を償却期間とした定額法により減価償却を行っています。

日本会計基準では、定率法等による償却も認められています。

(c) 生命保険の会計処理

米国会計基準では、会計基準編纂書944(金融サービスー保険)に基づき、新規保険契約の獲得もしくは保険契約の更新に直接的に関連する費用を繰り延べ、保険料収入の認識に応じた期間で償却しています。

日本会計基準では、これらの費用は、発生年度の期間費用として処理することとなっています。

また、米国会計基準では、将来保険給付債務は、予想される将来の保険加入者への保険給付金に基づく平準純保険料方式によって算出していますが、日本会計基準では行政監督庁の認める方式により算定しています。

(d) 企業結合における営業権およびその他の無形資産に関する処理

米国会計基準では、営業権および耐用年数が確定できない無形資産は償却をせず、少なくとも年1回の減損テストを行っています。また、減損の可能性を示す事象または状況の変化が起きた場合、発生した時点において減損テストを行っています。

日本会計基準では、営業権（のれん）は20年以内の適切な償却期間を設定し償却を行うこととなっています。

(e) 年金会計

米国会計基準では、会計基準編纂書715(報酬ー退職給付)を適用し、年金数理計算に基づく年金費用を計上しています。年金数理上の純利益および純損失についてはコリドー方式を採用して償却処理しています。

日本会計基準では、年金数理計算上の差異は平均残存勤務期間内の一定の年数で全額償却することとなっています。

(f) 非継続事業からの損益の表示

米国会計基準では、会計基準編纂書205-20(財務諸表の表示ー非継続事業)に基づき、非継続事業と判定された事業の営業損益および処分損益は、連結損益計算書において継続事業からの利益の後に税効果控除後の金額で区分表示しています。当社は、非継続事業に該当した事業に関し、過年度の連結損益計算書および連結キャッシュ・フロー計算書を一部組替えて表示しています。

日本会計基準では、非継続事業からの損益の表示に関する規定はなく、継続事業と区分して表示はしません。

(g) 連結損益計算書における当期純利益の表示

米国会計基準では、当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益および非支配持分に帰属する当期純利益で構成され、それぞれを連結損益計算書上において独立項目として表示しています。

日本会計基準では、当期純利益に少数株主持分に帰属する利益は含まれていません。

(h) 子会社持分の一部取得および一部売却

米国会計基準では、子会社の支配を維持したままでの保有持分の売却および追加取得は資本取引として処理しています。また、支配の喪失を伴う保有持分の一部売却においては、売却された持分に関連する実現損益および継続して保有する持分の公正価値の再測定による損益が認識されます。

日本会計基準では、子会社の支配を維持したままの保有持分の売却は損益取引として処理し、追加取得は企業結合として処理することとなっています。また、支配の喪失を伴う保有持分の一部売却においては、売却された持分に関連する実現損益のみが認識され、継続保有する持分の再測定による損益は認識されません。

(i) キャッシュ・フロー計算書における区分

米国会計基準では、会計基準編纂書230(キャッシュ・フロー計算書)に基づき、キャッシュ・フロー区分が日本会計基準と異なっています。重要なものはリース資産の購入およびファイナンス・リース投資の回収、オペレーティング・リース資産の売却、顧客への営業貸付金の実行および元本回収(売却予定の営業貸付金の実行および元本回収は除く)であり、「投資活動によるキャッシュ・フロー」に含まれています。

日本会計基準においては、これらは「営業活動によるキャッシュ・フロー」に区分することとなっています。

(j) 金融資産の証券化

米国会計基準では、証券化で利用されるSPEについて変動持分事業体に適用される連結の検討を行うことが要求されています。検討の結果、連結対象と判断されたSPEに対して証券化を目的として金融資産を譲渡した場合、当該金融資産は売却処理されず、当該金融資産を裏付けとした借入処理を適用します。

日本会計基準では、一定の要件を満たす特別目的会社は、資産の譲渡人の子会社に該当しないものと推定することができます。このような特別目的会社に該当するSPEに対して証券化を目的として金融資産を譲渡した場合には、当該SPEは連結されず、譲渡人は金融資産に対する支配が他に移転した時点で当該金融資産を売却処理し、譲渡損益を認識します。

(k) 公正価値オプション

米国会計基準では、公正価値オプションを事前に選択することで、特定の金融資産および負債を公正価値で当初認識し、その後の公正価値の変動を連結損益計算書上で認識することが認められています。

日本基準では公正価値オプションの規定はありません。

## 2 重要な会計方針

(a) 連結の方針

この四半期連結財務諸表は当社およびすべての子会社を連結の範囲に含めています。20%以上50%以下の持分比率を有する、あるいは重要な影響力を行使しうる関連会社についてはすべて持分法を適用しています。なお、議決権の過半数を所有しているにもかかわらず、非支配株主が通常の事業活動における意思決定に対して重要な参加権を持つ場合、会計基準編纂書810-10-25-2から14(連結—非支配株主の権利の影響)に従い、持分法を適用しています。また、会計基準編纂書810(連結)に従い、当社および子会社が主たる受益者である変動持分事業体を連結の範囲に含めています。

一部の子会社および関連会社には、継続的に3ヶ月以内の決算日の異なる財務諸表を用いています。

連結にあたり連結会社間のすべての重要な債権・債務および取引は消去しています。

(b) 見積もり

一般に公正妥当と認められた会計基準に基づく四半期連結財務諸表の作成においては、期末日の資産・負債の金額および決算期の収益・費用の金額に影響を与える見積もりや推定の結果を用いています。実際の数値はこれら見積もりの数値と異なる可能性があります。当社は以下の10の範囲において見積もりが特に四半期連結財務諸表に重要な影響を与えると考えています。それらは、公正価値測定における評価技法の選択および前提条件の決定(注記3「公正価値測定」参照)、ファイナンス・リースおよびオペレーティング・リースの見積残存価値の決定および再評価((d)参照)、保険契約債務および繰延募集費用の決定および再評価((e)参照)、貸倒引当金の決定((f)参照)、長期性資産の減損の決定((g)参照)、投資有価証券の評価損の決定((h)参照)、繰延税金資産の評価性引当金の決定およびタックス・ポジションの評価((i)参照)、デリバティブを用いたヘッジ取引の有効性判定および測定((k)参照)、給付債務および期間純年金費用の決定((l)参照)、営業権および耐用年数を確定できない無形資産の減損の決定((w)参照)です。

(c) 外貨換算の方法

当社および子会社は、それぞれの機能通貨をもって会計処理を行っています。外貨建ての取引は、取引日の為替相場によって機能通貨に換算しています。

海外子会社および関連会社の財務諸表項目の換算について、すべての資産および負債は各年度の期末日の為替相場により円貨に換算し、収益および費用については期中の平均為替相場によって円貨に換算しています。海外の子会社および関連会社の取引通貨を各社の機能通貨として認識しています。外貨建ての財務諸表の円換算に関して発生した換算差額は為替換算調整勘定としてその他の包括利益累計額に計上しています。

(d) 収益の認識基準

契約の確実な証憑が存在し、サービスまたは商品の提供が完了し、取引価格が決定し、かつ、代金の回収可能性が高いときに、収益を認識します。

上述の一般的な収益認識方針に加えて、下記で説明されている方針を主な収益項目のそれぞれについて適用しています。

リース

当社および子会社はファイナンス・リース契約およびオペレーティング・リース契約のもとで顧客に様々な資産をリースしています。ファイナンス・リース契約またはオペレーティング・リース契約の分類は、契約条件に依存することになります。ファイナンス・リースおよびオペレーティング・リースに適用される収益の認識基準は以下に記載しています。リースサービスを提供するときには、当社および子会社は、レシー（賃借人）の代わりにリース資産にかかる保険料や税金の支払い等の補足的なサービスを実行します。また、自動車メンテナンスサービスもレシー（賃借人）に提供しています。リース契約および関連するメンテナンス契約条件に従い、当社および子会社に、費用削減や費用増加による支出の変動が帰属する場合には、売上および原価を総額で表示しています。しかし、当社および子会社が所有に伴う実質的なリスクや便益を有していない契約では、当社および子会社はレシー（賃借人）から回収を行い、第三者へ支払いを送金する代理人とみなされます。この場合、売上は第三者への費用を相殺した純額で表示しています。自動車メンテナンスサービスからの売上は、見積費用の割合に応じて契約期間にわたって連結損益計算書のその他の営業収入に計上しています。

(1) ファイナンス・リースの収益認識基準

ファイナンス・リース取引はOA機器をはじめ、産業機械、輸送用機器など様々な物件のリースからなり、リース期間中に投下元本を全額回収する契約です。ファイナンス・リースではリース料総額に見積残存価額を加え、リース資産の購入代金を差し引いた額を未実現リース益として、リース期間にわたって利息法により収益計上しています。見積残存価額はリース期間終了時の物件の処分により見込まれる売却額です。見積残存価額は、中古物件の市場価額、陳腐化する時期、程度についての見積もりおよび類似する中古資産におけるこれまでの回収実績に基づいて決定されています。リース実行に関わる初期直接費用は、繰延経理を行い、実行時の利回りに対する修正としてリース期間にわたって利息法により配分しています。初期直接費用の未償却残高は、ファイナンス・リース投資に計上しています。

(2) オペレーティング・リースの収益認識基準

オペレーティング・リース収益は契約期間にわたって定額で認識しています。オペレーティング・リース投資は減価償却累計額控除後の価額で計上しています。前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、減価償却累計額をそれぞれ449,435百万円および476,946百万円計上しています。また、オペレーティング・リース資産は主として見積耐用年数を償却期間とした定額法により減価償却を行い、減価償却費はオペレーティング・リース原価に含まれています。オペレーティング・リース資産（賃貸不動産を除く）を処分することにより発生する損益は、オペレーティング・リース収益に含めて計上しています。商業ビルのような賃貸不動産の処分について、当社または子会社は、その資産の管理・運営等への関与のような形で、不動産から生じるキャッシュ・フローの一部を得る権利を保持しているものもあります。

見積残存価額は、中古物件の市場価額、陳腐化する時期、程度についての見積もりおよび類似する中古資産におけるこれまでの回収実績に基づいて決定されています。



## 営業貸付金

営業貸付金の利息収入は、発生主義により認識しています。また、貸付実行に係わる初期直接費用と取組手数料収入を相殺して繰延経理し、実行時の利回りに対する修正として貸付の契約期間にわたって利息法により配分しています。買取債権以外の減損した営業貸付金から生じる利息回収額は、貸付元本残高に回収可能性があると見込まれる場合は利息収入として計上し、回収可能性が乏しい場合は、貸付元本の回収額として処理しています。また、買取債権は法的には貸付債権として保有されますが、債務不履行の状態にある債権は通常の回収手段により回収することは期待できず、買い取り後の担保の回収にあたっては個別の方策が必要とされるため、回収額、回収時期、回収方法を合理的に見積もることはできません。このため、買取債権については減損の有無にかかわらず原価回収基準による方法で収益認識を行っています。

## 収益計上停止の方針

すべてのクラスに共通して、ファイナンス・リースおよび営業貸付金については、元本または利息が支払期日より30日以上経過しても回収されない債権を、支払期日経過債権として認識しています。なお、支払条件を緩和した債権について、緩和後の条件に従い、元本または利息の未収期間が支払期日より30日以上経過していない債権は、支払期日経過債権に含めていません。支払期日経過債権のうち90日以上経過しても回収されない場合、またはそれ以前であっても個々の顧客の信用状況、および過去の償却実績、未収およびその発生状況などの要因に基づいて経営陣が回収可能性に懸念があると判断した場合は、収益の計上を停止しています。未回収の発生利息は、連結貸借対照表上、ファイナンス・リース投資または営業貸付金に計上され、貸倒引当金の設定対象となります。収益計上停止対象となった債権から現金回収があった場合には、契約条件や債務者の状況等を考慮して、先ず未収利息に充当し残余を元本に充当しています。また、一定額が継続的に入金されるなど、約定に従った元本の返済の可能性が高くなったと判断した場合、ファイナンス・リースおよび営業貸付金の収益計上を再開しています。収益計上を再開するまでに必要となる継続的な入金期間は、債務者の事業特性や財政状態、経済環境およびトレンドなど、その債務者の支払能力を評価するときに考慮される諸状況に応じて変わります。

## 有価証券等仲介手数料および売却益

有価証券等仲介手数料および売却益は、約定日に収益計上しています。

## 不動産販売

不動産販売による収益は、契約の締結および引き渡しが行われ、買い手の初期投資および継続投資額が不動産代金の全額を支払う確約を示すのに十分であり、そして当社および子会社が実質的に対象不動産に継続関与しなくなった時点で、認識しています。

## アセットマネジメントおよびサービシング収入

当社および子会社は金融商品の運用、不動産等の運用および維持管理サービスを顧客に提供しています。また当社および子会社は、顧客に代わって貸付金等の回収業務を行っています。当社および子会社は顧客に提供する資産運用や回収業務サービスの対価として手数料を得ています。アセットマネジメントやサービシングによって得られる収益は、取引が実行されるかサービスが提供され、金額が確定または決定可能となりその回収可能性について合理的な確証が得られた場合、連結損益計算書上アセットマネジメントおよびサービシング収入として認識しています。パフォーマンスフィーによって得られる収益はファンドの業績に基づき収益が獲得された時に、またはサービス提供期間にわたり発生主義で認識しています。

アセットマネジメントおよびサービシング収入には、主に投資運用サービスによって得られるマネジメントフィーおよびパフォーマンスフィーを計上しています。マネジメントフィーは、管理している投資ファンドの純資産または運用資産の市場価値に契約上定められた率を乗じて計算しています。パフォーマンスフィーは、運用資産の運用実績に契約上定められた率を乗じて計算しています。

## 商品売上高

当社および一部の子会社は、貴金属、住宅・建築用断熱材、自動車部品および装飾品等の販売をしています。商品販売によって得られる収益は、取引を裏付ける説得力のある証拠があり、商品が移転され、回収可能性に合理的な確証が得られた時点で認識しています。商品の移転は、所有権及び所有に関わるリスクと便益が実質的に顧客に移転した時点で認識しています。また、予想される返品およびセールス・インセンティブを控除して売上を計上しています。

(e) 保険取引および再保険取引

生命保険契約の収入は支払期日に収益認識し、支払再保険料を控除した金額で計上しています。

生命保険給付金は保険事故が発生した時点で費用として認識します。将来保険給付債務は、予想される将来の保険加入者への保険給付金に基づく平準純保険料方式によって算出しています。保険契約は長期契約に分類され、主に終身保険、定期保険、養老保険、医療保険および個人年金保険契約等から構成されています。個人年金保険以外の保険契約において必要とされる保険契約債務の算出には、保険契約締結時における死亡率、罹病率、契約脱退率、将来投資利回りおよびその他要素に関する見積もりを反映しています。当社の一部の生命保険子会社は継続的に保険契約債務の計算に用いた見積もりや仮定の変化の可能性を再評価し、これらの再評価を認識済みの給付債務の修正、保険契約引受基準および募集の調整に反映しています。

当社の子会社の一部が取り扱っている保険契約には、変額年金保険契約および変額保険契約ならびに定額年金保険契約があります。変額年金保険契約者および変額保険契約者のために運用する資産は、主に持分証券であり連結貸借対照表上投資有価証券に計上しています。運用資産は公正価値評価し、その売却損益および評価損益は連結損益計算書上、生命保険料収入および運用益に計上しています。当社の子会社は、変額年金保険契約および変額保険契約について、会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを選択し、公正価値の変動により生じた損益を生命保険費用に計上しています。

当社の子会社は、変額年金保険契約および変額保険契約に関して最低保証を行っており、契約上定められた最低給付額を保険契約者に履行するリスクを有しています。そのようなリスクを回避するため、変額年金保険契約および変額保険契約に係る最低保証部分の一部を再保険会社に出再するとともに、再保険でカバーされていないリスクについては、経済的ヘッジを行っています(注記19「デリバティブとヘッジ活動」参照)。再保険によって、保険契約者への契約上の義務が消滅又は第一次債務者の地位から免責されるものではなく、再保険会社の債務不履行により、損失が発生する可能性があります。当社の子会社は、変額年金保険契約および変額保険契約の再保険契約に係る再保険貸について、会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを選択し、連結貸借対照表上、その他資産に含めて表示しています。

定額年金保険契約については、積立金部分に予定利回りに基づく利息額および子会社の買収に関連した公正価値の調整額を加え、契約者の引出額、費用およびその他手数料を差し引くことで保険契約債務および保険契約者勘定を算出しています。当該利息額は、生命保険費用に計上しています。

会計基準編纂書944(金融サービス—保険)は、新規保険契約の獲得もしくは保険契約の更新に直接的に関連する費用を繰延べ、保険料収入の認識に応じた期間で償却することを要求しています。繰延募集費用は、主に保険契約維持費を除く実質的な初年度委託手数料および保険引受費用です。

(f) 貸倒引当金

貸倒引当金は、ファイナンス・リース投資および営業貸付金に内在された今後発生する可能性のある損失について、経営陣の判断により十分な引当てを行っています。貸倒引当金は貸倒引当金繰入によって増加し、貸倒処理に伴う取崩により減少します。

貸倒引当金の設定は多数の見積もりと判断に左右されます。貸倒引当金の設定にあたって、債務者の事業特性と財政状態、経済状況およびそのトレンド、過去の貸倒償却実績、未収状況および過去のトレンド、ファイナンス・リース投資および営業貸付金の将来キャッシュ・フロー、債権に対する担保および保証の価値など、様々な要素を斟酌しています。

営業貸付金のうち減損しているものについては、将来キャッシュ・フローの現在価値、債権の観察可能な市場価値または担保依存のものは担保の公正価値に基づいて個別に貸倒引当金を計上し、また、減損していない営業貸付金(個別に減損判定を行わないものを含む)およびファイナンス・リース投資については、債務者の業種や資金用途による区分を行い、当該区分ごとに過去の貸倒実績率を算出し、その貸倒実績率と現在の経済状況等を勘案し見積もった貸倒見込みに基づいて貸倒引当金を計上しています。

なお、債務者の財政状態および担保資産の処分状況等から将来の回収可能性がほとんどないと判断した場合には、当該債権を償却しています。

(g) 長期性資産の減損

当社および子会社は会計基準編纂書360(有形固定資産)を適用しています。会計基準編纂書360では、オフィスビル、賃貸マンション、ゴルフ場やその他の営業資産をはじめとした使用目的で保有している有形固定資産や償却対象となる無形資産を含む長期性資産について、当該資産が減損していることを示唆する状況や環境の変化が生じた場合、回収可能性の判定を行うこととなっています。そのため、当該資産から生じる割引前見積将来キャッシュ・フローが帳簿価値より低い場合は回収が困難であるとみなし、公正価値が帳簿価値より低い場合には公正価値まで評価減しています。公正価値については、状況に応じて、同種の資産の売却を含む最近の取引事例やその他の評価技法、例えば稼働中の既存資産または開発プロジェクトの完成により生み出されると見積もられる将来キャッシュ・フローを使った割引現在価値法などに基づき、独立した鑑定機関や内部の不動産鑑定士によって評価しています。

(h) 投資有価証券

短期売買目的有価証券は時価評価し、その評価損益は期間損益に含めて計上しています。

売却可能有価証券は時価評価し、未実現評価損益は税効果控除後の金額でその他の包括利益累計額に計上、もしくは会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを選択した投資については公正価値評価し、その評価損益は期間損益に含めて計上しています。

満期保有目的有価証券は償却原価により計上しています。

その他の有価証券は原価または持分に応じた損益取込みを行った帳簿価額にて計上、もしくは会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを選択した投資については公正価値評価し、その評価損益は期間損益に含めて計上しています。

売却可能有価証券については、原則として持分証券の公正価額が取得原価(または過去に評価減を計上した場合、評価減後の帳簿価額)を著しく下回る期間が6ヶ月を超えて継続した場合に、当該評価損を期間損益に含めて計上しています。また、その期間が6ヶ月を超えていない場合においても、公正価額の下落が発行者の経営状態に基づくもので、単に株式市場全般の下落に伴うものではないため、その公正価額が6ヶ月以内に回復不能と考えられる場合には評価損を計上しています。

負債証券については、負債証券の公正価値が償却原価を下回っている場合、回収可能性に関するすべての利用可能な情報をもとに減損が一時的でないか否かの判断をしています。判断をするにあたり、(1)売却意図がなく、(2)公正価値が償却原価まで回復する前に売却しなければならない可能性が50%超でなく、(3)回収見込みキャッシュ・フローの現在価値により償却原価全額を十分に回収できるという条件をすべて満たした場合は、一時的でない減損は生じていないとしています。一方で、上記の3つの条件のいずれかを満たさない場合には、一時的でない減損が生じているとしています。一時的でない減損が生じている負債証券につき、売却する意図があるか、あるいは、当期に生じた信用損失を控除後の償却原価まで公正価値が回復する前に当該負債証券を売却しなければならない可能性が50%超である場合には、償却原価と公正価値の差額のすべてを評価損として期間損益に計上しています。一方、当該負債証券につき、売却する意図がなく、また、当期に生じた信用損失を控除後の償却原価まで公正価値が回復する前に売却しなければならない可能性も50%超にはならない場合には、償却原価と公正価値の差額を信用損失に伴う部分と信用損失以外の部分に区分し、信用損失に伴う部分は当期の損益に計上する一方、それ以外の部分は未実現評価損として税効果控除後の金額でその他の包括利益(損失)に計上しています。

その他の有価証券については、その価値の下落が一時的でないと判断される場合には、公正価額まで減額し、評価損を期間損益として計上しています。

(i) 法人税等

四半期連結累計期間の税金費用は、税引前四半期純利益に見積実効税率を適用して計上しています。この見積実効税率は、四半期連結累計期間を含む連結会計年度の見積税金費用と見積税引前当期利益に基づき算出しています。

連結会計年度における法人税等は資産負債法により計上しています。繰延税金資産・負債は、資産および負債の財務諸表上と税務上との帳簿価額の差異および繰越欠損金による将来の見積税効果について認識しています。繰延税金資産・負債は、一時差異が解消されると見込まれる期の課税所得に対して適用される税率を使用して計算しています。繰延税金資産・負債における税率変更の影響は、税率変更が制定された日を含む年度の損益として認識しています。利用可能な証拠の重要度に基づいて繰延税金資産のすべてあるいは一部について実現しない可能性が実現する可能性よりも高い場合には、評価性引当金を計上しています。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における非継続事業からの損益にかかる法人税等も含めた実効税率は、それぞれ36.4%および27.4%です。また、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における非継続事業からの損益にかかる法人税等も含めた実効税率は、それぞれ38.6%および18.3%です。当社および国内子会社は、前2四半期連結累計期間は、法人税が約28%、住民税が約5%および事業税が約8%課され、これに基づいて計算された標準税率は約38.3%でしたが、当第2四半期連結累計期間は、下記税制改正により法人税が約28%から約26%に変更された結果、標準税率は約35.9%になりました。実効税率は、主に損金不算入項目、益金不算入項目、税率が標準税率より低い海外子会社および国内生命保険事業子会社、評価性引当金の増減額、バーゲン・パーチェス益などの要因により標準税率とは相違しています。

平成26年3月20日に「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)および「地方法人税法」(平成26年法律第11号)が成立しました。これらの法律の成立に伴い、平成26年4月1日から開始する事業年度においては復興特別法人税が課されないことになり、標準税率が従来の約38.3%から約35.9%に変更となりました。また、平成26年10月1日以降開始する事業年度においては、国税についての標準税率が従来の約23.6%から約24.6%に、地方税についての標準税率が従来の約12.3%から約11.3%に変更となりました。国税・地方税合わせた標準税率は、約35.9%と変更ありません。

当社および子会社は会計基準編纂書740(法人税)を適用しています。この会計基準編纂書に従い、当社および子会社は、税務申告において採用するあるいは将来採用するであろうタックス・ポジションについて、税法上の技術的な解釈に基づき、申し立てや訴訟等による決定を含む税務調査において認められる可能性が認められない可能性よりも高い場合に、その影響を財務諸表で認識し、税務当局との解決において実現する可能性が50%を超える最大の金額で当該認識基準を満たすタックス・ポジションを測定しています。当社および子会社は、未認識のタックス・ベネフィットを負債としてではなく、繰越欠損金、類似した税務上の損失または繰越税額控除に係る繰延税金資産から控除して表示しています。当社および子会社は法人税等にかかる課徴金および利息費用については、連結損益計算書上、法人税等を含めています。

当社および一部の子会社は、連結納税制度を適用しています。

#### (j) 資産の証券化

当社および子会社は、リース債権、営業貸付金といった金融資産を証券化し、投資家に売却しています。証券化においては、売却の対象となる資産を信託または特別目的会社に譲渡し、その資産を担保とした信託受益権および証券を発行し売却します。

このような証券化取引は、会計基準編纂書860(譲渡およびサービシング)および会計基準編纂書810(連結)の規定に従い、当社および子会社が主たる受益者となる証券化のための信託または特別目的会社は連結され、譲渡金融資産は売却処理されません。連結された信託または特別目的会社が保有する資産は、譲渡前と同様に資産の種類に応じてリース債権、営業貸付金として会計処理され、投資家に発行された信託受益権および証券は借入金として負債計上されます。なお、連結対象とならない譲受人に対して金融資産を譲渡する場合は、当社および子会社が対象となる資産に対する支配を放棄した時点で、売却として会計処理しています。

一部の子会社では、自社で組成した営業貸付金を、回収義務を保持したまま投資家に売却しています。また、他社が組成した営業貸付金の回収業務を受託しています。当該子会社では、これらの回収業務で契約により受領する手数料が、報酬として適正な水準を上回る場合にはサービス資産を、下回る場合にはサービス負債を認識します。サービス資産および負債は、当初は公正価値で認識し、その後は、回収業務から見込まれる見積利益または損失に比例して対応する期間にわたり償却し、四半期ごとに減損または追加負債計上の判定を行います。サービス資産および負債の公正価値は、自社開発モデルまたは独立した第三者機関により評価しています。これらは、割引率や期限前返済率および回収業務に要する費用を考慮した、回収業務による将来キャッシュ・フローの見積現在価値を基礎としています。自社開発モデルは、少なくとも半年に一度、第三者機関の評価を用いて検証しています。

#### (k) デリバティブ

当社および子会社は会計基準編纂書815(デリバティブおよびヘッジ活動)を適用し、保有するすべてのデリバティブは、公正価値で連結貸借対照表に計上しています。計上された後の公正価値変動の会計処理は、デリバティブの保有目的と、ヘッジ会計の要件を満たしているかどうかによって異なります。ヘッジ以外の目的で保有されるデリバティブの公正価値の変動は、連結損益計算書に計上しています。ヘッジ目的で保有されるデリバティブについては、さらにそのヘッジ活動の種類に応じて、連結損益計算書上でヘッジ対象資産および負債の公正価値変動を相殺するか、その他の包括利益(損失)に計上しています。

認識された資産および負債、もしくは未認識確定契約の公正価値の変動に対するヘッジ(公正価値ヘッジ)の目的でデリバティブを保有している場合、当該デリバティブの公正価値の変動は、ヘッジ対象の公正価値変動から生じる損益とともに、損益に計上しています。

予定取引、または認識された資産、負債に関連して発生するキャッシュ・フローの変動に対するヘッジ(キャッシュ・フロー・ヘッジ)の目的でデリバティブを保有する場合、当該デリバティブの公正価値の変動は、デリバティブがヘッジとして有効である範囲において、指定されたヘッジ対象のキャッシュ・フローの変動が損益に影響するまで、その他の包括利益(損失)に計上しています。

外貨の公正価値またはキャッシュ・フローに対するヘッジ(外貨ヘッジ)の目的でデリバティブを保有する場合、当該デリバティブの公正価値の変動は、ヘッジ活動が公正価値ヘッジかキャッシュ・フロー・ヘッジであるかにより、損益またはその他の包括利益(損失)に計上しています。しかしながら、デリバティブが海外子会社の純投資のヘッジとして利用された場合、その公正価値の変動は、ヘッジが有効である範囲において、その他の包括利益(損失)に含まれている為替換算調整勘定に計上しています。

トレーディング目的のようなヘッジ以外の目的で保有されるデリバティブやヘッジ会計の要件を満たさない経済的ヘッジ目的で保有するデリバティブ、またはヘッジ目的で保有されているデリバティブの公正価値変動のうち、ヘッジに有効でない部分は損益に計上しています。

当社および子会社はヘッジ会計を適用するものについては、すべてのヘッジ取引の開始にあたり、ヘッジ関係とヘッジ活動の詳細を文書化しています。また、当社および子会社はその開始時点およびその後も継続的に、ヘッジ関係が有効であるかどうかを評価しています。デリバティブがヘッジとして有効でないと判断された場合、ヘッジ会計を中止しています。

(l) 年金制度

当社および一部の子会社は、実質的に全従業員を対象とした拠出型および非拠出型の年金制度を採用しています。これらの年金制度は、会計基準編纂書715(報酬－退職給付)に従い、割引率、昇給率、年金資産長期期待収益率およびその他の見積もりを前提とした年金数理計算に基づく年金費用を計上しています。

また、年金資産の公正価額と給付債務の差額として測定される年金制度の積立状況を連結貸借対照表において認識するとともに、当該積立状況の変動は、その変動が発生した連結会計年度に、税効果控除後の金額でその他の包括利益(損失)として認識しています。

(m) 株式による報酬制度

当社および子会社は、会計基準編纂書718(報酬－株式による報酬)を適用しています。この会計基準編纂書は、限定的な例外を除き、株式に基づく報酬費用を従業員が提供するサービスの対価として、付与日の公正価額に基づいて測定することを要求しています。その費用は、サービスを提供する期間にわたって認識しています。

(n) 株式の分割

平成13年10月1日より前に行われた株式分割については、日本の旧商法の規定に基づき、額面金額と同額を資本剰余金から資本金へ組み入れる処理を行っています。すでに額面超過額を資本金に組み入れている場合には、当該会計処理は行われません。この会計処理方法は、日本で一般的に認められている会計慣行に従った処理です。

なお、平成13年10月1日より施行された改正旧商法および平成18年5月1日より施行された会社法では、旧商法の規定に基づく上記の会計処理は不要となっています。

米国で同様の株式分割が行われた場合には株式配当として考えられ、発行株式の時価相当額をその他の利益剰余金から資本金および資本剰余金へ振り替え、資本金を額面額で、資本剰余金を時価の額面超過額で、それぞれ増加させることとなっています。

平成13年10月1日より前に行われた株式分割をこの方法により会計処理した場合、当第2四半期連結会計期間末において、資本剰余金がおおよそ24,674百万円増加し、その他の利益剰余金が同額減少します。資本の部の合計額は変わりません。平成12年5月19日および平成25年4月1日に行われた株式分割については、米国において一般に公正妥当と認められた会計基準に基づく株式配当とは考えていないため、上記の総額から除いています。

(o) 現金および現金等価物

現金および現金等価物は、手元現金、銀行預金および取得日から3ヶ月以内に満期を迎える流動性の高い短期投資を含んでいます。

(p) 使途制限付現金

使途制限付現金は、証券化取引・不動産事業における信託口座預金、サービス契約に関連した預金およびノンリコースローンの回収口座預金などのうち、拘束性を有しているものを含んでいます。

(q) 営業貸付金

営業貸付金のうち、当社および一部の子会社が予測可能な将来において第三者へ売却を行う意図と能力を有しているものは売却予定の営業貸付金とみなし、会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを適用しているものを除き、個別に低価法で評価しています。当社の一部の子会社は、平成23年10月1日以降に組成した売却予定の営業貸付金について公正価値オプションを選択しました。当該一部の子会社では、売却予定の営業貸付金の保有期間中の公正価値の変動を相殺するために先渡契約を締結していますが、公正価値オプションの選択により、営業貸付金の公正価値の変動と金利変動により生じる先渡契約の公正価値の変動を同じ会計期間に認識することができます。

営業貸付金には、前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在それぞれ14,267百万円および9,244百万円の売却予定の営業貸付金を含んでいます。なお、前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在の売却予定の営業貸付金には、それぞれ12,631百万円および7,616百万円の公正価値オプションを適用している売却予定の営業貸付金を含んでいます。

(r) その他営業資産

その他営業資産は、主にゴルフ場、ホテル、研修所および高齢者向け住宅などの運営資産を含み、減価償却累計額控除後の価額で計上しています。減価償却方法は、主として当該資産の見積耐用年数を償却期間とした定額法であり、前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、減価償却累計額をそれぞれ62,182百万円および64,875百万円計上しています。

(s) その他受取債権

その他受取債権は、主にファイナンス・リース契約に関する固定資産税・保守料・保険料の立替金、リース物件・分譲マンション等の売却に伴う売掛金、営業取引に関する未収収益およびデリバティブ資産を含んでいます。

(t) 棚卸資産

棚卸資産は、主に販売用不動産の開発のための前渡金（以下、「販売用資産前渡金」）、完成在庫（契約後、引き渡しされるまでの物件を含む。（以下、「販売用不動産」））および販売用の商品を含んでいます（以下、「販売用不動産および販売用の商品を総称して販売用資産」）。販売用資産前渡金については減損考慮後の原価法、販売用資産については低価法により評価しています。棚卸資産の原価は、個々の棚卸資産に代替性がない場合には、個別法に基づき算定し、個々の棚卸資産に代替性がある場合には、主として平均法に基づいて算定しています。前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、販売用資産前渡金をそれぞれ111,813百万円および92,925百万円計上し、販売用資産をそれぞれ24,291百万円および44,547百万円計上しています。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、主に販売用資産前渡金について、開発コストの増加や予想販売価格の低下などにより評価損を認識し、それぞれ5,650百万円および3,054百万円を不動産販売原価に計上しています。また、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において、評価損をそれぞれ2,393百万円および3,054百万円計上しています。なお、当該評価損は主に不動産事業部門に計上しています。

(u) 社用資産

社用資産は、減価償却累計額控除後の価額で計上し、当該資産の見積耐用年数を償却期間とした定率法または定額法により減価償却を行っています。前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、減価償却累計額をそれぞれ39,747百万円および41,139百万円計上しています。

(v) その他資産

その他資産は、主に買収により計上した営業権およびその他の無形資産（(w)参照）、再保険契約に関する再保険貸（(e)参照）、契約期間にわたり償却をしている保険募集費用の繰延額（(e)参照）、不動産賃借に係わる保証金、リース物件購入に関連した前渡金、賃貸不動産の建設に係わる前渡金および繰延税金資産を含んでいます。

(w) 営業権およびその他の無形資産

当社および子会社は会計基準編纂書805(企業結合)および会計基準編纂書350(無形資産)を適用しています。

会計基準編纂書805は、すべての企業結合を取得法により処理することを求めています。また、企業結合により獲得される無形資産が、2つの基準（契約または法的基準および分離可能基準）のうちの1つに該当する場合には、営業権から分離して認識することを求めています。営業権は取得対価および非支配持分の公正価値の合計が、企業結合によって取得した純資産の公正価値に基づく認識額を超過する部分として測定しています。当社および子会社は、取得対価および非支配持分の公正価値の合計額が認識された純資産の公正価値を下回る場合にはバーゲン・パーチェス益を認識します。段階的な取得に伴い達成された企業結合については、既存持分を取得日の公正価値で再評価し、当該評価差額を損益として認識しています。

会計基準編纂書350は、無形資産（企業結合により取得されたものを除く）の取得時の処理を規定し、また、営業権およびその他の無形資産の取得後の処理についても取り扱っています。営業権および耐用年数を確定できない無形資産は償却を行わず、少なくとも年1回の減損テストを行います。また、減損の可能性を示す事象または状況の変化が起きた場合、発生した時点において減損テストを行っています。会計基準編纂書350では、2つのステップによる営業権の減損テストを実施する前に、報告単位の公正価値が営業権を含むその帳簿価額を下回っている可能性が50%超か否かについての定性的評価を行うことが認められています。事象や状況を総合的に評価した結果、報告単位の公正価値が帳簿価額を下回っている可能性が50%超ではないと判断した場合は、その報告単位について2つのステップによる減損テストを行いません。一方、報告単位の公正価値が帳簿価額を下回っている可能性が50%超であると判断した場合は、2つのステップによる減損テストを行います。第1ステップでは、特定された報告単位の公正価値と帳簿価額とを比較し、公正価値が帳簿価額を下回っている場合は、第2ステップとして営業権の公正価値と帳簿価額を比較し、営業権の公正価値が帳簿価額を下回っている場合には、公正価値まで減額し、評価損を期間損益として認識しています。当社および子会社は、それぞれのセグメントまたはそれよりひとつ下のレベルの単位で、営業権の減損テストを行います。営業権の減損テストは、一部の営業権については定性的評価を行っていますが、その他の営業権については定性的評価を行わずに直接2つのステップによる減損テストの第1ステップを行っています。

会計基準編纂書350(無形資産)では、定量的な減損テストを実施する前に、耐用年数を確定できない無形資産が減損している可能性が50%超あるか否かについての定性的評価を行うことが認められています。事象や状況を総合的に評価した結果、耐用年数を確定できない無形資産が減損している可能性は50%超ではないと判断した場合には、定量的な減損テストは行いません。一方、耐用年数を確定できない無形資産が減損している可能性は50%超であると判断した場合には、当該無形資産の公正価値を算定して定量的な減損テストを行い、耐用年数を確定できない無形資産の公正価値と帳簿価額を比較し、公正価値が帳簿価額を下回っている場合には、公正価値まで減額し、評価損を期間損益として認識しています。耐用年数を確定できない無形資産の減損テストは、一部の耐用年数を確定できない無形資産については定性的評価を行っていますが、その他の耐用年数を確定できない無形資産については定性的評価を行わずに直接定量的な減損テストを行っています。

確定した耐用年数を持つ無形資産は、その耐用年数にわたって償却を行い、会計基準編纂書360(有形固定資産)に基づき減損テストを行っています。

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、営業権をそれぞれ366,375百万円および323,128百万円計上しています。

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、その他の無形資産をそれぞれ323,225百万円および381,402百万円計上しています。

(x) 支払手形および未払金等

支払手形および未払金等は、買掛金、保証契約に係わる債務およびデリバティブ負債などを含んでいます。

(y) 支払利息の資産計上

当社および子会社は、建設期間中の特定の長期不動産開発プロジェクトに関連する支払利息の資産計上を行っています。

(z) 広告宣伝費

広告宣伝費は、発生主義により計上しています。

(aa) 非継続事業

平成26年4月、会計基準書アップデート第2014-08号(非継続事業の財務報告および企業の構成単位の処分に関する開示-会計基準編纂書205(財務諸表の表示)および会計基準編纂書360(有形固定資産))が公表されました。このアップデートは、企業の構成単位または構成単位グループの処分および売却予定への分類が、企業の事業活動および業績に重要な影響を及ぼす(もしくは及ぼすことになる)戦略の変更となる場合に、非継続事業として報告することを要請しています。当社および子会社は、当第1四半期連結累計期間より、このアップデートを早期適用しました。このアップデートに基づき、当社および子会社は、構成単位または構成単位グループの処分および売却予定への分類が、当社および子会社の事業活動および業績に重要な影響を及ぼす(もしくは及ぼすことになる)戦略の変更となる場合に、非継続事業からの損益として報告します。

当社および子会社は、前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間において、改正前の会計基準編纂書205-20(財務諸表の表示-非継続事業)を適用しています。改正前の会計基準編纂書205-20では、独立した最小キャッシュ・フローの単位で重要な継続的関与のないものについて非継続事業として扱うこととなっています。重要な継続的関与がなく、売却されたまたは売却等による処分予定の子会社および事業ならびに一部の不動産に関し、過年度の連結損益計算書および連結キャッシュ・フロー計算書を組替再表示しています。前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間において、当社および子会社が処分された賃貸不動産の営業活動に継続して関与する場合には、当該処分から生じる損益は賃貸不動産売却益として表示し、一方、継続して関与しない場合には、非継続事業からの損益として表示しています。

会計基準書アップデート第2014-08号の適用日以前の構成単位または構成単位グループの処分または売却予定への分類は、このアップデートの適用対象ではありません。そのため、当社および子会社は、当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間において、前連結会計年度末時点で売却等による処分予定に該当した子会社および事業については、改正前の会計基準編纂書205-20に基づき、連結損益計算書上、売却益および事業活動から生じた損益を非継続事業からの損益として報告しています。

(ab) 1株当たり利益

基本的1株当たり利益は、当社株主に帰属する継続事業からの利益および当社株主に帰属する四半期純利益を各期間の期中普通株式加重平均残高で除して計算します。希薄化後1株当たり利益は、新株発行、株式への転換をもたらす権利の行使および約定の履行を考慮の上算定しています。また、1株当たり利益は株式分割および株式配当を考慮し、遡及して調整しています。

(ac) 子会社持分の一部取得および一部売却

子会社持分の一部取得および一部売却は、子会社の支配を維持したままでの保有持分の売却および追加取得は資本取引として処理しています。また、支配の喪失を伴う保有持分の一部売却においては、売却された持分に関連する実現損益および継続して保有する持分の公正価値の再測定による損益を認識しています。

(ad) 償還可能非支配持分

一部の子会社の非支配持分は、株主に一定の事象が発生した場合に行使可能なプットおよびコールオプションを有している償還可能優先株式です。当該非支配持分の償還は当該子会社が単独で意思決定できないため、発生問題専門委員会のEITFトピックD-98(会計基準編纂書480-10-s99-3A(償還可能有価証券の分類および測定))等に従い、連結貸借対照表上、負債の部と資本の部の中間に見積償還額で計上しています。

(ae) 関連会社による株式発行

関連会社が第三者に株式を発行した場合、当社および子会社の保有する関連会社に対する持分比率は減少しますが、当社および子会社の1株当たりの平均投資簿価と異なる価格で株式が発行された時には、当社および子会社は、保有する関連会社に対する投資簿価を修正し、その増減額を持分比率が変動した連結会計期間の損益として認識しています。

(af) 新たに公表または適用された会計基準

平成25年2月、会計基準書アップデート第2013-04号(債務の総額が報告日において確定している連帯債務契約から生じる債務—会計基準編纂書405(負債))が公表されました。このアップデートは、債務の総額が報告日において確定している連帯債務契約から生じた債務を、報告企業が連帯債務者間の契約に基づいて支払うと合意した金額と報告企業が他の連帯債務者の代わりに支払わなければならないと予測する金額の合計額により測定することを要請しています。当社および子会社は、このアップデートを平成26年4月1日から適用しています。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への影響はありませんでした。

平成25年3月、会計基準書アップデート第2013-05号(在外事業体への投資または在外事業体に属する特定の子会社または資産グループの認識の中止に伴う、親会社の累積為替換算調整勘定の会計処理—会計基準編纂書830(外貨換算))が公表されました。このアップデートは、報告企業(親会社)が在外事業体に属する子会社または非営利活動か事業に該当する資産グループの支配財務持分を失った場合には、その売却もしくは譲渡が子会社もしくは資産グループが属していた在外事業体の完全な、あるいは実質的に完全な清算に該当する場合にのみ、関連するすべての累積為替換算調整勘定を損益に計上することを要請しています。このアップデートは、在外事業体である持分法投資の部分売却については、従来どおり、累積為替換算調整勘定を売却部分の比率に応じて損益に計上することを要請しています。また、このアップデートは、段階的取得による企業結合において、取得企業が従来持分法投資としていた在外事業体の支配財務持分を取得する場合、関連するすべての累積為替換算調整勘定を損益に計上することを要請しています。当社および子会社は、このアップデートを平成26年4月1日から適用しています。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への影響はありませんでした。

平成25年4月、会計基準書アップデート第2013-07号(清算ベース会計—会計基準編纂書205(財務諸表の表示))が公表されました。このアップデートは、企業の清算が差し迫っている場合には清算ベース会計に基づき財務諸表を作成することを要請し、資産および負債の認識および測定の実質原則と清算ベース会計に基づく財務諸表の要件を提示しています。当社および子会社は、このアップデートを平成26年4月1日から適用しています。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への影響はありませんでした。

平成25年6月、会計基準書アップデート第2013-08号(適用範囲、測定および開示要求の改訂—会計基準編纂書946(金融サービス—投資会社))が公表されました。このアップデートは、投資会社の判定に関するアプローチを変更し、投資会社の特徴を明確化し、事業体が投資会社に該当するか否かを判定するための包括的なガイダンスを提供しています。また、このアップデートは、投資会社に、他の投資会社に対する非支配財務持分を持分法ではなく公正価値により測定することを要請しています。さらに、このアップデートは、投資会社に、投資会社への該当状況や、投資会社が投資先に提供している、または契約で提供することが要求されている財務的支援に関する追加の情報を開示することを要請しています。当社および子会社は、このアップデートを平成26年4月1日から適用しています。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への重要な影響はありませんでした。



平成25年7月、会計基準書アップデート第2013-11号(繰越欠損金、類似した税務上の損失または繰越税額控除が存在する場合の未認識のタックス・ベネフィットの表示—会計基準編纂書740(法人税))が公表されました。このアップデートは、特定の場合を除き、未認識のタックス・ベネフィットを負債としてではなく、繰越欠損金、類似した税務上の損失または繰越税額控除に係る繰延税金資産から控除して表示することを企業に要請しています。当社および子会社は、このアップデートを平成26年4月1日から適用しています。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への影響はありませんでした。

平成26年1月、会計基準書アップデート第2014-04号(居住用不動産の担保権付個人向け住宅ローンの担保権の行使に伴う再分類—会計基準編纂書310-40(債権))が公表されました。このアップデートは、居住用不動産の担保権付個人向け住宅ローンについて、実質的な担保差押えまたは担保権の行使により債権者が居住用不動産を物理的に占有したとみなされる時点を明確化しています。さらに、このアップデートは、担保権が行使された居住用不動産の金額および差押えの過程にある居住用不動産の担保権付個人向け住宅ローンの金額を開示することを要請しています。このアップデートは、平成26年12月15日より後に開始する事業年度およびその期中期間から適用され、将来に向かっての適用か修正遡及適用かは選択できます。また、早期適用も認められています。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への重要な影響はありません。

平成26年4月、会計基準書アップデート第2014-08号(非継続事業の財務報告および企業の構成単位の処分に関する開示—会計基準編纂書205(財務諸表の表示)および会計基準編纂書360(有形固定資産))が公表されました。このアップデートは、企業の構成単位または構成単位グループの処分および売却予定への分類が、企業の事業活動および業績に重要な影響を及ぼす(もしくは及ぼすことになる)戦略の変更となる場合に、非継続事業として報告することを要請しています。また、このアップデートは、貸借対照表の比較情報において、非継続事業の資産および負債を区分して表示することを要請しています。さらに、このアップデートは、非継続事業および非継続事業とならない個々に重要な構成単位の処分に関する追加の開示を要請しています。当社および子会社は、このアップデートを平成26年4月1日から早期適用しています。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への重要な影響はありませんでした。

平成26年5月、会計基準書アップデート第2014-09号(顧客との契約から生じる収益—会計基準編纂書606(顧客との契約から生じる収益))が公表されました。このアップデートは、企業が、顧客への財またはサービスの移転を描写するように、その移転した財またはサービスと交換に権利を得ると見込む対価を反映した金額で収益を認識することを基本原則としており、この原則を達成するため、以下の5つのステップに基づいて、収益を認識すべき時期および金額を決定することを要請しています。

- ・顧客との契約を識別する。
- ・契約における独立した履行義務を識別する。
- ・取引価格を決定する。
- ・取引価格を独立した履行義務に配分する。
- ・企業が履行義務を充足した時点で(または充足するに応じて)収益を認識する。

また、このアップデートは、従来の開示要件よりも顧客との契約に関してより多くの情報を開示することを要請しています。このアップデートは、平成28年12月15日より後に開始する会計年度およびその期中期間から適用され、早期適用は認められていません。企業は、このアップデートの適用にあたり、遡及的に適用するアプローチ、または累積的な影響に基づくアプローチのいずれかを選択することができます。遡及的に適用するアプローチを選択した企業は、遡及的適用の原則的なアプローチを簡略化するため、特定の実務上の免除規定を選択することができます。累積的な影響に基づくアプローチを選択した企業は、このアップデートの適用による累積的影響額を適用日時点の利益剰余金または純資産の調整として認識することになります。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への影響につきましては、現在調査中です。

平成26年6月、会計基準書アップデート第2014-11号(譲渡金融資産の満期日を期限とするレポ取引、買戻契約による資金調達および開示—会計基準編纂書860(譲渡およびサービシング))が公表されました。このアップデートは、満期買戻取引を担保付借入として会計処理することを企業に要請しています。また、このアップデートは、会計基準編纂書860-10-40-42から40-47の買戻資金調達に関するガイダンスを削除し、譲渡人と譲受人が、それぞれ、金融資産の当初譲渡を売却(認識の中止条件を満たすことを条件として)および購入として対称的に会計処理することを要請しています。さらに、このアップデートは、売却として会計処理される特定の金融資産および担保付借入として会計処理される特定の譲渡に関連する新たな開示を要請しています。このアップデートは、平成26年12月15日より後に開始する事業年度および期中期間から適用されます。また、早期適用は認められていません。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への影響につきましては、今後の取引によります。

平成26年6月、会計基準書アップデート第2014-12号(報酬の条件として勤務条件期間後に達成される可能性がある業績目標を定めた株式に基づく報酬の会計処理—会計基準編纂書718(報酬—株式による報酬))が公表されました。このアップデートは、権利確定に影響し、必要な勤務期間後に達成される可能性がある業績目標を、報酬の業績条件として取り扱うことを企業に要請しています。このアップデートは、平成27年12月15日より後に開始する事業年度およびその期中期間から適用され、将来に向かっての適用か修正遡及適用かは選択できます。また、早期適用も認められています。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への重要な影響はありません。

平成26年8月、会計基準書アップデート第2014-13号(連結された債務担保金融事業体の金融資産および金融負債の測定—会計基準編纂書810(連結))が公表されました。このアップデートは、このアップデートの適用対象となる連結された債務担保金融事業体の親会社に対して、連結された債務担保金融事業体の金融資産および金融負債を、金融資産または金融負債の公正価値のどちらかより観察可能な金額に基づいて測定することを認めています。このアップデートは、平成27年12月15日より後に開始する事業年度およびその期中期間から適用され、早期適用が事業年度の期首において認められています。企業は、このアップデートの適用にあたり、修正遡及アプローチまたは完全遡及アプローチのいずれかを選択することができます。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への影響につきましては、現在調査中です。

平成26年8月、会計基準書アップデート第2014-14号(担保権行使時における特定の政府保証付住宅担保ローンの分類—会計基準編纂書310-40(債権—債権者による問題債権のリストラクチャリング))が公表されました。このアップデートは、債権者に対して、特定の政府保証付住宅担保ローンについて、担保権行使時に認識を中止し、債権者が保証人から回収する見込みの金額で測定した別個の受取債権を認識し、その保証および債権を単一の会計単位として取り扱うことを要請しています。このアップデートは、平成26年12月15日より後に開始する事業年度およびその期中期間から適用されます。企業は、このアップデートの適用にあたり、将来に向かって適用するか、または修正遡及適用するかを選択することができますが、会計基準書アップデート第2014-04号(居住用不動産の担保権付個人向け住宅ローンの担保権の行使に伴う再分類—会計基準編纂書310-40(債権—債権者による問題債権のリストラクチャリング))のもとで選択した移行措置と整合させることが要請されます。早期適用は、企業がすでに会計基準書アップデート第2014-04号を適用している場合に認められます。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への重要な影響はありません。

平成26年8月、会計基準書アップデート第2014-15号(継続企業の前提の不確実性に関する開示—会計基準編纂書205-40(財務諸表の表示—継続企業))が公表されました。このアップデートは、財務諸表の公表日(または財務諸表が公表可能となる日)から1年間を対象期間とし、企業がその期間において債務を果たす能力について評価を行うことで、継続企業の前提の評価を行うことを要求しています。対象期間において企業がその債務を果たせない可能性が高い場合、開示が必要とされ、この可能性が経営者の対応策により軽減されない場合、重大な疑義に関する追加的な開示が必要とされます。このアップデートは、平成28年12月15日より後に終了する最初の事業年度およびその後の期中期間に適用され、早期適用が認められています。このアップデートは開示規定に関するもので、適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への影響はありません。

平成26年11月、会計基準書アップデート第2014-16号(株式の形式で発行された複合金融商品に含まれる主契約が負債と資本のいずれにより類似しているかの判断—会計基準編纂書815(デリバティブおよびヘッジ活動))が公表されました。このアップデートは、株式の形式で発行された複合金融商品の発行者または投資家に対して、主契約からの区分処理のために評価される組込デリバティブ特性を含む、複合金融商品全体の経済特性およびリスクを考慮して、主契約の性質が負債と資本のいずれにより類似しているか判断することを要請しています。このアップデートは、平成27年12月15日より後に開始する事業年度およびその期中期間から適用されます。また早期適用も、期中期間での適用を含め、認められています。このアップデートは、適用事業年度の期首に存在する全ての株式の形式で発行された複合金融商品に対して修正遡及ベースで適用されますが、過年度に遡って適用することも認められています。このアップデートの適用による当社および子会社の経営成績および財政状態への影響につきましては、現在調査中です。

#### (ag) 表示区分の変更について

当第2四半期連結会計期間より、商品売買にかかる売上および原価を「商品売上高」および「商品売上原価」として独立して表示しています。これに伴い前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間の四半期連結損益計算書は、当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間の表示に合わせて、一部の金額について表示区分の変更を行っています。

### 3 公正価値測定

当社および子会社は会計基準編纂書820(公正価値測定)を適用しています。この会計基準編纂書は公正価値を定義し、公正価値測定の枠組みを確立し、公正価値測定に関する開示範囲を拡大しています。

この会計基準編纂書は、公正価値の測定における評価技法に用いられるインプットを以下の3つに分類し、優先順位をつけています。

レベル1－測定日現在において入手できる同一の資産または負債の活発な市場における  
公表価額（非修正）のインプット

レベル2－直接的または間接的に当該資産または負債について観察可能なレベル1に含まれる  
公表価額以外のインプット

レベル3－当該資産または負債の観察不能なインプット

また、この会計基準編纂書では、すべての会計期間ごとに「継続的に」公正価値測定が求められる資産および負債と特定の環境下にある場合のみ「非継続的に」公正価値測定が求められる資産および負債とを区別しています。当社および子会社は主に特定の売却予定の営業貸付金、短期売買目的有価証券、売却可能有価証券、特定の投資ファンド、デリバティブ、特定の再保険貸、特定の条件付対価、変額年金保険契約および変額保険契約について継続的に公正価値を測定しています。

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において継続的に公正価値測定を行った主な資産および負債の内訳は以下のとおりです。

前連結会計年度末				
内容	合計 (百万円)	測定日における公正価値による測定に用いるインプット		
		同一資産または負債 の活発な市場におけ る市場価額 (百万円)	その他の重要な観察 可能なインプット (百万円)	重要な観察不能なイ ンプット (百万円)
		レベル1	レベル2	レベル3
資産：				
売却予定の営業貸付金 ※1	12,631	—	12,631	—
短期売買目的有価証券	16,079	275	15,804	—
売却可能有価証券：	881,606	230,618	566,987	84,001
日本および海外の国債	360,360	114,989	245,371	—
日本および海外の地方債	96,697	—	96,697	—
社債	201,386	—	200,725	661
特定社債	6,772	—	—	6,772
米州のCMB S/RMB S	17,833	—	—	17,833
その他資産担保証券	47,798	—	613	47,185
その他の負債証券	11,550	—	—	11,550
持分証券 ※2	139,210	115,629	23,581	—
その他の有価証券：	6,317	—	—	6,317
投資ファンド ※3	6,317	—	—	6,317
デリバティブ資産：	12,437	8	9,943	2,486
金利スワップ契約	2,528	—	2,528	—
オプションの売建、その他	5,486	—	3,000	2,486
先物契約、為替予約	860	8	852	—
通貨スワップ契約	3,534	—	3,534	—
クレジット・デリバティブの売建	29	—	29	—
資産合計	929,070	230,901	605,365	92,804
負債：				
デリバティブ負債：	16,646	28	16,618	—
金利スワップ契約	634	—	634	—
オプションの売建、その他	3,605	—	3,605	—
先物契約、為替予約	4,966	28	4,938	—
通貨スワップ契約	7,176	—	7,176	—
クレジット・デリバティブの買建	265	—	265	—
未払金：	2,833	—	—	2,833
条件付対価	2,833	—	—	2,833
負債合計	19,479	28	16,618	2,833

当第2四半期連結会計期間末				
内容	合計 (百万円)	測定日における公正価値による測定に用いるインプット		
		同一資産または負債 の活発な市場におけ る市場価額 (百万円)	その他の重要な観察 可能なインプット (百万円)	重要な観察不能な インプット (百万円)
		レベル1	レベル2	レベル3
資産：				
売却予定の営業貸付金 ※1	7,616	—	7,616	—
短期売買目的有価証券	1,463,900	50,062	1,413,838	—
売却可能有価証券：	1,222,973	117,040	1,029,140	76,793
日本および海外の国債	520,371	—	520,371	—
日本および海外の地方債	153,603	—	153,603	—
社債	292,547	—	292,391	156
特定社債	6,340	—	—	6,340
米州のCMB S / RMB S	47,241	—	37,981	9,260
その他資産担保証券	49,771	—	654	49,117
その他の負債証券	11,920	—	—	11,920
持分証券 ※2	141,180	117,040	24,140	—
その他の有価証券：	9,105	—	—	9,105
投資ファンド ※3	9,105	—	—	9,105
デリバティブ資産：	23,083	146	7,381	15,556
金利スワップ契約	1,348	—	1,348	—
オプションの買建/売建、その他	16,409	—	853	15,556
先物契約、為替予約	1,324	146	1,178	—
通貨スワップ契約	4,002	—	4,002	—
その他資産：	55,500	—	—	55,500
再保険貸 ※4	55,500	—	—	55,500
資産合計	2,782,177	167,248	2,457,975	156,954
負債：				
デリバティブ負債：	36,286	1,168	35,118	—
金利スワップ契約	851	—	851	—
オプションの売建、その他	3,495	—	3,495	—
先物契約、為替予約	23,522	1,168	22,354	—
通貨スワップ契約	8,154	—	8,154	—
クレジット・デリバティブの買建	264	—	264	—
未払金：	5,912	—	—	5,912
条件付対価	5,912	—	—	5,912
保険契約債務および保険契約者勘定：	1,575,331	—	—	1,575,331
変額年金保険契約および変額保険契約 ※5	1,575,331	—	—	1,575,331
負債合計	1,617,529	1,168	35,118	1,581,243

- ※1 当社の一部の子会社は、平成23年10月1日以降に組成した売却予定の営業貸付金について会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを選択しました。これらの貸付金は、集合住宅や高齢者向け住宅ローン債権で、米連邦住宅抵当公庫(以下、「ファニーメイ」)や機関投資家に売却されます。前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、公正価値の変動により生じた465百万円および56百万円の損失を、その他の営業収入に計上しています。前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において、公正価値の変動により生じた229百万円の利益および55百万円の損失を、その他の営業収入に計上しています。また、前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、売却予定の営業貸付金に特有の信用リスクの変動により生じた評価損益の計上はありません。前連結会計年度末において保有していた売却予定の営業貸付金の未払元本総額および公正価値総額は、12,024百万円および12,631百万円となり、公正価値総額が未払元本総額を607百万円上回っていました。また、当第2四半期連結会計期間末現在保有する売却予定の営業貸付金の未払元本総額および公正価値総額は、7,029百万円および7,616百万円となり、公正価値総額が未払元本総額を587百万円上回っていました。前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在保有する売却予定の営業貸付金のうち、90日以上期日を経過した債権または収益計上を停止している債権はありません。
- ※2 当社の一部の子会社は、売却可能有価証券に含まれる持分証券について会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを選択しました。当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間において、公正価値の変動により生じた236百万円および16百万円の利益を有価証券等仲介手数料および売却益に計上しています。また、前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在に保有する公正価値オプションを選択した持分証券の公正価値総額は、それぞれ5,116百万円および8,522百万円です。
- ※3 当社の一部の子会社は、保有する一部の投資ファンドについて、会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを選択しました。前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、公正価値の変動により生じた395百万円および507百万円の利益を有価証券等仲介手数料および売却益に計上しています。前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において、公正価値の変動により生じた207百万円および339百万円の利益を有価証券等仲介手数料および売却益に計上しています。また、前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在に保有するファンド投資総額および公正価値総額は、それぞれ6,317百万円および9,105百万円です。
- ※4 当社の一部の子会社は、当第2四半期連結会計期間に買収した子会社の保有する変額年金保険契約および変額保険契約の再保険契約に係る再保険貸について、会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを選択しました。当第2四半期連結会計期間末現在その他資産に含まれる公正価値オプションを選択した再保険貸の公正価値総額は、55,500百万円です。なお、当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間において、公正価値の変動が損益に与える影響については、注記15「生命保険事業」をご参照ください。
- ※5 当社の一部の子会社は、当第2四半期連結会計期間に買収した子会社の保有する変額年金保険契約および変額保険契約全体について、当該保険契約の公正価値の変動による損益と保険契約者のために保有する運用資産、デリバティブ契約から生じる損益、および再保険契約の公正価値による損益によって減殺する目的で、会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを選択しました。当第2四半期連結会計期間末現在保険契約債務および保険契約者勘定に含まれる公正価値オプションを選択した変額年金保険契約および変額保険契約の公正価値は、1,575,331百万円です。なお、当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間において、公正価値の変動が損益に与える影響については、注記15「生命保険事業」をご参照ください。

経済状況の変化または評価技法の変更により、インプットレベルは変更されることがあり、そのような場合、各四半期期首時点で発生したものとして認識しています。インプットレベルの移転にかかる重要性については、総資産額および総負債額ならびに純利益の規模に基づいて判断しています。なお、前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、レベル1とレベル2の間における移転はありませんでした。

重要な観察不能なインプット（レベル3）を用いて継続的に公正価値測定を行った資産および負債（純額）の前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における調整表は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間										
内容	前連結 会計年度 期首 (百万円)	(未実現および実現)損益			購入 (百万円)	売却 (百万円)	決済 (百万円)	レベル3へ の転入/か らの転出 (純額) (百万円)	前第2 四半期 連結会計 期間末 (百万円)	四半期純利益 に含まれる損 益のうち、 前第2四半期 連結会計 期間末現在 保有する資産 および負債の 未実現損益 (百万円) ※1
		四半期純 利益に含 まれる額 (百万円) ※1	その他の 包括利益 に含まれ る額 (百万円) ※2	合計 (百万円)						
売却可能有価証券：	136,978	4,039	2,203	6,242	16,831	△11,445	△84,841	—	63,765	142
社債	6,524	411	△366	45	—	△1,325	△4,582	—	662	22
特定社債	63,244	295	797	1,092	—	△22	△49,581	—	14,733	51
米州のCMB S/RMB S	24,338	2,365	283	2,648	1,021	△9,656	△9,179	—	9,172	△94
その他資産担保証券	34,561	968	560	1,528	15,810	△442	△21,499	—	29,958	163
その他の負債証券	8,311	—	929	929	—	—	—	—	9,240	—
その他の有価証券：	5,800	379	226	605	1,566	△386	△3	—	7,582	379
投資ファンド	5,800	379	226	605	1,566	△386	△3	—	7,582	379
デリバティブ資産 および負債（純額）：	2,099	△2,584	—	△2,584	—	—	△1,706	—	△2,191	△2,584
オプションの買建/売 建、その他	2,099	△2,584	—	△2,584	—	—	△1,706	—	△2,191	△2,584
当第2四半期連結累計期間										
内容	当連結 会計年度 期首 (百万円)	(未実現および実現)損益			購入 (百万円) ※3	売却 (百万円)	決済 (百万円) ※4	レベル3へ の転入/か らの転出 (純額) (百万円)	当第2 四半期 連結会計 期間末 (百万円)	四半期純利益 に含まれる損 益のうち、 当第2四半期 連結会計 期間末現在 保有する資産 および負債の 未実現損益 (百万円) ※1
		四半期純 利益に含 まれる額 (百万円) ※1	その他の 包括利益 に含まれ る額 (百万円) ※2	合計 (百万円)						
売却可能有価証券：	84,001	△1,300	4,549	3,249	26,344	△628	△15,735	△20,438	76,793	△378
社債	661	7	4	11	—	△15	△501	—	156	—
特定社債	6,772	3	84	87	700	—	△1,219	—	6,340	3
米州のCMB S/RMB S	17,833	△56	1,332	1,276	12,743	—	△2,154	△20,438	9,260	18
その他資産担保証券	47,185	△1,254	2,759	1,505	12,901	△613	△11,861	—	49,117	△399
その他の負債証券	11,550	—	370	370	—	—	—	—	11,920	—
その他の有価証券：	6,317	475	448	923	5,202	△3,337	—	—	9,105	475
投資ファンド	6,317	475	448	923	5,202	△3,337	—	—	9,105	475
デリバティブ資産 および負債（純額）：	2,486	△8,807	—	△8,807	23,959	—	△2,082	—	15,556	△8,807
オプションの買建/売 建、その他	2,486	△8,807	—	△8,807	23,959	—	△2,082	—	15,556	△8,807
その他資産：	—	△11,375	—	△11,375	67,030	—	△155	—	55,500	△11,375
再保険貸 ※5	—	△11,375	—	△11,375	67,030	—	△155	—	55,500	△11,375
未払金：	2,833	△3,126	—	△3,126	—	—	△47	—	5,912	△3,126
条件付対価	2,833	△3,126	—	△3,126	—	—	△47	—	5,912	△3,126
保険契約債務および保 険契約者勘定：	—	△31,746	—	△31,746	1,765,444	—	△221,859	—	1,575,331	△31,746
変額年金保険契約およ び変額保険契約 ※6	—	△31,746	—	△31,746	1,765,444	—	△221,859	—	1,575,331	△31,746

- ※1 主に、売却可能有価証券から生じるものは有価証券等仲介手数料および売却益、有価証券評価損または生命保険料収入および運用益、その他の有価証券から生じるものは有価証券等仲介手数料および売却益、デリバティブ資産および負債から生じるものはその他の営業収入またはその他の営業費用に、未払金から生じるものはその他の営業収入にそれぞれ計上しています。また、売却可能有価証券については、貸付金および有価証券利息として表示される、利息の償却による調整を含んでいます。
- ※2 売却可能有価証券から生じるものは、未実現有価証券評価損益を含んでいます。
- ※3 買収および再保険会社への出再による増加を含んでいます。
- ※4 再保険収入の受取による減少、死亡、解約および運用期間満了に伴う変額年金保険契約者および変額保険契約者への支払等による減少を含んでいます。
- ※5 上表の四半期純利益に含まれる額のうち、再保険貸の公正価値の変動額を生命保険費用に計上し、再保険料から再保険収入を控除した金額を収益のマイナスとして生命保険料収入および運用益に計上しています。
- ※6 上表の四半期純利益に含まれる額は、変額年金保険契約者および変額保険契約者のために運用する裏付投資資産の運用損益見合いの損益、変額年金保険契約および変額保険契約の最低保証の履行リスクの変動に伴う保険契約債務および保険契約者勘定の公正価値の変動、ならびに保険金や年金の支払事由等の発生に伴う費用等を含んでおり、それらを生命保険費用に計上しています。

前第2四半期連結累計期間において、レベル3から転入／転出したものはありません。当第2四半期連結累計期間において、米州のCMB S/RMB Sのうち20,438百万円を、市場が再び活発になったことや観察可能な取引や活発な入札を伴って債券投資の流動性が増し、取引価格や入札価格等のインプットが観察可能になったためレベル3からレベル2に転出しています。

経済状況の変化または評価技法の変更により、インプットレベルは変更されることがあり、そのような場合、各四半期期首時点で発生したものと認識しています。インプットレベルの移転にかかる重要性については、総資産額および総負債額ならびに純利益の規模に基づいて判断しています。なお、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において、レベル1とレベル2の間における移転はありませんでした。



重要な観察不能なインプット（レベル3）を用いて継続的に公正価値測定を行った資産および負債（純額）の前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における調整表は以下のとおりです。

前第2四半期連結会計期間										
内容	前第1四半期連結会計期間末 (百万円)	(未実現および実現)損益			購入 (百万円)	売却 (百万円)	決済 (百万円)	レベル3への転入/からの転出 (純額) (百万円)	前第2四半期連結会計期間末 (百万円)	四半期純利益に含まれる損益のうち、前第2四半期連結会計期間末現在保有する資産および負債の未実現損益 (百万円) ※1
		四半期純利益に含まれる額 (百万円) ※1	その他の包括利益に含まれる額 (百万円) ※2	合計 (百万円)						
売却可能有価証券：	92,535	1,936	395	2,331	4,485	△1,823	△33,763	—	63,765	△171
社債	5,264	136	△37	99	—	△122	△4,579	—	662	12
特定社債	25,469	230	773	1,003	—	△22	△11,717	—	14,733	26
米州のCMB S/RMB S	12,340	648	△731	△83	580	△1,237	△2,428	—	9,172	△304
その他資産担保証券	40,412	922	200	1,122	3,905	△442	△15,039	—	29,958	95
その他の負債証券	9,050	—	190	190	—	—	—	—	9,240	—
その他の有価証券：	7,128	188	△59	129	596	△268	△3	—	7,582	189
投資ファンド	7,128	188	△59	129	596	△268	△3	—	7,582	189
デリバティブ資産および負債（純額）：	△2,975	875	—	875	—	—	△91	—	△2,191	875
オプションの買建/売建、その他	△2,975	875	—	875	—	—	△91	—	△2,191	875

当第2四半期連結会計期間										
内容	当第1四半期連結会計期間末 (百万円)	(未実現および実現)損益			購入 (百万円) ※3	売却 (百万円)	決済 (百万円) ※4	レベル3への転入/からの転出 (純額) (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)	四半期純利益に含まれる損益のうち、当第2四半期連結会計期間末現在保有する資産および負債の未実現損益 (百万円) ※1
		四半期純利益に含まれる額 (百万円) ※1	その他の包括利益に含まれる額 (百万円) ※2	合計 (百万円)						
売却可能有価証券：	97,273	△1,327	4,304	2,977	3,805	△15	△6,809	△20,438	76,793	△398
社債	164	6	1	7	—	△15	—	—	156	—
特定社債	7,282	2	69	71	—	—	△1,013	—	6,340	2
米州のCMB S/RMB S	28,502	△48	1,133	1,085	1,506	—	△1,395	△20,438	9,260	18
その他資産担保証券	50,061	△1,287	2,445	1,158	2,299	—	△4,401	—	49,117	△418
その他の負債証券	11,264	—	656	656	—	—	—	—	11,920	—
その他の有価証券：	10,768	296	602	898	583	△3,144	—	—	9,105	296
投資ファンド	10,768	296	602	898	583	△3,144	—	—	9,105	296
デリバティブ資産および負債（純額）：	5,174	△10,542	—	△10,542	22,145	—	△1,221	—	15,556	△10,542
オプションの買建/売建、その他	5,174	△10,542	—	△10,542	22,145	—	△1,221	—	15,556	△10,542
その他資産：	—	△11,375	—	△11,375	67,030	—	△155	—	55,500	△11,375
再保険貸 ※5	—	△11,375	—	△11,375	67,030	—	△155	—	55,500	△11,375
未払金：	2,420	△3,539	—	△3,539	—	—	△47	—	5,912	△3,539
条件付対価	2,420	△3,539	—	△3,539	—	—	△47	—	5,912	△3,539
保険契約債務および保険契約者勘定：	—	△31,746	—	△31,746	1,765,444	—	△221,859	—	1,575,331	△31,746
変額年金保険契約および変額保険契約 ※6	—	△31,746	—	△31,746	1,765,444	—	△221,859	—	1,575,331	△31,746

- ※1 主に、売却可能有価証券から生じるものは有価証券等仲介手数料および売却益、有価証券評価損または生命保険料収入および運用益、その他の有価証券から生じるものは有価証券等仲介手数料および売却益、デリバティブ資産および負債から生じるものはその他の営業収入またはその他の営業費用に、未払金から生じるものはその他の営業収入にそれぞれ計上しています。また、売却可能有価証券については、貸付金および有価証券利息として表示される、利息の償却による調整を含んでいます。
- ※2 売却可能有価証券から生じるものは、未実現有価証券評価損益を含んでいます。
- ※3 買収および再保険会社への出再による増加を含んでいます。
- ※4 再保険収入の受取による減少、死亡、解約および運用期間満了に伴う変額年金保険契約者および変額保険契約者への支払等による減少を含んでいます。
- ※5 上表の四半期純利益に含まれる額のうち、再保険貸の公正価値の変動額を生命保険費用に計上し、再保険料から再保険収入を控除した金額を収益のマイナスとして生命保険料収入および運用益に計上しています。
- ※6 上表の四半期純利益に含まれる額は、変額年金保険契約者および変額保険契約者のために運用する裏付投資資産の運用損益見合いの損益、変額年金保険契約および変額保険契約の最低保証の履行リスクの変動に伴う保険契約債務および保険契約者勘定の公正価値の変動、ならびに保険金や年金の支払事由等の発生に伴う費用等を含んでおり、それらを生命保険費用に計上しています。

前第2四半期連結会計期間において、レベル3から転入／転出したものはありません。当第2四半期連結会計期間において、米州のCMB S/RMB Sのうち20,438百万円を、市場が再び活発になったことや観察可能な取引や活発な入札を伴って債券投資の流動性が増し、取引価格や入札価格等のインプットが観察可能になったためレベル3からレベル2に転出しています。

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において非継続的に公正価値測定を行った主な資産の内訳は以下のとおりです。なお、これらの資産は主に減損の認識のために非継続的な公正価値測定を行っています。

前連結会計年度末				
資産内容	合計 (百万円)	測定日における公正価値による測定に用いるインプット		
		同一資産の活発な市場における市場価格 (百万円)	その他の重要な観察可能なインプット (百万円)	重要な観察不能なインプット (百万円)
		レベル1	レベル2	レベル3
不動産担保価値依存の営業貸付金 (貸倒引当金控除後)	39,866	—	—	39,866
オペレーティング・リース資産 およびその他の営業資産	60,665	—	—	60,665
開発中および未開発の土地や建物	18,237	—	—	18,237
合計	118,768	—	—	118,768

当第2四半期連結会計期間末				
資産内容	合計 (百万円)	測定日における公正価値による測定に用いるインプット		
		同一資産の活発な市場における市場価格 (百万円)	その他の重要な観察可能なインプット (百万円)	重要な観察不能なインプット (百万円)
		レベル1	レベル2	レベル3
不動産担保価値依存営業貸付金 (貸倒引当金控除後)	26,401	—	—	26,401
オペレーティング・リース資産 およびその他の営業資産	12,254	—	—	12,254
開発中および未開発の土地や建物	4,402	—	—	4,402
一部の関連会社投資	1,220	—	—	1,220
合計	44,277	—	—	44,277

公正価値測定の評価プロセスおよび主な評価技法は、以下のとおりです。

### 評価プロセス

当社および子会社は、レベル3に区分される資産および負債について、自社モデルを使用する方法と、第三者が算定した価格を使用する方法により評価しています。自社モデルには、割引キャッシュ・フロー法、直接還元法などがあり、個々の資産および負債の性質、特徴ならびにリスクを最も適切に反映できる評価技法を決定し、公正価値を測定しています。自社モデルを用いて公正価値を測定するにあたり、使用した評価技法の適切性や観察不能なインプットの妥当性を検証しています。当社および子会社は、一部の資産および負債の公正価値測定にあたり、第三者が算定した価格を使用しています。その場合、資産および負債の現在の状況や市場の情報のような入手可能な情報をモニタリングすることにより、第三者が算定した価格の妥当性を検証しています。第三者が算定した価格が資産および負債の性質、特徴ならびにリスクを合理的に反映していると認められる場合には、当該価格を公正価値として使用しています。

### 売却予定の営業貸付金

営業貸付金のうち、当社が予測可能な将来において第三者へ売却を行う意図と能力を有しているものは売却予定の営業貸付金とみなされます。米州の売却予定の営業貸付金は、国債レートやスワップレート、マーケットスプレッド等の市場価格以外の観察可能なインプットを使用したマーケットアプローチに基づき評価し、レベル2に分類しています。

### 不動産担保価値依存の営業貸付金

貸倒引当金の見積もりにおいて、大口で均質でない営業貸付金は、将来キャッシュ・フローの現在価値、観察可能な市場価値、あるいは貸付金が担保に依存している場合には貸付金を保全する担保の公正価値に基づいて、個別に評価されます。会計基準編纂書820(公正価値測定)によると、減損した営業貸付金の評価を、現在価値技法を用いている場合には公正価値測定とはみなされません。しかし、減損した営業貸付金の評価において、貸付金の観察可能な市場価値または担保依存貸付金につき保全する担保の公正価値に基づいて評価を行っている場合は公正価値測定とみなされ、非継続的な公正価値測定の開示対象とされています。

不動産担保の公正価値については、状況に応じて、同種の資産の売却を含む最近の取引事例やその他の評価技法、例えば稼働中の既存資産または開発プロジェクトの完成により生み出されると見積もられる将来キャッシュ・フローを使った割引キャッシュ・フロー法などに基づき、独立した鑑定機関や内部の不動産鑑定士により評価されます。通常、年1回新しい鑑定評価を取得しています。さらに、担保不動産の状況を定期的にモニタリングし、公正価値に重要な影響を及ぼすかもしれない重要な変化が生じた場合には新しい鑑定評価を取得しています。これらの鑑定価格には、観察不能なインプットを含むと考えられるため、レベル3に分類しています。これらの観察不能なインプットには割引率やキャップレートおよび担保不動産の見積もり将来キャッシュ・フローが含まれ、一般的に公正価値は割引率やキャップレートの下落によって上昇し、上昇によって下落します。また、見積もり将来キャッシュ・フローの減少によって公正価値は下落し、増加によって上昇します。

### オペレーティング・リース資産およびその他の営業資産、開発中および未開発の土地や建物

公正価値測定を行っているオペレーティング・リース資産は、ほとんどが不動産です。オペレーティング・リース資産およびその他の営業資産、開発中または未開発の土地および建物の公正価値は、状況に応じて、同種の資産の売却を含む最近の取引事例やその他の評価技法、例えば稼働中の既存資産または開発プロジェクトの完成により生み出されると見積もられる将来キャッシュ・フローを使った割引キャッシュ・フロー法などに基づき、独立した鑑定機関や内部の不動産鑑定士により評価され、観察不能なインプットを含むため、レベル3に分類しています。これらの観察不能なインプットには割引率や当該資産またはプロジェクトの見積もり将来キャッシュ・フローを含み、一般的に公正価値は割引率の下落によって上昇し、上昇によって下落します。また、見積もり将来キャッシュ・フローの減少によって公正価値は下落し、増加によって上昇します。

### 短期売買目的有価証券、売却可能有価証券および関連会社投資

活発な市場での市場価値が入手できるものについては、市場価値を使用し、レベル1に分類しています。活発な市場での市場価値が入手できない場合、類似した資産の相場価値など、レベル1に含まれる公表価値以外の観察可能なインプットに基づき公正価値測定を行うものについては、レベル2に分類しています。市場価値が入手できず、観察可能なインプットもない場合には、公正価値測定は割引キャッシュ・フロー法、一般的なオプション・プライシング・モデルなどの評価モデルおよび第三者の算定する価格に基づき評価しています。評価モデルおよび第三者の算定する価格を使用する場合には観察不能なインプットを含むため、レベル3に分類しています。なお、第三者の算定する価格に基づき評価を行う場合には、類似する金融商品の価格や関連するベンチマーク等の市場のデータを元にその妥当性を検証しています。

米州のCMB S / RMB Sおよびその他資産担保証券は、市場が活発なものはレベル2に、一部の市場で不活発になっているものはレベル3に分類しています。市場が活発か不活発かの判断に際しては、最近の取引事例の欠如、取得した価格情報が最近の情報に基づいていない、または時期や値付業者によって当該価格情報が大きく変わる状況、リスク・プレミアムの大幅な上昇を示唆する何らかの状況、売気配と買気配の幅の拡大、新規発行の大幅な減少、相対取引等のため公開情報がまったくないかほとんどないような状況、その他の諸要因を評価し判断しています。米州のCMB S / RMB Sおよびその他資産担保証券については、全体としての取引活動は増加傾向であり、取引価格や入札価格等の観察可能なインプットに基づき公正価値測定を行うものはレベル2に分類しています。一方、発行年度の古いものや投資適格未滿とされるものについては、観察可能な取引は不足し、ブローカーや独立したプライシングサービスからの価格情報に依拠することはできないと判断しています。その結果、それらの有価証券の公正価値を測定するために、割引キャッシュ・フロー法などを用いて（レベル3インプットを含む）自社モデルを開発し、それらをレベル3に分類しています。このモデルの使用にあたって、該当する証券の予想キャッシュ・フローを、市場参加者が想定するであろうクレジット・リスクと流動性リスクを見積もって織り込んだ割引率で割り引いています。また、予想キャッシュ・フローは、デフォルト率や繰上償還率、当該証券への返済の優先順位等の想定に基づき見積もっています。米州のCMB S / RMB Sおよびその他資産担保証券の公正価値は、一般的に割引率とデフォルト率の下落によって上昇し、割引率とデフォルト率の上昇によって下落します。

特定社債は公開市場で取引されているものではなく、関連する観察可能な市場価額を入手することができないため、以下に述べるような重要な観察不能なインプットを含む割引キャッシュ・フロー・モデルを使用し、レベル3に分類しています。特定社債の評価にあたっては、将来のキャッシュ・フローを見積もり、市場金利にリスク・プレミアムを加味した割引率を用いて現在価値に割引くことにより測定しています。将来キャッシュ・フローは、それぞれの特定社債の元利金返済スケジュールを使用しています。割引率は市場で観察可能なものがないため、リスク・プレミアムを算出するために特定社債の裏付け不動産の担保価値（これらの評価もまた割引キャッシュ・フロー法等の評価技法を用いて評価する際に観察不能なインプットを含む）や特定社債の返済優先順位を考慮したモデルを自社で開発しています。このモデルにおいては、LTV（担保掛目）比率やその他の入手可能な関連情報を用いることにより、クレジット・リスクおよび流動性リスクの両方を反映させたリスク・プレミアムを当社独自に見積もっています。一般的にLTV比率が高くなれば、当社がモデルを使用して算出するリスク・プレミアムも増大します。特定社債の公正価値は、裏付け不動産の公正価値の上昇や割引率の下落などによって上昇し、裏付け不動産の公正価値の下落や割引率の上昇などによって下落します。

#### 投資ファンド

当社の子会社は、保有する一部の投資ファンドについて、公正価値オプションを選択しています。公正価値を市場で観察不可能なインプットに基づいた純資産価額を基に割引計算する方法で評価しているため、レベル3に分類しています。

#### デリバティブ

取引所取引を行っているデリバティブについては取引市場価額を用い、レベル1に分類しています。店頭取引を行っているデリバティブの公正価値は一般的なモデルおよび割引キャッシュ・フロー法に基づいています。その際に使用するイールドカーブやボラティリティなどのインプットが市場で観察可能なものであればレベル2、市場で観察可能でないものであればレベル3にそれぞれ分類しています。これらの観察不能なインプットには割引率が含まれ、公正価値は割引率の下落によって上昇し、上昇によって下落します。

#### 再保険貸

当社の子会社は、一部の再保険契約について、変額年金保険契約および変額保険契約にかかる最低保証の履行リスクの変動に伴う保険契約債務および保険契約者勘定の公正価値の変動から生じる損益の一部を減殺するため公正価値オプションを選択しています。当社の子会社は、再保険契約を割引キャッシュ・フロー法に基づいて算定し、観察不能なインプットを使用しているため、当該再保険契約の公正価値測定をレベル3に分類しています。

#### 条件付対価

当社は注記4「買収」に記載の株式売買契約にて、取引完了後に子会社による一定の資産運用に関する業績に応じた追加代金を現金にて支払うことについて合意し、その支払対価について公正価値を見積もっています。条件付対価の公正価値は市場で観察不可能なインプットに基づいたモンテカルロ法で評価しているためレベル3に分類しています。

### 変額年金保険契約および変額保険契約

当社の一部の子会社は、当第2四半期連結会計期間に買収した子会社の保有する変額年金保険契約および変額保険契約全体について、当該保険契約の公正価値の変動による損益の大部分を保険契約者のために保有する運用資産、デリバティブ契約から生じる損益、および再保険契約の公正価値変動による損益によって減殺する目的で、公正価値オプションを選択しています。変額年金保険の公正価値は、変額年金保険契約者および変額保険契約者のために運用する投資有価証券等の公正価値の変動に連動しています。保険契約者のために運用する投資有価証券は主に市場で取引される持分証券で構成されるため、短期売買目的有価証券に分類しています。さらに、変額年金保険契約および変額保険契約は、最低保証リスクにさらされているため、当社の一部の子会社は、変額年金保険契約および変額保険契約全体の公正価値を、裏付けとなる投資の公正価値に最低保証リスクの公正価値を調整して測定しています。当社の一部の子会社は、当該最低保証リスクによる調整金額を割引キャッシュ・フロー法に基づいて算定し、観察不能なインプットを使用しているため、変額年金保険契約および変額保険契約全体の公正価値測定をレベル3に分類しています。

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、重要な観察不能なインプット（レベル3）を用いて継続的に公正価値測定を行った資産および負債のインプットに関する情報は以下のとおりです。

前連結会計年度末				
資産内容	公正価値 (百万円)	評価技法	重要な観察不能な インプット	インプットの範囲 (加重平均値)
売却可能有価証券：				
社債	661	第三者算定価格	—	—
特定社債	3,627	割引キャッシュ・フロー法	割引率	1.0%—11.1% (4.5%)
	3,145	第三者算定価格	—	—
米州のCMBS/RBMS	17,833	割引キャッシュ・フロー法	割引率	10.8%—38.0% (19.2%)
			デフォルト率	0.0%—18.1% (0.4%)
その他資産担保証券	5,158	割引キャッシュ・フロー法	割引率	4.1%—28.1% (10.4%)
			デフォルト率	0.9%—1.5% (1.4%)
	42,027	第三者算定価格	—	—
その他の負債証券	11,550	割引キャッシュ・フロー法	割引率	12.0% (12.0%)
その他の有価証券：				
投資ファンド	6,317	内部キャッシュ・フロー法	割引率	15.0%—32.0% (20.1%)
デリバティブ資産：				
オプションの売建、その他	2,486	割引キャッシュ・フロー法	割引率	10.0%—15.0% (11.5%)
資産合計	92,804			
未払金：				
条件付対価	2,833	モンテカルロ法	割引率	16.0% (16.0%)
負債合計	2,833			

当第2四半期連結会計期間末

資産および負債内容	公正価値 (百万円)	評価技法	重要な観察不能な インプット	インプットの範囲 (加重平均値)
売却可能有価証券：				
社債	156	第三者算定価格	—	—
特定社債	2,527	割引キャッシュ・フロー法	割引率	1.0%—3.8% (2.4%)
	3,813	第三者算定価格	—	—
米州のCMBS/RBMS	9,260	割引キャッシュ・フロー法	割引率	3.8%—32.4% (18.5%)
			デフォルト率	0.0%—18.9% (0.4%)
その他資産担保証券	4,250	割引キャッシュ・フロー法	割引率	4.1%—28.1% (11.2%)
			デフォルト率	0.9%—1.4% (1.2%)
	44,867	第三者算定価格	—	—
その他の負債証券	11,920	割引キャッシュ・フロー法	割引率	11.5% (11.5%)
その他の有価証券：				
投資ファンド	9,105	内部キャッシュ・フロー法	割引率	15.0%—32.0% (17.6%)
デリバティブ資産：				
オプションの買建/売建、 その他	4,154	割引キャッシュ・フロー法	割引率	10.0%—15.0% (12.0%)
	11,402	第三者算定価格	—	—
その他資産：				
再保険貸	55,500	割引キャッシュ・フロー法等	割引率	△0.0%—0.7% (0.2%)
			死亡率	0.0%—100.0% (1.1%)
			解約率	1.5%—36.0% (16.2%)
			年金開始率 (最低年金額保証)	0.0%—100.0% (100.0%)
資産合計	156,954			
未払金：				
条件付対価	5,912	モンテカルロ法	割引率	16.0% (16.0%)
保険契約債務および保険契約者勘定：				
変額年金保険契約 および変額保険契約	1,575,331	割引キャッシュ・フロー法等	割引率	△0.0%—0.7% (0.2%)
			死亡率	0.0%—100.0% (1.1%)
			解約率	1.5%—36.0% (16.2%)
			年金開始率 (最低年金額保証)	0.0%—100.0% (100.0%)
負債合計	1,581,243			

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、重要な観察不能なインプット（レベル3）を用いて非継続的に公正価値測定を行った資産のインプットに関する情報は以下のとおりです。

前連結会計年度末				
資産内容	公正価値 (百万円)	評価技法	重要な観察不能な インプット	インプットの範囲 (加重平均値)
不動産担保価値依存の営業貸付金 (貸倒引当金控除後)	39,866	割引キャッシュ・フロー法	割引率	5.3%－19.0% (10.2%)
		直接還元法	キャップレート	5.6%－19.0% (10.3%)
オペレーティング・リース資産 およびその他の営業資産	60,665	割引キャッシュ・フロー法	割引率	5.2%－11.0% (5.6%)
開発中および未開発の土地や建物	18,237	割引キャッシュ・フロー法	割引率	3.9%－9.9% (7.1%)
合計	118,768			

当第2四半期連結会計期間末				
資産内容	公正価値 (百万円)	評価技法	重要な観察不能な インプット	インプットの範囲 (加重平均値)
不動産担保価値依存の営業貸付金 (貸倒引当金控除後)	26,401	割引キャッシュ・フロー法	割引率	4.6%－13.5% (9.5%)
		直接還元法	キャップレート	5.5%－16.5% (10.3%)
オペレーティング・リース資産 およびその他の営業資産	12,254	割引キャッシュ・フロー法	割引率	4.7%－6.5% (4.9%)
開発中および未開発の土地や建物	4,402	割引キャッシュ・フロー法	割引率	5.3%－12.7% (9.1%)
一部の関連会社投資	1,220	割引キャッシュ・フロー法	割引率	9.8% (9.8%)
合計	44,277			

当社および子会社は、レベル3の資産および負債の公正価値を決定するために、割引キャッシュ・フロー法や自社で開発したモデルを使用しています。これらの評価技法を使用するために、資産および負債に関連するインプットや前提条件を決定します。インプットや前提条件には、上表に記載しているような重要な観察不能なインプットを含み、これらの観察不能なインプットが変動した場合、公正価値に重要な影響を与える可能性があります。

ある観察不能なインプットは、その変動が資産および負債の公正価値に一貫した方向で影響します。一方、その資産および負債の公正価値は、他のインプットの変動に対して逆方向に変動する可能性があります。複数のインプットが資産および負債の評価技法に使用されている場合、ひとつのインプットのある方向への変動は、他のインプットの逆方向の変動により相殺され、全体としては当該資産および負債の公正価値への影響が弱められることがあります。加えて、ある観察不能なインプットの変動が、他の観察不能なインプットを変動させることがあり、公正価値への影響を弱めることも強めることもあります。

各インプットの感応度に関する分析は、上述の評価プロセスおよび主な評価技法をご参照ください。

#### 4 買収

##### (1) Robeco Groep N.V. の取得

当社は、平成25年7月1日、Coöperatieve Centrale Raiffeisen-Boerenleenbank B.A.（本社：オランダ・ユトレヒト、以下、「ラボバンク」）の保有するRobeco Groep N.V.（本社：オランダ・ロッテルダム、以下、「ロベコ」）の普通株式の発行済株式総数の約90.01%を取得し、連結子会社化しました。ロベコは中堅規模のグローバルな資産運用会社で、全世界の機関投資家、個人投資家に向けて、幅広い戦略の中から様々な投資手法の組み合わせを提供しています。

株式の取得価額総額は、255,163百万円となりました。当該価額の支払は現金230,579百万円および自己株式19,408百万円にて行いました。なお、当社は、第三者割当による自己株式（13,902,900株）の交付によって対価の一部を支払うにあたって、平成25年2月19日付にてラボバンクとの間で締結した、株式に係る株式売買契約（その後の変更契約を含みます。）に従い、平成25年7月1日における株式会社東京証券取引所における当社普通株式の終値の1,396円としました。また、当社は株式売買契約にて、本件取引完了後の平成25年度から平成27年度までの各事業年度におけるロベコの特定の子会社の一定の資産運用に関する業績に応じた追加代金を現金にて支払うことについて合意しており、その見積公正価値5,176百万円を支払対価の計算に含めています。なお、前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末の条件付対価の公正価値はそれぞれ2,833百万円および5,912百万円です。当第2四半期連結累計期間において公正価値が3,126百万円増加し、47百万円が決済されました。公正価値の増加額3,126百万円は、連結損益計算書上その他の営業費用に計上しています。当該金額の変動は限定的と考えています。

なお、取得にかかった付随費用2,039百万円は、過年度の連結損益計算書上、販売費および一般管理費に計上しています。

この取得は、当社が金融とそれに付随するサービスを融合させた新しいビジネスモデルを追求する戦略の一環として、グローバルな資産運用事業の拡大を目的としています。当社は、ロベコのグローバルなブランド力、資産内容・投資家層・地域のいずれにおいても分散された事業ポートフォリオ、グローバルな販売ネットワーク、豊富な経験を持つ経営陣や有能な人材などを高く評価し、ロベコの買収を決定しました。良好な運用実績と高い経営力と専門性を有するロベコは、当社がグローバルに資産運用事業を展開していく上で理想的な会社です。また、当社がネットワークを確立しているアジア、中東地域において年金資産運用マーケットでのさらなる成長機会が見込まれます。

当社は、会計基準編纂書805(企業結合)に基づき取得原価の配分を実施しています。当社は取得法に基づき、識別可能資産、引受負債および非支配持分を公正価値で計上しています。なお、非支配持分の公正価値は、マーケット・アプローチ（類似企業比較法）を使用した評価額を考慮して見積もっています。

前連結会計年度では、取得原価の配分が完了していなかったため暫定的な会計処理を行っていましたが、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間において取得原価の配分が完了しました。その結果、ロベコの資産および負債に割り当てられた公正価値は、以下のとおりです。

	資産、負債および非支配持分の公正価値(百万円)
現金および現金等価物	43,737
投資有価証券	3,325
関連会社投資	931
その他受取債権	17,938
前払費用	1,908
社用資産	1,839
その他資産	372,107
資産合計	441,785
支払手形および未払金等	6,529
未払費用	50,222
未払法人税等	71,087
長期借入債務	31,016
負債合計	158,854
非支配持分	27,768
純額	255,163



この買収により計上された営業権および識別可能な無形資産は、それぞれ130,961百万円および205,730百万円で、当第2四半期連結会計期間末現在の連結貸借対照表上、その他資産に計上しています。営業権は、取得対価および非支配持分の公正価値が、認識した純資産を超過する部分として計算しています。当社はロベコの識別された資産および負債の公正価値測定に基づいて営業権の金額を算出しています。営業権は、ロベコの連結子会社化による新たな収益の流入によるオリックスグループの将来の成長や当社の既存の資産や事業とのシナジー等に起因しています。この営業権は税務上損金に算入されません。この取得に関して計上した営業権およびその他の無形資産は海外事業部門に計上しています。

この取得により計上した無形資産の内訳は以下のとおりです。

	公正価値で計上された 無形資産 (百万円)	加重平均償却年数(年)
償却しない無形資産：		
アセットマネジメント契約	152,680	—
商標権	18,115	—
小計	170,795	
償却すべき無形資産：		
顧客関係	32,994	7
ソフトウェア	1,941	7
小計	34,935	
合計	205,730	

下記の補足的プロフォーマ財務情報（非監査）は、この取得が平成25年3月期の期首（平成24年4月1日）に発生したと仮定した場合の当社および子会社の業績合計額です。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)
営業収益	640,726
継続事業からの利益	80,966

前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間の連結損益計算書に計上しているロベコの営業収益および継続事業からの利益は、それぞれ34,745百万円および4,877百万円です。

この概算の補足的プロフォーマ財務情報（非監査）は、当社が合理的と考える見積もりおよび前提にもとづき作成されたものであり、この取得が平成25年3月期の開始の日に完了したと仮定した場合の当社の業績を示す指標として用いるべきではありません。なお、この取得がなかった場合には発生していない、この取得に直接起因する、特定の専門家費用の損益については上記の金額に含んでいません。

## (2) 株式会社大京の取得

当社は、平成17年3月に、マンション開発事業およびマンション管理事業を展開する株式会社大京（本社：東京都渋谷区、以下、「大京」）と資本提携し、大京の普通株式133,720,000株を引き受けるとともに第1種優先株式10,000,000株、第2種優先株式15,000,000株および第4種優先株式25,000,000株を取得しました。なお、当社が取得した第2種優先株式および第4種優先株式の一部については、平成20年6月に買入消却が行われています。さらに、当社は、平成21年3月に、大京の第7種優先株式25,000,000株を引き受け、第8種優先株式23,598,144株を取得しました。大京グループは、当社との資本提携以降、マンション開発事業等のフロー事業主体のビジネスモデルから、マンション管理・流通事業等のストック事業とのバランスの取れたビジネスモデルへの転換、ならびに安定した収益構造の構築を進めました。

当社は、平成26年2月27日、当社が保有する大京の第2種優先株式、第4種優先株式、第7種優先株式および第8種優先株式の全てについて、取得請求権を行使して、大京の普通株式398,204,999株を取得しました。これにより、当社の大京への議決権保有割合は31.7%から64.1%となり、大京は当社の持分法適用関連会社から連結子会社になりました。なお、本取得請求権行使に係る当社の追加出資はありません。

なお、前連結会計年度の第4四半期連結会計期間において取得にかかった付随費用23百万円は、連結損益計算書上、販売費および一般管理費に計上しています。

当社は、平成26年2月の取得前は大京の持分を持分法で会計処理していました。また、段階取得に関する企業結合の会計基準に従い、当社はこの取得前から保有している大京持分（普通株式および優先株式）を主にコントロール・プレミアム調整後の普通株式の市場価格に基づいて算定した公正価値124,606百万円で再評価した結果、前連結会計年度の第4四半期連結会計期間に58,435百万円の利益（純額）を子会社・関連会社株式売却損益および清算損に計上しました。

この取得で大京支配持分を獲得したため連結し、会計基準編纂書805(企業結合)に基づき取得原価124,606百万円の配分を実施しています。当社は取得法に基づき、識別可能資産、引受負債および非支配持分を公正価値で計上しています。なお、非支配持分は、取得日の普通株式の市場価格に基づき評価しています。大京の資産および負債に割り当てられた暫定的な公正価値は、以下のとおりです。大京の取得は前連結会計年度の第4四半期連結会計期間中であったため、当四半期報告書提出日現在、取得原価の配分は終了していません。当該取得に関する会計処理は完了していないため、以下の資産および負債の金額は変更される可能性があります。

	資産、負債および非支配持分の暫定的な公正価値(百万円)
現金および現金等価物	105,137
オペレーティング・リース投資	3,975
投資有価証券	1,313
関連会社投資	32,596
その他受取債権	16,635
棚卸資産	95,202
前払費用	935
社用資産	10,975
その他資産	95,238
資産合計	362,006
短期借入債務	1,387
支払手形および未払金等	58,924
未払費用	18,420
未払法人税等	17,972
受入保証金	6,334
長期借入債務	65,710
負債合計	168,747
非支配持分	68,653
純額	124,606

この買収により計上された暫定的な営業権および識別可能な無形資産は、それぞれ12,957百万円および60,308百万円で当第2四半期連結会計期間末現在の連結貸借対照表上、その他資産に計上しています。営業権は、取得対価および非支配持分の公正価値が、認識した純資産を超過する部分として計算しています。当社は大京の識別された資産および負債の暫定的な公正価値測定に基づいて営業権の金額を算出しています。営業権およびその他の無形資産の金額は変更される可能性があります。この変更による連結損益計算書への重要な影響は見込まれていません。営業権は、大京の連結子会社化による新たな収益の流入によるオリックスグループの将来の成長や当社の既存の資産や事業とのシナジー等に起因しています。この営業権は税務上損金に算入されません。この取得に関して計上した営業権およびその他の無形資産は事業投資事業部門に計上しています。

この取得により計上した無形資産の内訳は以下のとおりです。

	公正価値で計上された 無形資産 (百万円)	加重平均償却年数(年)
償却しない無形資産：		
商標権	20,355	—
小計	20,355	
償却すべき無形資産：		
顧客関係	37,463	18
受注残	2,490	2
小計	39,953	
合計	60,308	

下記の補足的プロフォーマ財務情報（非監査）は、この取得が平成25年3月期の期首（平成24年4月1日）に発生したと仮定した場合の当社および子会社の業績合計額です。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)
営業収益	745,711
継続事業からの利益	89,527

当第2四半期連結累計期間の連結損益計算書に計上している大京の営業収益および継続事業からの損失は、それぞれ105,551百万円および910百万円です。また、当第2四半期連結会計期間の連結損益計算書に計上している大京の営業収益および継続事業からの損失は、それぞれ48,723百万円および2,932百万円です。

この概算の補足的プロフォーマ財務情報（非監査）は、当社が合理的と考える見積もりおよび前提にもとづき作成されたものであり、この取得が平成25年3月期の開始の日に完了したと仮定した場合の当社の業績を示す指標として用いるべきではありません。

### (3) ハートフォード生命保険株式会社の取得

当社は、当社の100%子会社であるオリックス生命保険株式会社（以下、「オリックス生命」）において、オリックス生命の資本強化と経営の健全性の向上を図り、今後の成長を目指すため、平成26年4月28日付にてThe Hartford Financial Services Group, Inc.の孫会社であるHartford Life, Inc.（本社：アメリカ合衆国コネチカット州シムズベリー、以下、「Hartford Life」）との間で締結した株式売買契約に従い、平成26年7月1日、Hartford Lifeの保有するハートフォード生命保険株式会社（本社：東京都港区、事業内容：生命保険事業およびその再保険事業、以下、「ハートフォード生命」）の発行済株式の全てを取得し、連結子会社化しました。ハートフォード生命は、平成21年6月以降は保険商品の新規取扱いを休止しています。

株式の取得価額総額は、97,676百万円となりました。当該取得価額の支払は、平成26年7月1日に現金にて行いました。ただし、当該取得価額は、Hartford Lifeと締結した株式売買契約に基づき、平成26年6月30日時点のハートフォード生命の財務状況の確定値等に基づき、今後調整される予定です。当該調整金額が当社の連結財務諸表に与える影響は重要でないと考えています。

なお、取得にかかった付随費用は、前連結会計年度において224百万円、当第2四半期連結累計期間において1,170百万円であり、連結損益計算書上、販売費および一般管理費に計上しています。

当社は、会計基準編纂書805(企業結合)に基づき取得原価の配分を実施しています。当社は取得法に基づき、識別可能資産および引受負債を公正価値で計上しています。

ハートフォード生命の資産および負債に割り当てられた暫定的な公正価値は、以下のとおりです。ハートフォード生命の取得は当第2四半期連結会計期間中であつたため、当四半期報告書提出日現在、取得原価の配分は終了していません。当該取得に関する会計処理は完了していないため、以下の資産および負債の金額は変更される可能性があります。

当社は、当該取得において、ハートフォード生命の識別可能資産および引受負債を公正価値に基づき認識し、取得対価の公正価値が認識された純資産の公正価値を下回る金額36,761百万円を当第2四半期連結累計期間においてバーゲン・パーチェス益として連結損益計算書上、独立して表示して計上しています。

	資産、負債の暫定的な公正価値(百万円)
現金および現金等価物	69,244
営業貸付金	282
投資有価証券	1,847,536
その他受取債権	14,373
前払費用	116
社用資産	351
その他資産	371,095
資産合計	2,302,997
短期借入債務	25,000
支払手形および未払金等	4,064
未払費用	5,826
保険契約債務および保険契約者勘定	2,125,257
未払法人税等	8,413
負債合計	2,168,560
純額	134,437
取得対価の公正価値	97,676
バーゲン・パーチェス益	36,761

下記の補足的プロフォーマ財務情報（非監査）は、この取得が平成26年3月期の期首（平成25年4月1日）に発生したと仮定した場合の当社および子会社の業績合計額です。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
営業収益	893,260	987,625
継続事業からの利益	89,632	153,700

当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間の連結損益計算書に計上しているハートフォード生命の営業収益および継続事業からの損失は、それぞれ70,677百万円と969百万円です。

この概算の補足的プロフォーマ財務情報（非監査）は、当社が合理的と考える見積もりおよび前提にもとづき作成されたものであり、この取得が平成26年3月期の開始の日に完了したと仮定した場合の当社の業績を示す指標として用いるべきではありません。当社はハートフォード生命の取得時点において保険契約債務の評価について公正価値オプションを選択し、過年度に公正価値オプションを選択した場合の金額を合理的に計算することができないため、この補足的プロフォーマ財務情報（非監査）は、会計基準編纂書944（金融サービス-保険）に基づき公正価値オプションを適用しなかったものとして作成しています。

前第2四半期連結累計期間において行った買収および当第2四半期連結累計期間において行ったその他の買収は、重要性がありません。

5 金融債権の信用の質および貸倒引当金

当社および子会社は、会計基準編纂書310(債権)を適用しています。この会計基準編纂書は、以下の情報をポートフォリオ・セグメント別またはそれをさらに細分化した金融債権のクラス別に開示することを要求しています。

- ・貸倒引当金に関する情報 — ポートフォリオ・セグメント別に開示
- ・金融債権に関する情報 — クラス別に開示
  - 減損している営業貸付金
  - 信用の質
  - 支払期日経過および収益計上停止
- ・問題債権のリストラクチャリングに関する情報 — クラス別に開示

ポートフォリオ・セグメントとは、企業が貸倒引当金を決定するために策定および文書化した体系的手法が適用されるレベル、と定義されています。当社および子会社におけるポートフォリオ・セグメントは、営業貸付金の商品別およびファイナンス・リースに区分しています。また、金融債権のクラスとは、取得時の測定方法や金融債権のリスク特性、債務者の信用リスクをモニタリングし、評価する方法に基づいて決定され、財務諸表の利用者が金融債権に固有のリスクを理解するために十分詳細なレベルと定義されています。金融債権のクラスは一般的に、ポートフォリオ・セグメントを細分化したものであり、当社および子会社においては、ポートフォリオ・セグメントを地域別、商品別または貸出先の業種別に細分化しています。

前第2四半期連結累計期間、前第2四半期連結会計期間、前連結会計年度末、当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間における貸倒引当金に関する情報は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間							
	営業貸付金				買取債権 (百万円) ※1	ファイナンス ・リース (百万円)	合計 (百万円)
	個人向け (百万円)	法人向け					
		ノンリコース ローン (百万円)	その他 (百万円)				
貸倒引当金:							
期首残高	14,526	16,717	41,875	15,316	15,830	104,264	
繰入額 (△戻入額)	2,080	△12	△212	1,799	1,574	5,229	
取崩額	△2,045	△2,169	△5,496	△3,027	△2,350	△15,087	
繰戻額	226	140	254	95	41	756	
その他 ※2	3	△5,624	316	60	△5	△5,250	
期末残高	14,790	9,052	36,737	14,243	15,090	89,912	
個別引当対象	3,427	7,936	29,205	12,640	—	53,208	
個別引当対象外	11,363	1,116	7,532	1,603	15,090	36,704	
金融債権:							
期末残高	1,202,526	247,303	795,606	59,523	1,019,265	3,324,223	
個別引当対象	11,564	35,869	94,150	25,040	—	166,623	
個別引当対象外	1,190,962	211,434	701,456	34,483	1,019,265	3,157,600	

前第2四半期連結会計期間							
	営業貸付金				買取債権 (百万円) ※1	ファイナンス ・リース (百万円)	合計 (百万円)
	個人向け (百万円)	法人向け					
		ノンリコース ローン (百万円)	その他 (百万円)				
貸倒引当金:							
期首残高	15,193	10,581	40,667	14,764	15,719	96,924	
繰入額 (△戻入額)	608	115	△436	1,648	946	2,881	
取崩額	△1,170	△338	△3,632	△2,176	△1,433	△8,749	
繰戻額	156	140	163	5	15	479	
その他 ※3	3	△1,446	△25	2	△157	△1,623	
期末残高	14,790	9,052	36,737	14,243	15,090	89,912	

前連結会計年度末						
	営業貸付金				ファイナンス ・リース (百万円)	合計 (百万円)
	個人向け (百万円)	法人向け		買取債権 (百万円) ※1		
		ノンリコース ローン (百万円)	その他 (百万円)			
貸倒引当金:						
期末残高	13,473	9,047	32,744	14,148	15,384	84,796
個別引当対象	3,279	8,534	25,054	12,288	—	49,155
個別引当対象外	10,194	513	7,690	1,860	15,384	35,641
金融債権:						
期末残高	1,236,414	174,204	837,329	53,341	1,094,073	3,395,361
個別引当対象	11,796	24,902	76,051	23,075	—	135,824
個別引当対象外	1,224,618	149,302	761,278	30,266	1,094,073	3,259,537

当第2四半期連結累計期間						
	営業貸付金				ファイナンス ・リース (百万円)	合計 (百万円)
	個人向け (百万円)	法人向け		買取債権 (百万円) ※1		
		ノンリコース ローン (百万円)	その他 (百万円)			
貸倒引当金:						
期首残高	13,473	9,047	32,744	14,148	15,384	84,796
繰入額 (△戻入額)	2,765	△958	△586	△616	1,372	1,977
取崩額	△3,635	△68	△3,339	△1,834	△1,592	△10,468
繰戻額	627	—	404	311	27	1,369
その他 ※4	68	△588	244	97	298	119
期末残高	13,298	7,433	29,467	12,106	15,489	77,793
個別引当対象	2,886	6,823	20,083	10,078	—	39,870
個別引当対象外	10,412	610	9,384	2,028	15,489	37,923
金融債権:						
期末残高	1,273,174	139,818	913,512	43,969	1,145,763	3,516,236
個別引当対象	11,736	16,954	56,322	18,324	—	103,336
個別引当対象外	1,261,438	122,864	857,190	25,645	1,145,763	3,412,900

当第2四半期連結会計期間						
	営業貸付金				ファイナンス ・リース (百万円)	合計 (百万円)
	個人向け (百万円)	法人向け		買取債権 (百万円) ※1		
		ノンリコース ローン (百万円)	その他 (百万円)			
貸倒引当金:						
期首残高	13,615	8,623	30,893	12,962	15,201	81,294
繰入額 (△戻入額)	1,261	△701	491	△317	992	1,726
取崩額	△2,228	△18	△2,541	△741	△1,063	△6,591
繰戻額	588	—	318	115	16	1,037
その他 ※4	62	△471	306	87	343	327
期末残高	13,298	7,433	29,467	12,106	15,489	77,793

※1 買取債権とは、会計基準編纂書310-30(債権一悪化した信用状態で取得した貸付金と債券)に従って、当初契約実行時より債務者の信用リスクが悪化し、取得時において契約上要求されている支払額の全額は回収できないと想定される債権です。

※2 その他には、主に為替相場の変動を含んでいます。また、ノンリコースローンのその他には、連結していた一部のVIEに対する持分を第三者に譲渡し、連結対象外になったことに伴う貸倒引当金の減少6,243百万円を含んでいます。

※3 その他には、主に為替相場の変動を含んでいます。また、ノンリコースローンのその他には、連結していた一部のVIEに対する持分を第三者に譲渡し、連結対象外になったことに伴う貸倒引当金の減少1,371百万円を含んでいます。

※4 その他には、主に為替相場の変動および子会社化に伴う貸倒引当金の減少を含んでいます。

貸倒引当金の計上において、当社および子会社は、多数の要因の中でもとりわけ以下の要因を考慮しています。

- ・債務者の事業特性と財政状態
- ・経済状況およびそのトレンド
- ・過去の貸倒償却実績
- ・未収状況および過去のトレンド
- ・債権に対する担保および保証の価値

当社および子会社においては、営業貸付金のうち減損しているものについては個別に貸倒引当金を計上しています。また、減損していない営業貸付金（個別に減損判定を行わないものを含む）およびファイナンス・リースについては、債務者の業種や資金用途による区分を行い、当該区分ごとに過去の貸倒実績率を算出し、その貸倒実績率と現在の経済状況等を勘案し見積もった貸倒見込みに基づいて貸倒引当金を計上しています。

すべてのポートフォリオ・セグメントに共通し、債務者の業況悪化により元利金返済が滞るリスクがあります。個人向け営業貸付金については、債務者固有の状況や担保および保証の価値や過去の貸倒償却実績の変動により貸倒引当金の設定額は変動します。法人向けその他の営業貸付金およびファイナンス・リースについては、債務者の状況に加え、その属している業界の経済状況およびトレンド、担保および保証の価値、過去の貸倒償却実績などの要素により貸倒引当金の設定額は変動します。

また、営業貸付金およびファイナンス・リースの担保資産の価値が下落し、回収不能となるリスクも存在します。特に、不動産からのキャッシュ・フローを返済原資とするノンリコースローンについては、その回収可能額が主に不動産担保の価値に依存しています。そのため、不動産市場の流動性の悪化、賃貸不動産の空室率の上昇、賃貸料の下落などにより、その担保価値が下落するリスクがあります。このようなリスクにより、貸倒引当金の設定額は変動します。買取債権については、その回収可能額は不動産担保の価値の下落や債務者の経済状況の悪化により減少します。したがって、これらのリスクにより貸倒引当金の設定額は変動します。

当社および子会社は、すべてのポートフォリオ・セグメントに共通し、債務者の財政状態および担保資産の処分状況等から将来の回収可能性がほとんどないと判断した場合には、当該債権を償却しています。

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在における減損している営業貸付金に関する情報は以下のとおりです。

前連結会計年度末				
ポートフォリオ・セグメント	クラス	個別引当対象の 営業貸付金残高 (百万円)	左記のうち 元本残高 (百万円)	個別引当対象の 貸倒引当金残高 (百万円)
全額回収可能債権額 ※1:		25,049	25,025	—
個人向け営業貸付金		725	711	—
	住宅ローン	725	711	—
	カードローン	—	—	—
	その他	—	—	—
法人向け営業貸付金		24,324	24,314	—
ノンリコースローン				
	日本	6,505	6,505	—
	米州	2,259	2,259	—
その他				
	不動産業	3,770	3,767	—
	娯楽産業	2,614	2,613	—
	その他	9,176	9,170	—
買取債権		—	—	—
要引当対象債権額 ※2:		110,775	110,064	49,155
個人向け営業貸付金		11,071	11,010	3,279
	住宅ローン	6,592	6,543	2,432
	カードローン	2,950	2,942	629
	その他	1,529	1,525	218
法人向け営業貸付金		76,629	75,979	33,588
ノンリコースローン				
	日本	1,363	1,299	1,020
	米州	14,775	14,746	7,514
その他				
	不動産業	25,099	25,046	8,911
	娯楽産業	5,213	5,172	1,801
	その他	30,179	29,716	14,342
買取債権		23,075	23,075	12,288
合計:		135,824	135,089	49,155
個人向け営業貸付金		11,796	11,721	3,279
	住宅ローン	7,317	7,254	2,432
	カードローン	2,950	2,942	629
	その他	1,529	1,525	218
法人向け営業貸付金		100,953	100,293	33,588
ノンリコースローン				
	日本	7,868	7,804	1,020
	米州	17,034	17,005	7,514
その他				
	不動産業	28,869	28,813	8,911
	娯楽産業	7,827	7,785	1,801
	その他	39,355	38,886	14,342
買取債権		23,075	23,075	12,288



当第2四半期連結会計期間末				
ポートフォリオ・セグメント	クラス	個別引当対象の 営業貸付金残高 (百万円)	左記のうち 元本残高 (百万円)	個別引当対象の 貸倒引当金残高 (百万円)
全額回収可能債権額 ※1:		14,405	14,392	—
個人向け営業貸付金		614	608	—
	住宅ローン	614	608	—
	カードローン	—	—	—
	その他	—	—	—
法人向け営業貸付金		13,791	13,784	—
ノンリコースローン	日本	5,189	5,189	—
	米州	—	—	—
その他	不動産業	1,152	1,150	—
	娯楽産業	1,324	1,323	—
	その他	6,126	6,122	—
買取債権		—	—	—
要引当対象債権額 ※2:		88,931	88,326	39,870
個人向け営業貸付金		11,122	11,021	2,886
	住宅ローン	5,566	5,480	2,018
	カードローン	3,430	3,421	604
	その他	2,126	2,120	264
法人向け営業貸付金		59,485	58,981	26,906
ノンリコースローン	日本	—	—	—
	米州	11,765	11,760	6,823
その他	不動産業	17,563	17,533	5,983
	娯楽産業	3,890	3,868	1,560
	その他	26,267	25,820	12,540
買取債権		18,324	18,324	10,078
合計:		103,336	102,718	39,870
個人向け営業貸付金		11,736	11,629	2,886
	住宅ローン	6,180	6,088	2,018
	カードローン	3,430	3,421	604
	その他	2,126	2,120	264
法人向け営業貸付金		73,276	72,765	26,906
ノンリコースローン	日本	5,189	5,189	—
	米州	11,765	11,760	6,823
その他	不動産業	18,715	18,683	5,983
	娯楽産業	5,214	5,191	1,560
	その他	32,393	31,942	12,540
買取債権		18,324	18,324	10,078

※1 全額回収可能債権額とは、減損している営業貸付金のうち、債権全額が回収可能であるとして貸倒引当金を計上していない営業貸付金です。

※2 要引当対象債権額とは、減損している営業貸付金のうち、債権全額もしくはその一部が回収不可能であるとして貸倒引当金を計上している営業貸付金です。

当社および子会社は、買取債権および個人向け以外の営業貸付金について、元本または利息が期日から90日以上経過しても回収されない状況や、債務者の法的整理の申請、銀行取引停止処分、手形不渡りなどの状況の発生、その他債務者の経済状況が悪化したことにより、契約に従った支払条件に沿って元本および利息を回収できない可能性が高いと判断した場合に、減損したものと考えています。また、ノンリコースローンについては、これらの状況に加え、財務制限条項および期限の利益喪失、LTV（担保掛目）比率やその他の入手可能な関連情報を用いて減損の判定を行っています。買取債権については、不動産担保の価値の下落や、債務者の経済状況が債権の取得時よりも悪化したことにより、その債権に対する帳簿価額全額を回収できない可能性が高いと判断した場合に減損したものと考えています。個人向け住宅ローン、個人向けカードローンおよび個人向けその他のクラスに分類される営業貸付金については、契約条件の緩和により回収条件が変更された場合に、減損したものと考えています。

買取債権以外の減損した営業貸付金から生じる利息回収額は、貸付元本残高に回収可能性があると思込まれる場合は利息収入として計上し、回収可能性が乏しい場合は、貸付元本の回収額として処理しています。また、買取債権は法的には貸付債権として保有されますが、債務不履行の状態にある債権は通常の回収手段により回収されることは期待できず、買い取り後の担保の回収にあたっては個別の方策が必要とされるため、回収額、回収時期、回収方法を合理的に見積もることはできません。このため、買取債権については減損の有無にかかわらず原価回収基準による方法で収益認識を行っています。

すべてのクラスに共通し、減損した営業貸付金は将来キャッシュ・フローの現在価値、債権の観察可能な市場価額または、担保依存のものは担保の公正価額に基づいて個別に評価されます。ノンリコースローンにおいては、その回収可能額が主に不動産担保に依存しているため、原則として担保不動産の公正価額に基づいて回収可能額を評価しています。また、一部のノンリコースローンについては、その回収可能額を将来キャッシュ・フローの現在価値に基づいて評価しています。不動産担保の公正価額については、状況に応じて、同種の資産の売却を含む最近の取引事例やその他の評価技法、例えば稼働中の既存資産または開発プロジェクトの完成により生み出されると見積もられる将来キャッシュ・フローを使った割引現在価値法などに基づき、独立した鑑定機関や内部の不動産鑑定士により評価されます。通常、年1回新しい鑑定評価を取得しています。さらに、担保不動産の状況を定期的にモニタリングし、公正価額に重要な影響を及ぼすかもしれない重要な変化が生じた場合には新しい鑑定評価を取得しています。なお、減損した買取債権について、その帳簿価額と回収可能額との差額に対して貸倒引当金を計上しています。

前第2四半期連結累計期間、当第2四半期連結累計期間、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における減損している営業貸付金の期中平均残高および貸付金収益計上額に関する情報は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間				
ポートフォリオ・セグメント	クラス	減損した営業貸付金の期中平均残高 ※ (百万円)	減損した営業貸付金の貸付金収益計上額 (百万円)	左記のうち 現金回収額 (百万円)
個人向け営業貸付金		11,252	160	132
	住宅ローン	8,341	131	111
	カードローン	2,190	19	14
	その他	721	10	7
法人向け営業貸付金		150,956	1,912	1,852
ノンリコースローン	日本	20,250	122	121
	米州	26,246	415	415
その他	不動産業	42,991	471	458
	娯楽産業	11,230	241	223
	その他	50,239	663	635
買取債権		27,082	—	—
合計		189,290	2,072	1,984
当第2四半期連結累計期間				
ポートフォリオ・セグメント	クラス	減損した営業貸付金の期中平均残高 ※ (百万円)	減損した営業貸付金の貸付金収益計上額 (百万円)	左記のうち 現金回収額 (百万円)
個人向け営業貸付金		11,728	142	105
	住宅ローン	6,739	89	64
	カードローン	3,175	30	23
	その他	1,814	23	18
法人向け営業貸付金		88,436	1,243	944
ノンリコースローン	日本	6,539	—	—
	米州	14,852	260	260
その他	不動産業	23,880	275	214
	娯楽産業	6,771	135	82
	その他	36,394	573	388
買取債権		20,739	—	—
合計		120,903	1,385	1,049

前第2四半期連結会計期間				
ポートフォリオ・セグメント	クラス	減損した営業貸付金の 期中平均残高 ※ (百万円)	減損した営業貸付金の 貸付金収益計上額 (百万円)	左記のうち 現金回収額 (百万円)
個人向け営業貸付金		11,449	103	87
	住宅ローン	8,263	88	74
	カードローン	2,356	9	8
	その他	830	6	5
法人向け営業貸付金		140,048	763	740
ノンリコースローン	日本	18,667	3	2
	米州	20,551	112	112
その他	不動産業	40,924	248	244
	娯楽産業	10,826	58	54
	その他	49,080	342	328
買取債権		26,070	—	—
合計		177,567	866	827

当第2四半期連結会計期間				
ポートフォリオ・セグメント	クラス	減損した営業貸付金の 期中平均残高 ※ (百万円)	減損した営業貸付金の 貸付金収益計上額 (百万円)	左記のうち 現金回収額 (百万円)
個人向け営業貸付金		11,695	76	60
	住宅ローン	6,451	50	36
	カードローン	3,287	14	13
	その他	1,957	12	11
法人向け営業貸付金		82,179	424	358
ノンリコースローン	日本	5,875	—	—
	米州	13,761	101	101
その他	不動産業	21,386	53	52
	娯楽産業	6,243	29	29
	その他	34,914	241	176
買取債権		19,571	—	—
合計		113,445	500	418

※ 平均残高は、期首残高および四半期末残高により算出しています。

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在における信用の質に関する情報は以下のとおりです。

前連結会計年度末						
ポートフォリオ・セグメント	クラス	一般債権 (百万円)	不良債権			合計 (百万円)
			個別引当対象 (百万円)	個別引当対象外 90日以上未収債権 (百万円)	不良債権合計 (百万円)	
個人向け営業貸付金		1,218,469	11,796	6,149	17,945	1,236,414
	住宅ローン	968,269	7,317	4,211	11,528	979,797
	カードローン	225,198	2,950	720	3,670	228,868
	その他	25,002	1,529	1,218	2,747	27,749
法人向け営業貸付金		910,580	100,953	—	100,953	1,011,533
ノンリコースローン	日本	64,757	7,868	—	7,868	72,625
	米州	84,545	17,034	—	17,034	101,579
その他	不動産業	217,096	28,869	—	28,869	245,965
	娯楽産業	99,057	7,827	—	7,827	106,884
	その他	445,125	39,355	—	39,355	484,480
買取債権		30,266	23,075	—	23,075	53,341
ファイナンス・リース		1,080,186	—	13,887	13,887	1,094,073
	日本	751,877	—	9,560	9,560	761,437
	海外	328,309	—	4,327	4,327	332,636
合計		3,239,501	135,824	20,036	155,860	3,395,361

当第2四半期連結会計期間末						
ポートフォリオ・セグメント	クラス	一般債権 (百万円)	不良債権			合計 (百万円)
			個別引当対象 (百万円)	個別引当対象外 90日以上未収債権 (百万円)	不良債権合計 (百万円)	
個人向け営業貸付金		1,255,760	11,736	5,678	17,414	1,273,174
	住宅ローン	999,886	6,180	3,474	9,654	1,009,540
	カードローン	232,605	3,430	710	4,140	236,745
	その他	23,269	2,126	1,494	3,620	26,889
法人向け営業貸付金		980,054	73,276	—	73,276	1,053,330
ノンリコースローン	日本	43,467	5,189	—	5,189	48,656
	米州	79,397	11,765	—	11,765	91,162
その他	不動産業	232,562	18,715	—	18,715	251,277
	娯楽産業	91,869	5,214	—	5,214	97,083
	その他	532,759	32,393	—	32,393	565,152
買取債権		25,645	18,324	—	18,324	43,969
ファイナンス・リース		1,130,482	—	15,281	15,281	1,145,763
	日本	770,641	—	10,053	10,053	780,694
	海外	359,841	—	5,228	5,228	365,069
合計		3,391,941	103,336	20,959	124,295	3,516,236

※ 上表には、売却予定の営業貸付金を含めていません。

当社および子会社では、すべてのクラスに共通し、信用の質を一般債権および不良債権として管理しています。不良債権に分類している債権は、法的整理の申請先、銀行取引停止処分先、手形不渡り発生先、90日以上未収先および契約条件の緩和により回収条件が変更された債権などであり、一般債権はそれ以外の債権をいいます。なお、買取債権については、その債権に対する帳簿価額全額を回収できない可能性が高いと判断された、減損した債権を不良債権として管理し、それ以外の債権を一般債権としています。

不良債権のうち、1つのグループとして評価される多数の同種小口の営業貸付金（契約条件の緩和を行っていない個人向けの住宅ローン・カードローン等を含んでいます）やファイナンス・リースを、個別引当対象外90日以上未収債権、それ以外を個別引当対象債権として個別に管理しています。不良債権に対し引当金を計上した後も、担保の価値、債務者の経営状況、およびその他の重要な要因を少なくとも四半期ごとにモニタリングし経営陣に報告するとともに、必要に応じて追加の貸倒引当金を設定しています。

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在における支払期日経過および収益計上停止に関する情報は以下のとおりです。

前連結会計年度末						
ポートフォリオ・セグメント	クラス	支払期日経過債権			金融債権 合計 (百万円)	収益計上 停止債権額 (百万円)
		30日以上 90日未満 (百万円)	90日以上 (百万円)	支払期日経過 債権合計 (百万円)		
個人向け営業貸付金		4,477	10,542	15,019	1,236,414	10,542
	住宅ローン	3,157	8,009	11,166	979,797	8,009
	カードローン	731	1,204	1,935	228,868	1,204
	その他	589	1,329	1,918	27,749	1,329
法人向け営業貸付金		20,977	45,372	66,349	1,011,533	58,298
ノンリコースローン	日本	1,364	5,418	6,782	72,625	5,418
	米州	17,470	3,687	21,157	101,579	14,432
その他	不動産業	149	13,005	13,154	245,965	13,005
	娯楽産業	1,195	1,297	2,492	106,884	1,297
	その他	799	21,965	22,764	484,480	24,146
ファイナンス・リース		6,365	13,887	20,252	1,094,073	13,887
	日本	1,563	9,560	11,123	761,437	9,560
	海外	4,802	4,327	9,129	332,636	4,327
合計		31,819	69,801	101,620	3,342,020	82,727

当第2四半期連結会計期間末						
ポートフォリオ・セグメント	クラス	支払期日経過債権			金融債権 合計 (百万円)	収益計上 停止債権額 (百万円)
		30日以上 90日未満 (百万円)	90日以上 (百万円)	支払期日経過 債権合計 (百万円)		
個人向け営業貸付金		3,567	9,289	12,856	1,273,174	9,289
	住宅ローン	1,918	6,490	8,408	1,009,540	6,490
	カードローン	866	1,150	2,016	236,745	1,150
	その他	783	1,649	2,432	26,889	1,649
法人向け営業貸付金		15,535	43,799	59,334	1,053,330	48,010
ノンリコースローン	日本	—	5,189	5,189	48,656	5,189
	米州	14,543	9,797	24,340	91,162	9,797
その他	不動産業	25	9,761	9,786	251,277	12,327
	娯楽産業	—	1,437	1,437	97,083	1,437
	その他	967	17,615	18,582	565,152	19,260
ファイナンス・リース		5,706	15,281	20,987	1,145,763	15,281
	日本	1,258	10,053	11,311	780,694	10,053
	海外	4,448	5,228	9,676	365,069	5,228
合計		24,808	68,369	93,177	3,472,267	72,580

※ 上表には、売却予定の営業貸付金および買取債権は含めていません。

当社および子会社は、すべてのクラスに共通し、元本または利息が支払期日より30日以上経過しても回収されない債権を、支払期日経過債権として認識しています。なお、支払条件を緩和した債権について、緩和後の条件に従い、元本または利息の未収期間が支払期日より30日以上経過していない債権は、支払期日経過債権に含めていません。

支払期日経過債権のうち90日以上経過しても回収されない場合、またはそれ以前であっても、個々の顧客の信用状況、および過去の償却実績、未収およびその発生状況などの要因に基づいて経営陣が回収可能性に懸念があると判断した場合は、営業貸付金およびファイナンス・リースにかかる収益の計上を停止しています。収益計上停止対象となった債権から現金回収があった場合には、契約条件や債務者の状況等を考慮して、先ず未収利息に充当し残余を元本に充当しています。また、一定額が継続的に入金されるなど、約定に従った元本の返済の可能性が高くなったと判断した場合、営業貸付金およびファイナンス・リースの収益計上を再開しています。収益計上を再開するまでに必要となる継続的な入金期間は、債務者の事業特性や財政状態、経済環境およびトレンドなど、その債務者の支払能力を評価するときに考慮される諸状況に応じて変わります。

前第2四半期連結累計期間、当第2四半期連結累計期間、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において発生した金融債権に関する問題債権のリストラクチャリングについての情報は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間			
ポートフォリオ・セグメント	クラス	条件修正前残高 (百万円)	条件修正後残高 (百万円)
個人向け営業貸付金		1,803	1,172
	住宅ローン	272	127
	カードローン	994	704
	その他	537	341
法人向け営業貸付金		3,428	3,400
ノンリコースローン	米州	902	902
その他	不動産業 その他	66 2,460	46 2,452
合計		5,231	4,572

当第2四半期連結累計期間			
ポートフォリオ・セグメント	クラス	条件修正前残高 (百万円)	条件修正後残高 (百万円)
個人向け営業貸付金		2,638	1,891
	住宅ローン	273	143
	カードローン	1,295	979
	その他	1,070	769
法人向け営業貸付金		530	514
ノンリコースローン	米州	145	145
その他	その他	385	369
合計		3,168	2,405

前第2四半期連結会計期間			
ポートフォリオ・セグメント	クラス	条件修正前残高 (百万円)	条件修正後残高 (百万円)
個人向け営業貸付金		968	640
	住宅ローン	138	67
	カードローン	526	383
	その他	304	190
法人向け営業貸付金		2,411	2,411
その他	その他	2,411	2,411
合計		3,379	3,051

当第2四半期連結会計期間			
ポートフォリオ・セグメント	クラス	条件修正前残高 (百万円)	条件修正後残高 (百万円)
個人向け営業貸付金		1,424	1,008
	住宅ローン	131	63
	カードローン	698	537
	その他	595	408
法人向け営業貸付金		314	309
その他	その他	314	309
合計		1,738	1,317

問題債権のリストラクチャリングは、金融債権のリストラクチャリングのうち、債務者の財政難に関連して、経済的な理由等により、債権者が債務者に譲歩を行うものと定義されています。

当社および子会社は、問題債権のリストラクチャリングに際し、可能な限り債権の保全を図るために、様々な形式の譲歩を債務者に対して行っています。ノンリコースローンの債務者に対しては、その債権と類似したリスク特性を有する債務における市場金利を下回る金利での支払期日の延長などにより譲歩を行っています。ノンリコースローン以外のすべての金融債権の債務者に対しては、元本の減免、一時的な金利の減免や、その債権と類似したリスク特性を有する債務における市場金利を下回る金利での支払期日の延長などにより譲歩を行っています。なお、問題債権のリストラクチャリングに際し、当社および子会社は、債務者からの担保物件の取得によって、元本または未収利息の全部または一部に充当する場合があります。

すべてのポートフォリオ・セグメントに共通し、問題債権のリストラクチャリングに該当した金融債権は減損した金融債権として、個別にその回収可能額を評価し、貸倒引当金を計上します。なお、問題債権のリストラクチャリングに該当する金融債権の大部分は、リストラクチャリングが行われる以前から減損した金融債権として個別に貸倒引当金を計上していますが、そのようなリストラクチャリングを行った結果、当社および子会社は、追加の貸倒引当金を計上する場合があります。

前第2四半期連結会計期間末現在から過去12ヶ月間に問題債権のリストラクチャリングに該当する条件変更を行った金融債権のうち、前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間に債務不履行となった金融債権についての情報は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間		
ポートフォリオ・セグメント	クラス	条件修正後残高 (百万円)
個人向け営業貸付金		66
	住宅ローン	23
	カードローン	20
	その他	23
法人向け営業貸付金		303
その他	その他	303
合計		369

前第2四半期連結会計期間		
ポートフォリオ・セグメント	クラス	条件修正後残高 (百万円)
個人向け営業貸付金		16
	住宅ローン	3
	カードローン	12
	その他	1
法人向け営業貸付金		254
その他	その他	254
合計		270

当第2四半期連結会計期間末現在から過去12ヶ月間に問題債権のリストラクチャリングに該当する条件変更を行った金融債権のうち、当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間に債務不履行となった金融債権についての情報は以下のとおりです。

当第2四半期連結累計期間		
ポートフォリオ・セグメント	クラス	条件修正後残高 (百万円)
個人向け営業貸付金		106
	住宅ローン	24
	カードローン	58
	その他	24
法人向け営業貸付金		197
その他	その他	197
合計		303

当第2四半期連結会計期間		
ポートフォリオ・セグメント	クラス	条件修正後残高 (百万円)
個人向け営業貸付金		49
	住宅ローン	8
	カードローン	31
	その他	10
法人向け営業貸付金		31
その他	その他	31
合計		80

当社および子会社は、リストラクチャリング後の契約において、元本または利息が支払期日より90日以上経過しても回収されない債権などを、債務不履行となった金融債権として認識しています。

すべてのポートフォリオ・セグメントに共通し、債務不履行となった金融債権については、収益の計上を停止し、また必要に応じて追加の貸倒引当金を設定する場合があります。



## 6 投資有価証券

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在における投資有価証券の内訳は、以下のとおりです。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
短期売買目的有価証券 ※	16,079	1,463,900
売却可能有価証券	881,606	1,222,973
満期保有目的有価証券	96,731	95,366
その他の有価証券	220,160	203,559
合計	1,214,576	2,985,798

※ 短期売買目的有価証券には、当第2四半期連結会計期間末現在において、子会社の買収に伴い増加した変額年金保険契約および変額保険契約の運用資産を1,448,821百万円計上しています。

その他の有価証券は、主に、原価法を採用している市場性のない株式や優先出資証券および持分に応じて損益取込みを行っている投資ファンドから構成されています。前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、その他の有価証券のうち原価法により評価されるものの帳簿残高はそれぞれ80,953百万円および75,682百万円であり、このうち減損の評価を行っていないものはそれぞれ72,089百万円および75,530百万円です。減損の評価を行わなかったのは、投資の公正価額に著しく不利な影響を及ぼす事象や状況の変化がみられず、かつ投資の公正価額を見積もることが実務上困難なためです。

当社の一部の子会社は、売却可能有価証券に含まれる一部の持分証券について、会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを選択しています。前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、売却可能有価証券に含まれる持分証券は、公正価値オプションを選択した投資をそれぞれ5,116百万円および8,522百万円含んでいます。

当社の一部の子会社は、その他の有価証券に含まれる一部の投資ファンドについて、会計基準編纂書825(金融商品)で定める公正価値オプションを選択しています。これらの投資は流動性に乏しいため、当該投資ファンドの純資産価値は公正価値を示していないと考えられます。子会社はこれらの投資を公正価値基準で管理し、公正価値オプションを選択することでより適切な前提に基づいてこれらの投資の公正価値を測定することができます。前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、その他の有価証券は、公正価値オプションを選択した投資ファンドをそれぞれ6,317百万円および9,105百万円含んでいます。

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在における、売却可能有価証券および満期保有目的有価証券の種類別の償却原価、未実現評価益総額、未実現評価損総額および公正価額の内訳は以下のとおりです。

	前連結会計年度末			
	償却原価 (百万円)	未実現評価益総額 (百万円)	未実現評価損総額 (百万円)	公正価額 (百万円)
売却可能有価証券：				
日本および海外の国債	359,148	1,230	△18	360,360
日本および海外の地方債	93,927	2,913	△143	96,697
社債	199,340	2,601	△555	201,386
特定社債	6,850	70	△148	6,772
米州のCMB S/RMB S	17,445	614	△226	17,833
その他資産担保証券	47,344	1,269	△815	47,798
その他の負債証券	9,508	2,042	—	11,550
持分証券	87,988	51,783	△561	139,210
小計	821,550	62,522	△2,466	881,606
満期保有目的有価証券：				
日本の国債等	96,731	7,305	—	104,036
合計	918,281	69,827	△2,466	985,642

	当第2四半期連結会計期間末			
	償却原価 (百万円)	未実現評価益総額 (百万円)	未実現評価損総額 (百万円)	公正価額 (百万円)
売却可能有価証券：				
日本および海外の国債	516,949	3,485	△63	520,371
日本および海外の地方債	149,113	4,546	△56	153,603
社債	289,159	3,578	△190	292,547
特定社債	6,334	55	△49	6,340
米州のCMB S/RMB S	46,201	1,330	△290	47,241
その他資産担保証券	48,981	1,298	△508	49,771
その他の負債証券	9,523	2,397	—	11,920
持分証券	103,168	42,973	△4,961	141,180
小計	1,169,428	59,662	△6,117	1,222,973
満期保有目的有価証券：				
日本の国債等	95,366	10,113	—	105,479
合計	1,264,794	69,775	△6,117	1,328,452

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、未実現評価損を計上している売却可能有価証券の未実現評価損継続期間別の内訳は以下のとおりです。

	前連結会計年度末					
	12ヶ月未満		12ヶ月以上		合計	
	公正価額 (百万円)	未実現 評価損総額 (百万円)	公正価額 (百万円)	未実現 評価損総額 (百万円)	公正価額 (百万円)	未実現 評価損総額 (百万円)
売却可能有価証券：						
日本および海外の国債	140,133	△10	14,977	△8	155,110	△18
日本および海外の地方債	31,407	△143	—	—	31,407	△143
社債	27,496	△31	10,968	△524	38,464	△555
特定社債	—	—	2,138	△148	2,138	△148
米州のCMB S/RMB S	5,186	△55	884	△171	6,070	△226
その他資産担保証券	10,705	△36	1,656	△779	12,361	△815
持分証券	15,957	△541	99	△20	16,056	△561
合計	230,884	△816	30,722	△1,650	261,606	△2,466

	当第2四半期連結会計期間末					
	12ヶ月未満		12ヶ月以上		合計	
	公正価額 (百万円)	未実現 評価損総額 (百万円)	公正価額 (百万円)	未実現 評価損総額 (百万円)	公正価額 (百万円)	未実現 評価損総額 (百万円)
売却可能有価証券：						
日本および海外の国債	33,384	△63	—	—	33,384	△63
日本および海外の地方債	29,909	△41	158	△15	30,067	△56
社債	28,110	△24	10,282	△166	38,392	△190
特定社債	—	—	1,251	△49	1,251	△49
米州のCMB S/RMB S	8,152	△80	885	△210	9,037	△290
その他資産担保証券	17,392	△374	2,052	△134	19,444	△508
持分証券	26,580	△4,919	1,414	△42	27,994	△4,961
合計	143,527	△5,501	16,042	△616	159,569	△6,117

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、それぞれ184銘柄および179銘柄から未実現評価損が生じています。これらの有価証券の未実現評価損は、利率、クレジットスプレッドおよび市場動向の変化を含む多くの要因により生じています。

負債証券について、負債証券の公正価値が償却原価を下回っている場合、回収可能性に関するすべての利用可能な情報をもとに減損が一時的でないか否かの判断をしています。判断をするにあたり、(1)売却意図がなく、(2)公正価値が償却原価まで回復する前に売却しなければならない可能性が50%超でなく、(3)回収見込みキャッシュ・フローの現在価値により償却原価全額を十分に回収できるという条件をすべて満たした場合は、一時的でない減損は生じていないとしています。一方で、上記の3つの条件のいずれかを満たさない場合には、一時的でない減損が生じているとしています。

未実現評価損の生じている負債証券は、主に日本において発行された社債や特定目的会社が発行した特定社債ならびに米州のCMB S/RMB Sおよびその他資産担保証券を含んでいます。

社債に関する未実現評価損は、主に市場金利の動向とリスク・プレミアムの変化により生じています。これらの有価証券の回収可能性を評価するために、入手可能なすべての情報（発行者の財政状態および事業の見通し等）を考慮した結果、当社および子会社は当該有価証券の償却原価全額を回収することができると判断しました。当社および子会社は、これらの有価証券の売却意図はなく、また、償却原価の回復前に売却しなければならない可能性も50%超ではないことから、当第2四半期連結会計期間末現在に、これらの有価証券について一時的でない減損は生じていないと判断しました。

特定社債に関する未実現評価損は、主に国内不動産市場の悪化と金融資本市場の信用収縮から生じる市場利率とリスク・プレミアムの変化により生じています。これらの有価証券の回収可能性を評価するために、入手可能なすべての情報（裏付け不動産のパフォーマンスと価値、および当該社債の返済優先順位等）を考慮した結果、当社および子会社は当該有価証券の償却原価全額を回収することができると判断しました。当社および子会社は、これらの有価証券の売却意図はなく、また、償却原価の回復前に売却しなければならない可能性も50%超ではないことから、当第2四半期連結会計期間末現在に、これらの有価証券について一時的でない減損は生じていないと判断しました。

米州のCMB S / RMB S およびその他資産担保証券に関する未実現評価損は、主に、クレジットスプレッドおよび利率の変化により生じています。これらの有価証券に信用損失が生じているかどうかを決定するために、当社および子会社は当該有価証券に適用される現行利回りで割引くことで、予想キャッシュ・フローの現在価値を見積もっています。キャッシュ・フローは債務不履行率、早期償還率、有価証券の返済優先順位といった多くの前提条件に基づき見積もられます。そして、信用損失は当該有価証券の償却原価と見積もりキャッシュ・フローの現在価値とを比較することにより評価されます。これらの評価を踏まえた結果、当社および子会社は当該有価証券の償却原価全額を回収できると判断しました。当社および子会社は、これらの有価証券の売却意図はなく、また、償却原価の回復前に売却しなければならない可能性も50%超ではないことから、当第2四半期連結会計期間末現在に、これらの有価証券について一時的でない減損は生じていないと判断しました。

未実現評価損の生じている持分証券について、公正価値の下落が一時的であるかどうかを決定するために、公正価値が帳簿価額を下回っている程度および期間、発行者固有の経済状態、帳簿価額まで回復するのに十分な期間当該証券を保有する能力と意図を含め、様々な要因を考慮します。当社および子会社は、継続的モニタリングプロセスを踏まえた結果、当第2四半期連結会計期間末現在に、これらの持分証券について一時的でない減損は生じていないと判断しました。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における、一時的でない減損の総額と、その他の包括利益に計上した一時的でない減損の額は、以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
一時的でない減損の総額	2,003	1,822
その他の包括利益(税効果控除前)に計上された減損	—	△68
期間損益に認識された減損額	2,003	1,754

前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における、一時的でない減損の総額と、その他の包括利益に計上した一時的でない減損の額は、以下のとおりです。

	前第2四半期連結会計期間 (百万円)	当第2四半期連結会計期間 (百万円)
一時的でない減損の総額	1,315	1,722
その他の包括利益(税効果控除前)に計上された減損	—	△68
期間損益に認識された減損額	1,315	1,654

前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間において、一時的でない減損の総額は、持分証券およびその他の有価証券に関連するものです。また、当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間において、一時的でない減損の総額は、負債証券およびその他の有価証券に関連するものです。

当第2四半期連結累計期間において、負債証券に関連する一時的でない減損を、主に、その他資産担保証券において認識しました。その他資産担保証券は裏付けとなる資産の評価額の下落により信用損失が発生したことによるものです。当社および子会社は、これらの有価証券を売却する意図はなく、償却原価の回復前に売却しなければならない可能性も50%超ではないので、一時的でない減損の総額のうち信用損失に伴う部分は当期の損益に計上する一方、それ以外の部分は未実現評価損として税効果控除後の金額で、その他の包括利益（損失）に計上しています。信用損失の評価は、有価証券の償却原価と担保不動産の見積もり公正価値や当該証券の返済優先順位などの多くの前提条件に基づき見積もったキャッシュ・フローの現在価値とを比較して行っています。

また、前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における、期間損益に計上された負債証券の一時的でない減損のうち信用損失に関連する減損額の増減は、以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
調整前期首残高	7,809	1,991
期中増加：		
過年度に一時的でない減損を認識しなかった信用損失	—	456
期中控除：		
売却による減少	△3,509	△3
売却の意思の変更または売却を要する状況が生じたことによる減少	△1,652	—
期末残高	2,648	2,444

前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における、期間損益に計上された負債証券の一時的でない減損のうち信用損失に関連する減損額の増減は、以下のとおりです。

	前第2四半期連結会計期間 (百万円)	当第2四半期連結会計期間 (百万円)
期首残高	6,458	1,991
期中増加：		
過年度に一時的でない減損を認識しなかった信用損失	—	456
期中控除：		
売却による減少	△3,509	△3
売却の意思の変更または売却を要する状況が生じたことによる減少	△301	—
期末残高	2,648	2,444

会計基準編纂書320-10-35-34(投資－負債および持分証券－一時的でない減損の認識)により信用損失に関連する一時的でない減損を期間損益に認識した負債証券から生じた信用損失以外に関連する一時的でない減損を、前連結会計年度末において米州のCMB S / RMB Sの未実現評価益総額および未実現評価損総額に税効果控除前の金額でそれぞれ59百万円および102百万円計上し、税効果控除後の金額でその他の包括利益累計額の未実現評価益および未実現評価損にそれぞれ38百万円および65百万円計上しています。また、当第2四半期連結会計期間末現在において、信用損失に関連する一時的でない減損を期間損益に認識した負債証券から生じた信用損失以外に関連する一時的でない減損を、税効果控除前の金額で未実現評価益総額および未実現評価損総額にそれぞれ186百万円および127百万円計上し、税効果控除後の金額でその他の包括利益累計額の未実現評価益および未実現評価損にそれぞれ118百万円および81百万円計上しています。これらの未実現評価損益は、一時的でない減損を認識した後の、当該負債証券の公正価値の変動による未実現評価損益の金額を含んでいます。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における連結損益計算書の貸付金および有価証券利息にはそれぞれ6,860百万円および5,304百万円の有価証券利息を計上しています。なお、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における連結損益計算書の貸付金および有価証券利息にはそれぞれ3,620百万円および2,736百万円の有価証券利息を計上しています。

## 7 資産の証券化

当社および子会社はリース債権、営業貸付金（商業不動産担保ローンおよび個人向け不動産担保ローン等）といった金融資産を証券化しています。

証券化の過程で、これらの金融資産は信託や特別目的会社といった様々な事業体（以下、S P E）に譲渡され、S P Eはこれらの金融資産を担保にした信託受益権および証券を投資家に対し発行します。S P Eに譲渡された資産から生じるキャッシュ・フローは、これらの信託受益権および証券の分配に使用されます。これらの資産は当社および子会社から隔離され、投資家およびS P Eは譲渡された資産の債務者および発行者の債務不履行に際し、当社および子会社の他の資産への請求権は持っていません。

当社および子会社は多くの場合、信託受益権の形でS P Eの持分を継続して保有しています。その継続して保有する持分は譲渡した資産の権益を含み、多くの場合、他の持分よりも劣後しています。当社および子会社が継続して保有する持分は、譲渡した資産の貸倒リスク、金利変動リスクおよび期限前返済リスクの影響を受けます。特に劣後持分は、譲渡された資産の貸倒および期限前返済によるキャッシュ・フローの減少リスクを最初に被るため、優先持分とは異なる貸倒リスクおよび期限前返済リスクにさらされています。また、投資家に対して契約利率による配当を支払った後に残る余剰資金の多くの部分は、当社および子会社への劣後持分の配当として支払われます。

このような証券化取引は、会計基準編纂書860（譲渡およびサービシング）および会計基準編纂書810（連結）の規定に従い、当社および子会社が主たる受益者となる証券化のための信託または特別目的会社は連結しています。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において売却として会計処理した証券化取引はありません。

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在における支払期日経過債権および減損した営業貸付金に関する定量的な情報および証券化により売却された金融資産とともに管理される他の資産の情報、ならびに前第2四半期連結累計期間、当第2四半期連結累計期間、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における貸倒に関する定量的な情報は以下のとおりです。

	債権の元本合計 (百万円)		支払期日を90日経過 した債権の元本および 減損した営業貸付金 (百万円)		貸倒額 (百万円)			
	前連結 会計年度末	当第2 四半期連結 会計期間末	前連結 会計年度末	当第2 四半期連結 会計期間末	前第2 四半期連結 累計期間	当第2 四半期連結 累計期間	前第2 四半期連結 会計期間	当第2 四半期連結 会計期間
ファイナンス・リース投資	1,094,073	1,145,763	13,887	15,281	2,309	1,565	1,418	1,047
営業貸付金	2,315,555	2,379,717	141,973	109,014	12,022	7,534	6,852	4,507
連結財務諸表の残高	3,409,628	3,525,480	155,860	124,295	14,331	9,099	8,270	5,554
証券化により売却された ファイナンス・リース投資	1,156	1,026	—	—	—	—	—	—
管理されている資産と証券化によ り売却された資産の合計	3,410,784	3,526,506	155,860	124,295	14,331	9,099	8,270	5,554

一部の子会社では、自社で組成した営業貸付金を、回収義務を保持したまま投資家に売却しています。また、他社が組成した営業貸付金の回収業務を受託しています。このような回収業務に関するサービス資産を、前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、その他営業資産にそれぞれ16,911百万円および17,651百万円計上しています。前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間におけるサービス資産の増減額は、債権売却等による増加がそれぞれ2,264百万円および1,646百万円、償却等による減少がそれぞれ1,705百万円および1,957百万円、為替変動による増加がそれぞれ570百万円および1,051百万円です。前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間におけるサービス資産の増減額は、債権売却等による増加がそれぞれ1,015百万円および924百万円、償却等による減少がそれぞれ772百万円および943百万円、為替変動による増減がそれぞれ135百万円の減少および1,305百万円の増加です。前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在のサービス資産の公正価値はそれぞれ23,604百万円および25,773百万円です。

## 8 変動持分事業体

当社および子会社は、通常の営業活動において特別目的会社、組合および信託（以下、SPE）を利用しています。

これらのSPEは、議決権が存在しない場合もあり、必ずしも議決権により支配されているわけではありません。会計基準編纂書810(連結)は、会計基準編纂書の適用範囲のSPEの連結について取り扱っています。一般的に適用範囲のSPEは、(a)リスクを負担する出資の合計が、出資者を含む他者からの追加的な劣後金融支援なしでは営業活動のための資金調達を行うのに十分ではないか、(b)リスクを負担する出資者がグループとして(1)その事業体の経済的パフォーマンスに最も重要な影響を与える活動の意思決定を行う議決権または同様の権利、(2)事業体の期待損失を引き受ける義務、または、(3)期待残余利益を受け取る権利、を持っていません。会計基準編纂書の適用範囲の事業体は変動持分事業体（以下、VIE）と呼ばれます。

会計基準編纂書810(連結)に従い、当社および子会社は定性的な分析に基づき、以下の両方の特徴を有している変動持分保有者がVIEを連結すべき主たる受益者であると判断しています。

- ・ VIEの経済的パフォーマンスに最も重要な影響を与える事業体の活動に対する影響力
- ・ VIEにとって潜在的に重要な損失を吸収する義務あるいはVIEにとって潜在的に重要な利益を享受する権利

当社および子会社は、すべての事実や状況を考慮に入れて、主たる受益者に該当する、すなわち、当該VIEを連結するか否かを決定し、継続的に再評価しています。

当社および子会社は定性的評価をするにあたり、以下の事項を検討しています。

- ・ 事業体の経済的パフォーマンスに最も影響を与える活動と、その活動を誰が指図することができるかの特定
- ・ 当社および子会社が保有している変動持分の性質およびその他の関与（関連当事者および事実上の代理人の関与を含む）
- ・ 他の変動持分保有者による関与
- ・ VIEの目的およびデザイン（当該VIEに発生し、その変動持分の保有者に移転するようにデザインされたリスクを含む）

当社および子会社が、通常、主たる受益者の決定にあたり、重要と考えているVIEへの関与は以下のとおりです。

- ・ 取引のストラクチャーを設計すること
- ・ 出資および貸付を行うこと
- ・ 運用者やアセットマネージャー、サービサーとなり、変動型の報酬を受け取ること
- ・ 流動性の供与やその他の財務的支援を行うこと

VIEの経済的パフォーマンスに最も重要な影響を与える事業体の活動に対する影響力が複数の独立した当事者の間で共有されている場合、当社および子会社は当該活動を指図するパワーを有しません。その場合、当社および子会社は当該VIEを連結していません。

当社および子会社に関するV I Eの情報は以下のとおりです。

①連結対象V I E  
前連結会計年度末

V I E種別	総資産 (百万円) ※1	総負債 (百万円) ※1	担保に供して いる資産 (百万円) ※2	コミットメント (百万円) ※3
(a) 顧客の資産の流動化のためのV I E	—	—	—	—
(b) 顧客の不動産購入および不動産開発のためのV I E	4,800	986	—	—
(c) 不動産関連事業に関連して当社および子会社が不動産を取得するためのV I E	288,392	96,591	201,427	—
(d) 企業の再生支援事業のためのV I E	6,925	309	—	—
(e) 有価証券投資を行うためのV I E	23,449	9,405	13,767	—
(f) リース債権、貸付債権等の金融資産を証券化するためのV I E	303,154	188,463	239,072	—
(g) 第三者が行う不動産担保ローンの証券化のためのV I E	64,026	67,251	64,026	—
(h) 太陽光発電事業を行うためのV I E	20,824	2,723	4,725	29,756
(i) その他のV I E	101,670	63,219	82,290	—
合計	813,240	428,947	605,307	29,756

当第2四半期連結会計期間末

V I E種別	総資産 (百万円) ※1	総負債 (百万円) ※1	担保に供して いる資産 (百万円) ※2	コミットメント (百万円) ※3
(a) 顧客の資産の流動化のためのV I E	—	—	—	—
(b) 顧客の不動産購入および不動産開発のためのV I E	900	108	—	—
(c) 不動産関連事業に関連して当社および子会社が不動産を取得するためのV I E	259,712	82,937	158,843	7,000
(d) 企業の再生支援事業のためのV I E	5,290	53	—	—
(e) 有価証券投資を行うためのV I E	22,692	8,657	14,459	—
(f) リース債権、貸付債権等の金融資産を証券化するためのV I E	299,428	186,781	247,776	—
(g) 第三者が行う不動産担保ローンの証券化のためのV I E	51,196	52,331	51,196	—
(h) 太陽光発電事業を行うためのV I E	37,085	14,605	8,997	68,762
(i) その他のV I E	89,741	60,993	77,431	—
合計	766,044	406,465	558,702	75,762

※1 多くのV I Eが保有する資産はV I Eの債務等の返済のみに使用され、多くのV I Eの負債の債権者は当社および子会社の他の資産に対して請求権を持っていません。

※2 V I Eの資金調達のために、V I Eが担保に供している資産。

※3 当社および子会社がV I Eに対して、出資や貸付について結んでいるコミットメント契約の未使用額。



②連結していないV I E

前連結会計年度末

V I E種別	総資産 (百万円)	当社および子会社の計上額		最大損失エク ス ポージャー (百万円) ※
		特定社債および ノンリコース ローン拠出額 (百万円)	出資額 (百万円)	
(a) 顧客の資産の流動化のためのV I E	37,672	799	2,971	3,770
(b) 顧客の不動産購入および不動産開発の ためのV I E	664,557	26,835	45,212	111,732
(c) 不動産関連事業に関連して当社および 子会社が不動産を取得するためのV I E	—	—	—	—
(d) 企業の再生支援事業のためのV I E	—	—	—	—
(e) 有価証券投資を行うためのV I E	2,136,226	—	24,814	41,981
(f) リース債権、貸付債権等の金融資産を 証券化するためのV I E	—	—	—	—
(g) 第三者が行う不動産担保ローンの 証券化のためのV I E	1,517,734	—	8,989	9,310
(h) 太陽光発電事業を行うためのV I E	—	—	—	—
(i) その他のV I E	32,245	246	4,624	4,870
合計	4,388,434	27,880	86,610	171,663

当第2四半期連結会計期間末

V I E種別	総資産 (百万円)	当社および子会社の計上額		最大損失エク ス ポージャー (百万円) ※
		特定社債および ノンリコース ローン拠出額 (百万円)	出資額 (百万円)	
(a) 顧客の資産の流動化のためのV I E	31,126	—	2,146	2,146
(b) 顧客の不動産購入および不動産開発の ためのV I E	601,037	14,068	44,530	98,567
(c) 不動産関連事業に関連して当社および 子会社が不動産を取得するためのV I E	—	—	—	—
(d) 企業の再生支援事業のためのV I E	—	—	—	—
(e) 有価証券投資を行うためのV I E	2,404,056	—	26,391	46,738
(f) リース債権、貸付債権等の金融資産を 証券化するためのV I E	—	—	—	—
(g) 第三者が行う不動産担保ローンの 証券化のためのV I E	1,210,526	—	6,535	6,856
(h) 太陽光発電事業を行うためのV I E	—	—	—	—
(i) その他のV I E	28,242	107	4,045	4,152
合計	4,274,987	14,175	83,647	158,459

※ 当社および子会社がV I Eに対して結んでいるコミットメント契約の未使用額を含みます。

(a) 顧客の資産の流動化のためのV I E

当社および子会社は、顧客の特定の資産の流動化に基づきストラクチャードファイナンスを行う際にV I Eを利用します。V I Eは、典型的には顧客からの倒産隔離のストラクチャーを提供するために使用され、V I Eを利用した取組は、顧客からの要請によるものです。そのような顧客から流動化用の資産を取得するV I Eは、金融機関よりノンリコースローンを借り入れ、顧客より出資を受けます。V I Eは流動化対象資産からのキャッシュ・フローによりローンを返済し、十分な資金があれば、出資者に分配を行います。

当社および子会社が保有する連結していないV I Eの変動持分は、連結貸借対照表上、ノンリコースローンは営業貸付金に計上し、出資は主にその他資産に計上しています。

(b) 顧客の不動産購入および不動産開発のためのV I E

顧客や当社および子会社は、不動産の取得および開発プロジェクトのためにV I Eを利用します。このような場合、顧客は、顧客から倒産隔離されたV I Eを設立し、出資を行います。V I Eは、不動産の取得および開発プロジェクトを行います。

当社および子会社は、そのようなV I Eに対し、ノンリコースローン供与および特定社債の購入、出資を行い、一部のV I Eについてはアセットマネージャーになることで実質的に支配しているため連結しています。また、当社および子会社は、第三者からの借入金の返済および第三者への未払金の支払いが難しくなった一部の連結していないV I Eに対して、その返済資金を追加で拠出しています。なお、前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、このような追加拠出はありません。

連結貸借対照表上、連結したV I Eの資産は、主に関連会社投資に計上し、負債は、主に短期借入債務に計上しています。

当社および子会社が保有する連結していないV I Eの変動持分は、連結貸借対照表上、特定社債は投資有価証券、ノンリコースローンは営業貸付金に計上し、出資は主に投資有価証券、関連会社投資およびその他資産に計上しています。当社および子会社はこれらのV I Eの一部に対して、契約上の合意された条件に合致する限り、将来投資を行うコミットメント契約を結んでいます。なお、これらのコミットメント契約では、当社および子会社は、共同事業者と出資比率に応じた追加出資義務を負っています。当社および子会社は、第三者がV I Eに対して指図するパワーを有していることから、当該V I Eを連結しないと判断しています。また当社および子会社は、一部のV I Eに対し複数の独立した当事者の間でパワーを共有していることから、当該V I Eを連結しないと判断しています。

(c) 不動産関連事業に関連して当社および子会社が不動産を取得するためのV I E

当社および子会社は、外部の金融機関よりノンリコースローンによる資金調達を行うため、あるいは不動産に必要な管理業務を簡略化するためV I Eを設立して不動産を取得します。

当社および子会社は、議決権を保有しない場合でも、そのようなV I Eの劣後持分が実質的にすべて当社および子会社に対して発行されていることから、当社および子会社により支配され、利用されているのでV I Eを連結しています。

当社および子会社は、第三者からの借入金の返済および第三者への未払金の支払いが難しくなった一部の連結しているV I Eに対して、その返済資金を追加で拠出しています。当第2四半期連結累計期間における、このような追加拠出の金額は5,628百万円です。なお、前連結会計年度において、このような追加拠出はありません。

連結貸借対照表上、連結したV I Eの資産は、主にオペレーティング・リース投資、使途制限付現金、現金および現金等価物およびその他資産に計上し、負債は、主に長期借入債務に計上しています。当社および子会社は、このようなV I Eに対して将来投資を行うコミットメント契約を結んでいます。

(d) 企業の再生支援事業のためのV I E

金融機関や当社および子会社は、企業の再生支援事業のためにV I Eを利用します。V I Eは、金融機関を含む顧客、当社および子会社から出資を受け、再生の可能性のある企業向けの貸付債権を買い取ります。債権回収業務は当社の子会社が行います。

当社および子会社は、このようなV I Eの出資持分の大部分を保有し、また債権回収業務を通じてV I Eの経済的パフォーマンスに最も重要な影響を与えるV I Eの活動に対する影響力を有しているためV I Eを連結しています。

連結貸借対照表上、連結したV I Eの資産は、主に営業貸付金に計上し、負債は、主に支払手形および未払金等、未払費用に計上しています。

(e) 有価証券投資を行うためのV I E

当社および子会社は、主に株式や債券に投資する様々なV I E、いわゆる投資ファンドの持分を取得しています。これらのV I Eは、当社の子会社により管理・運営されているか、または、当社および子会社から独立している運営会社等により管理されています。

これらのうち一部のV I Eについては、当社が出資持分の大部分を保有し、また取組のデザインに関与するなど、V I Eの経済的パフォーマンスに最も重要な影響を与えるV I Eの活動に対する影響力を有していることから連結しています。

連結貸借対照表上、連結したV I Eの資産は、主に関連会社投資、投資有価証券および営業貸付金に計上し、負債は、主に短期借入債務および長期借入債務に計上しています。

当社および子会社が保有する連結していないV I Eの変動持分は、連結貸借対照表上、投資有価証券に計上しています。当社および子会社は、このようなV I Eに対して将来投資を行うコミットメント契約を結んでいます。

(f) リース債権、貸付債権等の金融資産を証券化するためのV I E

当社および子会社は、リース債権、貸付債権等の金融資産を証券化するためにV I Eを利用します。証券化において、これらの金融資産はS P Eに譲渡され、S P Eはその金融資産を裏付けとして信託受益権および証券を投資家に発行します。当社および子会社は証券化後も劣後部分を継続して保有し、債権回収業務も行います。

当社および子会社はスキームの組成や債権回収業務を行うことでV I Eの経済的パフォーマンスに最も重要な影響を与えるV I Eの活動に対する影響力を有し、かつ劣後部分により潜在的に重要な損失を吸収する義務があるため、V I Eを連結しています。

連結貸借対照表上、連結したV I Eの資産は、主にファイナンス・リース投資、営業貸付金および使途制限付現金に計上し、負債は、長期借入債務に計上しています。

(g) 第三者が行う不動産担保ローンの証券化のためのV I E

当社および子会社は、第三者が行う証券化により発行されたC M B SおよびR M B Sを保有しています。これらのうち、一部の証券化案件において、当社の子会社は劣後部分を保有するとともに、当該証券化案件のスペシャル・サービサー業務を引き受けている場合があります。スペシャル・サービサー業務では、証券化対象である不動産担保ローンにかかる担保物件の処分権限を有しています。

当社の子会社は、担保物件処分の権限を含むスペシャル・サービサー業務を行うことでV I Eの経済的パフォーマンスに最も重要な影響を与えるV I Eの活動に対する影響力を有し、かつ劣後部分により潜在的に重要な損失を吸収する義務があるため、V I Eを連結しています。

連結貸借対照表上、連結したV I Eの資産は、主に営業貸付金に計上し、負債は、長期借入債務に計上しています。

当社および子会社が保有する連結していないV I Eの変動持分は、連結貸借対照表上、投資有価証券に計上しています。当社および子会社は、このような連結していないV I Eに対して将来投資を行うコミットメント契約を結んでいます。

(h) 太陽光発電事業を行うためのV I E

当社および子会社は、太陽光発電事業を行う際にV I Eを利用しています。V I Eは、当社および子会社から出資を受け、取得または賃貸借した土地に太陽光パネルを設置し、発電した電力を電力会社に売却しています。当社および子会社は、そのようなV I Eに対し出資持分の大部分を保有し、一部のV I Eについてはアセットマネージャーになることで実質的に支配しているため連結しています。

連結貸借対照表上、連結したV I Eの資産は、主にその他資産およびその他営業資産に計上し、負債は、長期借入債務に計上しています。当社は、このようなV I Eに対して将来投資または貸付を行うコミットメント契約を結んでいます。

(i) その他のV I E

当社および子会社はその他様々な目的でV I Eを利用しています。連結しているV I Eおよび連結していないV I Eのうち主なものは、組合ストラクチャーがあります。また、当社の子会社は、上記(a)～(h)に該当しない一部のV I Eについて、劣後部分を保有し、かつそのV I Eは子会社に実質的に支配されているため連結しています。

日本において、当社の子会社は自らの子会社のS P Eが営業者となっている組合として知られる契約構造を利用した投資商品を顧客に提供しています。第三者にリースする目的の飛行機またはその他大型の物件を購入するための資金調達の手段として、当社および子会社は、組合に必要な資金を部分的に提供する投資家に組合商品を組成し販売します。残りの購入資金は、単独または複数の金融機関からノンリコースローンを組合が借り入れます。組合投資家および組合への貸し手は、購入および賃貸活動に関する組合の経済的リスクおよびリワードを留保し、すべての関連した利益または損失は、組合の投資家の財務諸表に計上されます。当社および子会社は、商品の組成および販売に責任を持ち、サービサーおよび組合の業務の管理者となります。組成および管理に対する報酬は、連結財務諸表に認識されます。当社および子会社は、一部の組合に対して出資を行い、潜在的に重要な損失を吸収する義務があり、かつその経済的パフォーマンスに最も重要な影響を与える活動に対する影響力を有するため、当該組合を連結しています。その他の組合については、重要な出資、保証、その他の財務上の重要な責任またはエクスポージャーを保有していないため、主たる受益者とはならないと判断しています。

連結貸借対照表上、連結したV I Eの資産は、主にオペレーティング・リース投資、営業貸付金、現金および現金等価物およびその他営業資産に計上し、負債は、短期借入債務および長期借入債務に計上しています。

当社および子会社が保有する連結していないV I Eの変動持分は、連結貸借対照表上、出資は主に営業貸付金に計上しています。

## 9 関連会社投資

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在の関連会社投資の内訳は以下のとおりです。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
株式	305,420	337,094
貸付金	8,880	9,496
合計	314,300	346,590

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、すべての関連会社の財務諸表を合算および要約したものは以下のとおりです。(関連会社の経営成績の数値は、当社および子会社が投資した日以降の利用可能な財務諸表の期間について反映しています。)

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
経営成績：		
営業収益	576,576	531,031
税引前四半期純利益	73,789	45,147
四半期純利益	52,699	36,405
財政状態：		
総資産	5,087,946	6,149,170
負債合計	3,809,585	4,809,789
株主資本	1,278,361	1,339,381

当社は、連結子会社であった韓国のエネルギー事業会社 STX Energy Co., Ltd. (現・GS E&R Corp. 以下、「STX Energy」)の普通株式の71.9%を第三者に譲渡しました。当社は引続き25%の持分を保有するため、当第1四半期連結会計期間より、STX Energyは当社の持分法適用関連会社になりました。この譲渡に伴い、当第1四半期連結会計期間において、支配持分の売却に伴う利益14,883百万円および継続保有する投資の公正価値再測定に伴う評価益1,329百万円を子会社・関連会社株式売却損益および清算損に計上しました。公正価値再測定においては、コントロールプレミアムを調整した売却金額に基づき、継続保有持分の評価を行っています。

## 10 償還可能非支配持分

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における償還可能非支配持分の変動は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
期首残高	41,621	53,177
償還可能非支配持分の償還額への調整	99	282
非支配持分との取引	257	1,173
包括利益		
四半期純利益	1,420	2,028
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,640	3,424
その他の包括利益 計	1,640	3,424
包括利益 計	3,060	5,452
配当金	△1,110	△1,597
期末残高	43,927	58,487

11 その他の包括利益累計額

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間におけるその他の包括利益累計額（税効果控除後）の推移は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間					
	未実現 有価証券 評価損益 (百万円)	確定給付 年金制度 (百万円)	為替換算 調整勘定 (百万円)	未実現 デリバティブ 評価損益 (百万円)	その他の 包括利益 累計額 (百万円)
期首残高	28,974	△9,587	△53,759	△1,891	△36,263
未実現有価証券評価損益 (税金相当額△7,022百万円控除後)	13,360				13,360
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額3,462百万円控除後)	△6,938				△6,938
確定給付年金制度 (税金相当額223百万円控除後)		△265			△265
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額44百万円控除後)		△77			△77
為替換算調整勘定 (税金相当額753百万円控除後)			1,019		1,019
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額△61百万円控除後)			1,459		1,459
未実現デリバティブ評価損益 (税金相当額△150百万円控除後)				598	598
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額△152百万円控除後)				435	435
その他の包括利益（△損失）計	6,422	△342	2,478	1,033	9,591
非支配持分に帰属するその他の包括利益	431	4	2,338	18	2,791
償還可能非支配持分に帰属するその他の包括利益	—	—	1,640	—	1,640
期末残高	34,965	△9,933	△55,259	△876	△31,103

当第2四半期連結累計期間					
	未実現 有価証券 評価損益 (百万円)	確定給付 年金制度 (百万円)	為替換算 調整勘定 (百万円)	未実現 デリバティブ 評価損益 (百万円)	その他の 包括利益 累計額 (百万円)
期首残高	38,651	△6,228	△31,987	△434	2
未実現有価証券評価損益 (税金相当額△3,910百万円控除後)	8,173				8,173
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額5,935百万円控除後)	△10,959				△10,959
確定給付年金制度 (税金相当額66百万円控除後)		344			344
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額60百万円控除後)		△111			△111
為替換算調整勘定 (税金相当額△1,545百万円控除後)			15,307		15,307
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額一百万円控除後)			—		—
未実現デリバティブ評価損益 (税金相当額391百万円控除後)				△1,139	△1,139
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額△295百万円控除後)				1,077	1,077
その他の包括利益（△損失）計	△2,786	233	15,307	△62	12,692
非支配持分に帰属するその他の包括利益（△損失）	566	132	△59	△42	597
償還可能非支配持分に帰属するその他の包括利益	—	—	3,424	—	3,424
期末残高	35,299	△6,127	△20,045	△454	8,673

前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間におけるその他の包括利益累計額（税効果控除後）の推移は以下のとおりです。

前第2四半期連結会計期間					
	未実現 有価証券 評価損益 (百万円)	確定給付 年金制度 (百万円)	為替換算 調整勘定 (百万円)	未実現 デリバティブ 評価損益 (百万円)	その他の 包括利益 累計額 (百万円)
期首残高	28,677	△9,652	△46,950	△1,356	△29,281
未実現有価証券評価損益 (税金相当額△4,150百万円控除後)	8,675				8,675
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額1,223百万円控除後)	△2,568				△2,568
確定給付年金制度 (税金相当額163百万円控除後)		△240			△240
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額22百万円控除後)		△37			△37
為替換算調整勘定 (税金相当額1,665百万円控除後)			△7,101		△7,101
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額一百万円控除後)			—		—
未実現デリバティブ評価損益 (税金相当額△5百万円控除後)				107	107
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額△137百万円控除後)				376	376
その他の包括利益（△損失）計	6,107	△277	△7,101	483	△788
非支配持分に帰属するその他の包括利益（△損失）	△181	4	1,550	3	1,376
償還可能非支配持分に帰属するその他の包括利益（△損失）	—	—	△342	—	△342
期末残高	34,965	△9,933	△55,259	△876	△31,103

当第2四半期連結会計期間					
	未実現 有価証券 評価損益 (百万円)	確定給付 年金制度 (百万円)	為替換算 調整勘定 (百万円)	未実現 デリバティブ 評価損益 (百万円)	その他の 包括利益 累計額 (百万円)
期首残高	32,340	△6,313	△39,880	△690	△14,543
未実現有価証券評価損益 (税金相当額△1,386百万円控除後)	3,404				3,404
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額△25百万円控除後)	△91				△91
確定給付年金制度 (税金相当額54百万円控除後)		379			379
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額30百万円控除後)		△56			△56
為替換算調整勘定 (税金相当額△2,125百万円控除後)			26,280		26,280
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額一百万円控除後)			—		—
未実現デリバティブ評価損益 (税金相当額130百万円控除後)				△78	△78
四半期純利益への組替修正額 (税金相当額△98百万円控除後)				298	298
その他の包括利益計	3,313	323	26,280	220	30,136
非支配持分に帰属するその他の包括利益（△損失）	354	137	2,216	△16	2,691
償還可能非支配持分に帰属するその他の包括利益	—	—	4,229	—	4,229
期末残高	35,299	△6,127	△20,045	△454	8,673

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、その他の包括利益累計額から四半期純利益へ組替えられた金額は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間		
その他の包括利益累計額の 構成要素の詳細	四半期純利益への 組替修正額（百万円）	四半期連結損益計算書に影響する項目
未実現有価証券評価損益		
有価証券の売却により実現した利益	8,643	有価証券等仲介手数料および売却益
有価証券の売却により実現した利益	3,160	生命保険料収入および運用益
有価証券の償却額	743	貸付金および有価証券利息
有価証券の償却額	△254	生命保険料収入および運用益
その他	△1,892	有価証券評価損等
	10,400	税引前合計
	△3,462	税金相当額
	6,938	税金相当額控除後
確定給付年金制度		
過去勤務費用の当期償却額	568	注記14 年金制度を参照
年金数理上の純損失の当期償却額	△419	注記14 年金制度を参照
移行時債務の当期償却額	△28	注記14 年金制度を参照
	121	税引前合計
	△44	税金相当額
	77	税金相当額控除後
為替換算調整勘定		
売却および清算	△1,520	子会社・関連会社株式売却損益および清算損
	△1,520	税引前合計
	61	税金相当額
	△1,459	税金相当額控除後
未実現デリバティブ評価損益		
金利スワップ契約	22	貸付金および有価証券利息／支払利息
為替予約	448	為替差損
通貨スワップ契約	△1,057	貸付金および有価証券利息／支払利息／為替差損
	△587	税引前合計
	152	税金相当額
	△435	税金相当額控除後

当第2四半期連結累計期間		
その他の包括利益累計額の 構成要素の詳細	四半期純利益への 組替修正額（百万円）	四半期連結損益計算書に影響する項目
未実現有価証券評価損益		
有価証券の売却により実現した利益	18,117	有価証券等仲介手数料および売却益
有価証券の売却により実現した利益	940	生命保険料収入および運用益
有価証券の償却額	△509	貸付金および有価証券利息
有価証券の償却額	△322	生命保険料収入および運用益
その他	△1,332	有価証券評価損等
	16,894	税引前合計
	△5,935	税金相当額
	10,959	税金相当額控除後
確定給付年金制度		
過去勤務費用の当期償却額	479	注記14 年金制度を参照
年金数理上の純損失の当期償却額	△280	注記14 年金制度を参照
移行時債務の当期償却額	△28	注記14 年金制度を参照
	171	税引前合計
	△60	税金相当額
	111	税金相当額控除後
未実現デリバティブ評価損益		
金利スワップ契約	12	貸付金および有価証券利息／支払利息
為替予約	23	為替差損
通貨スワップ契約	△1,407	貸付金および有価証券利息／支払利息／為替差損
	△1,372	税引前合計
	295	税金相当額
	△1,077	税金相当額控除後



前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において、その他の包括利益累計額から四半期純利益へ組替えられた金額は以下のとおりです。

前第2四半期連結会計期間		
その他の包括利益累計額の 構成要素の詳細	四半期純利益への 組替修正額（百万円）	四半期連結損益計算書に影響する項目
未実現有価証券評価損益		
有価証券の売却により実現した利益	4,370	有価証券等仲介手数料および売却益
有価証券の売却により実現した利益	324	生命保険料収入および運用益
有価証券の償却額	365	貸付金および有価証券利息
有価証券の償却額	△139	生命保険料収入および運用益
その他	△1,129	有価証券評価損等
	3,791	税引前合計
	△1,223	税金相当額
	2,568	税金相当額控除後
確定給付年金制度		
過去勤務費用の当期償却額	284	注記14 年金制度を参照
年金数理上の純損失の当期償却額	△211	注記14 年金制度を参照
移行時債務の当期償却額	△14	注記14 年金制度を参照
	59	税引前合計
	△22	税金相当額
	37	税金相当額控除後
未実現デリバティブ評価損益		
金利スワップ契約	12	貸付金および有価証券利息／支払利息
為替予約	412	為替差損
通貨スワップ契約	△937	貸付金および有価証券利息／支払利息／為替差損
	△513	税引前合計
	137	税金相当額
	△376	税金相当額控除後

当第2四半期連結会計期間		
その他の包括利益累計額の 構成要素の詳細	四半期純利益への 組替修正額（百万円）	四半期連結損益計算書に影響する項目
未実現有価証券評価損益		
有価証券の売却により実現した利益	1,630	有価証券等仲介手数料および売却益
有価証券の売却により実現した利益	447	生命保険料収入および運用益
有価証券の償却額	△533	貸付金および有価証券利息
有価証券の償却額	△147	生命保険料収入および運用益
その他	△1,331	有価証券評価損等
	66	税引前合計
	25	税金相当額
	91	税金相当額控除後
確定給付年金制度		
過去勤務費用の当期償却額	240	注記14 年金制度を参照
年金数理上の純損失の当期償却額	△140	注記14 年金制度を参照
移行時債務の当期償却額	△14	注記14 年金制度を参照
	86	税引前合計
	△30	税金相当額
	56	税金相当額控除後
未実現デリバティブ評価損益		
金利スワップ契約	5	貸付金および有価証券利息／支払利息
為替予約	4	為替差損
通貨スワップ契約	△405	貸付金および有価証券利息／支払利息／為替差損
	△396	税引前合計
	98	税金相当額
	△298	税金相当額控除後

12 当社株主資本等

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における当社株主資本等の状況は以下のとおりです。

配当に関する事項

前第2四半期連結累計期間	
(1) 配当金支払額	
決議	平成25年5月23日取締役会
株式の種類	普通株式
配当金の総額	15,878百万円
1株当たり配当額	130.00円
基準日	平成25年3月31日
効力発生日	平成25年6月4日
配当の原資	利益剰余金
(2) 基準日が前第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が前第2四半期連結会計期間末後となるもの	該当事項なし

当第2四半期連結累計期間	
(1) 配当金支払額	
決議	平成26年5月22日取締役会
株式の種類	普通株式
配当金の総額	30,117百万円
1株当たり配当額	23.00円
基準日	平成26年3月31日
効力発生日	平成26年6月3日
配当の原資	利益剰余金
(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの	該当事項なし

当社は平成25年3月31日最終の株主名簿に記載された株主に対して、平成25年4月1日付で1株につき10株の割合をもって株式分割を行いました。前第2四半期連結累計期間における1株当たり配当額については、当該株式分割前の実際の1株当たり配当金の額を記載しています。

13 販売費および一般管理費

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における販売費および一般管理費の内訳は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
人件費	83,733	122,667
販売費	20,248	26,385
管理費	32,191	43,601
減価償却費	1,761	2,045
合計	137,933	194,698

前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における販売費および一般管理費の内訳は以下のとおりです。

	前第2四半期連結会計期間 (百万円)	当第2四半期連結会計期間 (百万円)
人件費	46,997	65,701
販売費	12,512	13,706
管理費	17,503	23,253
減価償却費	965	1,108
合計	77,977	103,768

なお、非継続事業にかかる連結累計期間および連結会計期間の損益を組替再表示しています。

14 年金制度

当社および一部の子会社は、実質的に全従業員を対象とした拠出型および非拠出型の年金制度を採用しています。拠出型年金制度には、確定給付型と確定拠出型があります。この制度により従業員には、定年退職時に一括で退職金を受け取るか、分割で年金を受け取る権利が付与されています。確定給付型年金制度には勤続年数と退職時の給与に基づいて支払金額を決定するもの（最終給与比例方式による制度）およびキャッシュバランスプランがあります。

当社および子会社の積立方針は、年金数理計算された金額を毎年積み立てるというものです。年金資産は主として負債証券や市場性のある持分証券で運用されています。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間の期間純年金費用の内訳は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間		当第2四半期連結累計期間	
	国内制度 (百万円)	海外制度 (百万円)	国内制度 (百万円)	海外制度 (百万円)
勤務費用	1,648	751	2,056	1,100
利息費用	571	643	565	1,143
年金資産の期待収益	△1,018	△828	△1,149	△1,851
移行時債務の当期償却額	26	2	27	1
年金数理上の純損失の当期償却額	388	31	250	30
過去勤務費用の当期償却額	△568	—	△463	△16
期間純年金費用	1,047	599	1,286	407

前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間の期間純年金費用の内訳は以下のとおりです。

	前第2四半期連結会計期間		当第2四半期連結会計期間	
	国内制度 (百万円)	海外制度 (百万円)	国内制度 (百万円)	海外制度 (百万円)
勤務費用	829	738	1,116	546
利息費用	286	583	290	569
年金資産の期待収益	△509	△756	△588	△920
移行時債務の当期償却額	13	1	14	—
年金数理上の純損失の当期償却額	195	16	125	15
過去勤務費用の当期償却額	△284	—	△232	△8
期間純年金費用	530	582	725	202

## 15 生命保険事業

前第2四半期連結累計期間、当第2四半期連結累計期間、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間の生命保険料収入および運用益の内訳は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
生命保険料収入	69,232	86,900
生命保険事業にかかる運用益	6,564	51,039
合計	75,796	137,939

	前第2四半期連結会計期間 (百万円)	当第2四半期連結会計期間 (百万円)
生命保険料収入	36,247	48,578
生命保険事業にかかる運用益	2,031	48,933
合計	38,278	97,511

生命保険料収入は、再保険料収入を含み、支払再保険料を控除しています。当第2四半期連結累計期間における再保険料収入および支払再保険料はそれぞれ884百万円および4,151百万円です。当第2四半期連結会計期間における再保険料収入および支払再保険料はそれぞれ824百万円および3,950百万円です。

連結損益計算書上、生命保険費用に含まれている生命保険事業の給付および経費は契約期間にわたり保険料収入に対応するように計上しています。この処理を行うために将来の保険給付に備えて保険契約準備金を積み立てるとともに、契約時に一時に発生する募集費用（主として、代理店手数料、その他保険証券の発行および保険引き受けにかかる諸経費）の繰延および償却を行っています。前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における償却した繰延募集費用はそれぞれ4,094百万円および5,637百万円です。また、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における償却した繰延募集費用はそれぞれ2,291百万円および2,919百万円です。

当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間において、当該保険契約の契約者のために運用する資産から生じる売却損益および評価損益58,463百万円（純額）を生命保険料収入および運用益として計上し、当該保険契約にかかる最低保証リスクの一部を経済的にヘッジする目的で保有する先物契約、為替予約およびオプション契約から生じる損失それぞれ2,385百万円、885百万円および9,586百万円の合計12,856百万円の損失（純額）を生命保険料収入および運用益のマイナスとして計上しています。また、当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間において、公正価値オプションを選択した変額年金保険契約および変額保険契約全体の公正価値の変動190,113百万円および変額年金保険契約および変額保険契約の保険金や年金の支払事由等の発生に伴う費用221,859百万円を相殺した金額31,746百万円を生命保険費用として計上しています。当該保険契約にかかる最低保証の履行リスクの変動に伴う保険契約債務および保険契約者勘定の公正価値の変動から生じる損益の一部を減殺するため、一部の再保険貸に対して公正価値オプションを選択しており、当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間において、当該再保険貸の公正価値の変動7,816百万円を生命保険費用に計上しています。

## 16 長期性資産評価損

会計基準編纂書360(有形固定資産)に従って、当社および子会社は、減損の兆候を示唆する状況や環境の変化が生じた資産について回収可能性の判定を実施しています。当該資産の利用や最終処分の結果から得られる割引前見積将来キャッシュ・フローが帳簿価額より低い場合は、帳簿価額の回収が困難であるとみなし、公正価額が帳簿価額を下回る場合には、公正価額まで評価減しています。公正価額については、状況に応じて、同種の資産の売却を含む最近の取引事例やその他の評価技法、例えば稼働中の既存資産または開発プロジェクトの完成により生み出されると見積られる将来キャッシュ・フローを使った割引現在価値法などに基づき、独立した鑑定機関や内部の不動産鑑定士によって評価されます。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、当社および子会社は、長期性資産の帳簿価額と公正価額との差異について、それぞれ12,587百万円および6,783百万円の評価損を認識し、長期性資産評価損および非継続事業からの損益として計上しました。そのうち、長期性資産評価損への計上額は、前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、それぞれ11,915百万円および6,783百万円です。

なお、前第2四半期連結累計期間に計上した評価損は、不動産事業部門で8,096百万円、当第2四半期連結累計期間に計上した評価損は、法人金融サービス事業部門で653百万円、不動産事業部門で5,805百万円、海外事業部門で325百万円です。

また、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において、当社および子会社は、長期性資産の帳簿価額と公正価額との差額について、それぞれ9,144百万円および4,045百万円の評価損を認識し、長期性資産評価損および非継続事業からの損益として計上しました。そのうち、長期性資産評価損への計上額は、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において、それぞれ9,144百万円および4,045百万円です。

なお、前第2四半期連結会計期間に計上した評価損は、不動産事業部門で5,034百万円、当第2四半期連結会計期間に計上した評価損は、主に不動産事業部門で3,389百万円です。

詳細は以下のとおりです。

#### オフィスビル

前第2四半期連結累計期間において、売却予定の1物件、個々の物件のキャッシュ・フローが減少した2物件および保有目的を変更した1物件についてそれぞれ15百万円、3,582百万円および4,109百万円の評価損を計上しました。当第2四半期連結累計期間において、物件のキャッシュ・フローが減少した1物件について1,795百万円の評価損を計上しました。また、前第2四半期連結会計期間において、物件のキャッシュ・フローが減少した1物件および保有目的を変更した1物件についてそれぞれ1,248百万円および4,109百万円の評価損を計上しました。当第2四半期連結会計期間において、評価損の計上はありませんでした。

#### 商業施設

前第2四半期連結累計期間において、評価損の計上はありませんでした。当第2四半期連結累計期間において、物件のキャッシュ・フローが減少した1物件について711百万円の評価損を計上しました。また、前第2四半期連結会計期間において、評価損の計上はありませんでした。当第2四半期連結会計期間において、物件のキャッシュ・フローが減少した1物件について711百万円の評価損を計上しました。

#### 賃貸マンション

前第2四半期連結累計期間において、評価損の計上はありませんでした。当第2四半期連結累計期間において、保有目的を変更した1物件について621百万円の評価損を計上しました。また、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において、評価損の計上はありませんでした。

#### 開発中および未開発の土地

前第2四半期連結累計期間において、売却予定および個々の開発案件の見積キャッシュ・フローが減少したことにより、それぞれ713百万円および3,787百万円の評価損を計上しました。当第2四半期連結累計期間において、個々の開発案件の見積キャッシュ・フローが減少したことにより、2,678百万円の評価損を計上しました。また、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において、個々の開発案件の見積キャッシュ・フローが減少したことにより、それぞれ3,787百万円および2,678百万円の評価損を計上しました。

#### その他

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、当社および子会社は、上記以外の不動産に関して、主に運営成績が悪化しキャッシュ・フローが減少したことにより、帳簿価額が割引前見積将来キャッシュ・フローを超過したため、それぞれ381百万円および978百万円の評価損を計上しました。また、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において、当社および子会社は、上記以外の不動産に関して、主に運営成績が悪化しキャッシュ・フローが減少したことにより、帳簿価額が割引前見積将来キャッシュ・フローを超過したため、それぞれ0百万円および656百万円の評価損を計上しました。

### 17 非継続事業

平成26年4月、会計基準書アップデート第2014-08号(非継続事業の財務報告および企業の構成単位の処分に関する開示—会計基準編纂書205(財務諸表の表示)および会計基準編纂書360(有形固定資産))が公表されました。このアップデートは、企業の構成単位または構成単位グループの処分および売却予定への分類が、企業の事業活動および業績に重要な影響を及ぼす(もしくは及ぼすことになる)戦略の変更となる場合に、非継続事業として報告することを要請しています。当社および子会社は、当第1四半期連結累計期間より、このアップデートを早期適用しました。このアップデートに基づき、当社および子会社は、構成単位または構成単位グループの処分および売却予定への分類が、当社および子会社の事業活動および業績に重要な影響を及ぼす(もしくは及ぼすことになる)戦略の変更となる場合に、非継続事業からの損益として報告します。

当第2四半期連結累計期間において、上記アップデートに基づき、当社および子会社の事業活動および業績に重要な影響を及ぼす（もしくは及ぼすことになる）戦略の変更となる事業の処分や売却予定への分類はありませんでした。

改正前の会計基準編纂書205-20(財務諸表の表示－非継続事業)は、売却あるいは処分された、または売却等による処分予定の事業に重要な継続的関与がない場合、当該事業の損益を非継続事業として組替再表示を行うことを要求しています。前第2四半期連結累計期間においては、この改定前の会計基準編纂書に基づき、当社および子会社は、売却された、または売却等による処分予定の子会社および事業ならびに一部の不動産にかかる売却損益および事業活動から生じた損益について、連結損益計算書上、非継続事業からの損益として報告しています。

会計基準書アップデート第2014-08号の適用日前の構成単位または構成単位グループの処分または売却予定への分類は、このアップデートの適用対象ではありません。そのため、当社および子会社は、当第2四半期連結累計期間において、前連結会計年度末時点で売却等による処分予定に該当した子会社および事業については、改正前の会計基準編纂書205-20に基づき、連結損益計算書上、売却益および事業活動から生じた損益を非継続事業からの損益として報告しています。

当社は前第2四半期連結累計期間において、コーポレートファイナンス事業を営む海外子会社を解散する意思決定をし、実質上の清算が完了したため、1,608百万円の清算損を計上しました。また、当社は、前連結会計年度において外食事業および食品事業を営む国内子会社のうち、食品事業に関して事業の売却を行うことを意思決定しました。前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間において、それぞれ47百万円の利益および3百万円の損失を計上しました。当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間において、それぞれ100百万円および363百万円の利益を計上しました。前連結会計年度末の連結貸借対照表上、当該国内子会社の食品事業についての資産は、主にその他営業資産に1,561百万円、その他受取債権に2,069百万円、その他資産に1,500百万円計上し、負債には、主に支払手形および未払金等に1,822百万円、長期借入債務に1,336百万円計上しています。当第2四半期連結会計期間において当該事業売却の手続きが完了したため、当第2四半期連結会計期間末現在において残高はありません。

当社および子会社は、賃貸用の商業ビルやオフィスビルなど様々な不動産を所有しています。前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間において、当社および子会社はこのような賃貸不動産に関してそれぞれ11,591百万円、および1,515百万円の売却益を計上しています。さらに、前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末の連結貸借対照表上、売却目的保有に分類される不動産に関して、オペレーティング・リース投資にそれぞれ42,266百万円および34,409百万円、その他営業資産にそれぞれ2,428百万円および2,623百万円を計上しています。

前第2四半期連結累計期間、当第2四半期連結累計期間、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間の非継続事業からの損益は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
営業収益	16,688	2,214
非継続事業からの損益 ※	9,995	463
法人税等	△3,868	△166
非継続事業からの損益(税効果控除後)	6,127	297

	前第2四半期連結会計期間 (百万円)	当第2四半期連結会計期間 (百万円)
営業収益	4,191	—
非継続事業からの損益 ※	1,750	362
法人税等	△679	△130
非継続事業からの損益(税効果控除後)	1,071	232

※ 非継続事業からの損益には、前第2四半期連結累計期間、当第2四半期連結累計期間、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間において、それぞれ9,983百万円の売却益および清算損、362百万円の売却益、1,515百万円の売却益および清算損、362百万円の売却益を計上しています。

18 1株当たり情報

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間、ならびに前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における、基本的小および希薄化後1株当たり利益の調整計算は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間において、6,899千株相当のストックオプションは、逆希薄化効果を有するため希薄化後1株当たり利益の計算に含んでいません。

当第2四半期連結累計期間において、6,569千株相当のストックオプションは、逆希薄化効果を有するため希薄化後1株当たり利益の計算に含んでいません。

前第2四半期連結会計期間において、6,856千株相当のストックオプションは、逆希薄化効果を有するため希薄化後1株当たり利益の計算に含んでいません。

当第2四半期連結会計期間において、6,513千株相当のストックオプションは、逆希薄化効果を有するため希薄化後1株当たり利益の計算に含んでいません。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
当社株主に帰属する継続事業からの利益	74,284	141,809
希薄化効果： 転換社債にかかる費用	191	—
希薄化後1株当たり利益の計算に用いる継続事業からの利益	74,475	141,809

	前第2四半期連結会計期間 (百万円)	当第2四半期連結会計期間 (百万円)
当社株主に帰属する継続事業からの利益	34,332	73,269
希薄化効果： 転換社債にかかる費用	83	—
希薄化後1株当たり利益の計算に用いる継続事業からの利益	34,415	73,269

	前第2四半期連結累計期間 (千株)	当第2四半期連結累計期間 (千株)
加重平均株式数	1,243,360	1,309,724
希薄化効果： 転換社債の株式への転換	57,860	—
ストックオプションの権利行使	1,794	1,941
希薄化後1株当たり利益の計算に用いる加重平均株式数	1,303,014	1,311,665

	前第2四半期連結会計期間 (千株)	当第2四半期連結会計期間 (千株)
加重平均株式数	1,255,931	1,309,767
希薄化効果： 転換社債の株式への転換	49,902	—
ストックオプションの権利行使	1,885	1,789
希薄化後1株当たり利益の計算に用いる加重平均株式数	1,307,718	1,311,556

	前第2四半期連結累計期間 (円)	当第2四半期連結累計期間 (円)
1株当たり当社株主に帰属する継続事業からの利益：		
基本的	59.74	108.27
希薄化後	57.16	108.11

	前第2四半期連結会計期間 (円)	当第2四半期連結会計期間 (円)
1株当たり当社株主に帰属する継続事業からの利益：		
基本的	27.34	55.94
希薄化後	26.32	55.86

### リスク管理方針

当社および子会社は、資産・負債管理により金利リスクを管理しています。金利変動により不利な影響が及ばないよう金利リスクをヘッジするためにデリバティブを利用しています。金利変動の結果、ヘッジ対象の資産、負債の公正価値またはキャッシュ・フローは上昇、または下落しますが、ヘッジ手段のデリバティブを利用することにより、そのような変動は通常減殺されます。当社および子会社が金利リスク管理の一部として利用しているデリバティブには、金利スワップがあります。

当社および子会社は、外貨建ての営業取引、海外投資に伴う為替変動リスクに対して、原則的に外貨建借入、為替予約および通貨スワップ等を利用してヘッジしています。海外子会社についても同様に、各地域の資産通貨に合わせて負債を構成することを原則としています。また当社の子会社は、保険事業における変額年金保険および変動保険契約の最低保証リスクを経済的にヘッジするために、オプション契約、先物契約および為替予約を保有しています。

デリバティブを利用することにより、当社および子会社は、取引相手方の不履行が起こった場合の信用リスクにさらされています。当社および子会社は、デリバティブの取引相手方も含めた取引内容の承認、取引相手方ごとの想定元本、時価、取引の種類等に関するモニタリング等を定期的に行い、信用リスクを管理しています。

#### (a) キャッシュ・フロー・ヘッジ

当社および子会社は、金利スワップ契約、通貨スワップ契約および為替予約を利用して、変動金利の借入金や予定取引から発生するキャッシュ・フローの変動リスク、為替変動リスクをヘッジしています。

#### (b) 公正価値ヘッジ

当社および子会社は、金利変動リスクおよび為替変動リスクをヘッジする目的で、公正価値ヘッジとして指定されたデリバティブを利用しています。当社および子会社は、外貨建てのリース債権、営業貸付金および借入金等の為替変動リスクをヘッジするために通貨スワップ契約および為替予約を利用しています。また、当社および子会社は、営業貸付金や当社および海外子会社が発行する固定金利のメディアム・ターム・ノートや社債の金利変動に伴う公正価値の変動をヘッジするために金利スワップ契約を利用しています。なお、海外子会社が現地通貨建て以外でメディアム・ターム・ノートを発行した場合には、通貨スワップ契約を用いて為替変動リスクをヘッジしています。その他、子会社は外貨建ての長期借入債務を利用して、未認識の確定契約から生じる為替変動リスクをヘッジしています。

#### (c) 海外子会社の純投資ヘッジ

当社は、海外子会社への純投資の為替変動リスクをヘッジする目的で、為替予約、海外子会社の現地通貨による借入金および社債を利用しています。

#### (d) トレーディング目的またはヘッジ手段の指定を行っていないデリバティブ

当社および子会社は、主として先物契約を利用したトレーディング活動を行っています。そのため株価、金利、為替等のさまざまな市場の価格変動リスクにさらされていますが、これらのリスクについて社内指標を用いて一定のレベル内にあることを確認し、継続の可否等を決定しています。また、当社および子会社は会計基準編纂書815(デリバティブおよびヘッジ活動)のヘッジ会計の要件を満たしていない金利スワップ契約、通貨スワップ契約および為替予約をリスク管理の一環として保有しています。また、当社の子会社は、保険事業における変額年金保険の最低保証リスクを経済的にヘッジする目的でオプション契約、先物契約および為替予約を保有しています。

会計基準編纂書815-10-50(デリバティブおよびヘッジ活動—開示)は、表形式によるデリバティブの公正価値およびそれらの損益、デリバティブ契約における信用リスクに関連した偶発特性に関する情報を開示することを要求しています。



前第2四半期連結累計期間におけるデリバティブの連結損益計算書に与える影響（税効果控除前）は以下のとおりです。

(1) キャッシュ・フロー・ヘッジにおけるデリバティブ

	その他の包括利益に認識されたデリバティブ損益 (有効部分)	その他の包括利益累計額から損益に振替られたデリバティブ損益 (有効部分)		損益認識されたデリバティブ損益 (非有効部分および有効性テスト除外分)	
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)
金利スワップ契約	705	貸付金および有価証券利息／支払利息	22	—	—
為替予約	△379	為替差損	448	—	—
通貨スワップ契約	423	貸付金および有価証券利息／支払利息／為替差損	△1,057	為替差損	△93

(2) 公正価値ヘッジにおけるデリバティブおよびその他のヘッジ手段

	損益認識されたデリバティブ等の損益		損益認識されたヘッジ対象の損益	
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目
金利スワップ契約	△718	貸付金および有価証券利息／支払利息	709	貸付金および有価証券利息／支払利息
為替予約	△3,612	為替差損	3,612	為替差損
通貨スワップ契約	△974	為替差損	970	為替差損
外貨建の長期借入債務	△1,587	為替差損	1,587	為替差損

(3) 純投資ヘッジにおけるデリバティブおよびその他のヘッジ手段

	その他の包括利益に認識されたデリバティブ等の損益 (有効部分)	その他の包括利益累計額から損益に振替られたデリバティブ等の損益 (有効部分)		損益認識されたデリバティブ等の損益 (非有効部分および有効性テスト除外分)	
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)
為替予約	△8,246	子会社・関連会社株式売却損益および清算損	△171	—	—
現地通貨建の借入金および社債	△6,562	—	—	—	—

(4) トレーディング目的またはヘッジ手段の指定を行っていないデリバティブ

	損益認識されたデリバティブ損益	
	金額(百万円)	勘定科目
金利スワップ契約	5	その他の営業収入／その他の営業費用
先物契約	52	有価証券等仲介手数料および売却益
為替予約	△2	有価証券等仲介手数料および売却益
クレジット・デリバティブの買建／売建	△40	その他の営業収入／その他の営業費用
オプションの買建／売建、その他	△941	その他の営業収入／その他の営業費用

当第2四半期連結累計期間におけるデリバティブの連結損益計算書に与える影響（税効果控除前）は以下のとおりです。

(1) キャッシュ・フロー・ヘッジにおけるデリバティブ

	その他の包括利益に認識されたデリバティブ損益 (有効部分)	その他の包括利益累計額から損益に振替られたデリバティブ損益 (有効部分)		損益認識されたデリバティブ損益 (非有効部分および有効性テスト除外分)	
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)
金利スワップ契約	△107	貸付金および有価証券利息/支払利息	12	—	—
為替予約	△866	為替差損	23	—	—
通貨スワップ契約	△557	貸付金および有価証券利息/支払利息/為替差損	△1,407	為替差損	55

(2) 公正価値ヘッジにおけるデリバティブおよびその他のヘッジ手段

	損益認識されたデリバティブ等の損益		損益認識されたヘッジ対象の損益	
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目
金利スワップ契約	△1,092	貸付金および有価証券利息/支払利息	1,112	貸付金および有価証券利息/支払利息
為替予約	△10,882	為替差損	10,882	為替差損
通貨スワップ契約	△2,066	為替差損	2,066	為替差損
外貨建の長期借入債務	176	為替差損	△176	為替差損

(3) 純投資ヘッジにおけるデリバティブおよびその他のヘッジ手段

	その他の包括利益に認識されたデリバティブ等の損益 (有効部分)	その他の包括利益累計額から損益に振替られたデリバティブ等の損益 (有効部分)		損益認識されたデリバティブ等の損益 (非有効部分および有効性テスト除外分)	
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)
為替予約	△8,639	—	—	—	—
現地通貨建の借入金および社債	△3,520	—	—	—	—

(4) トレーディング目的またはヘッジ手段の指定を行っていないデリバティブ

	損益認識されたデリバティブ損益	
	金額(百万円)	勘定科目
金利スワップ契約	△116	その他の営業収入/その他の営業費用
先物契約	△2,371	有価証券等仲介手数料および売却益 生命保険料収入および運用益 ※
為替予約	△8	有価証券等仲介手数料および売却益 生命保険料収入および運用益 ※
クレジット・デリバティブの買建	△25	その他の営業収入/その他の営業費用
オプションの買建/売建、その他	△9,954	その他の営業収入/その他の営業費用 生命保険料収入および運用益 ※

※ 上表における先物契約、為替予約およびオプションの買建/売建、その他には、当第2四半期連結累計期間において、保険事業における変額年金保険契約および変額保険契約の最低保証リスクを経済的にヘッジするために保有する先物契約、為替予約およびオプションの買建から生じる損失を含んでいます（注記15「生命保険事業」参照）。

前第2四半期連結会計期間におけるデリバティブの連結損益計算書に与える影響（税効果控除前）は以下のとおりです。

(1) キャッシュ・フロー・ヘッジにおけるデリバティブ

	その他の包括利益に認識されたデリバティブ損益 (有効部分)	その他の包括利益累計額から損益に振替られたデリバティブ損益 (有効部分)	損益認識されたデリバティブ損益 (非有効部分および有効性テスト除外分)		
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)
金利スワップ契約	270	貸付金および有価証券利息／支払利息	12	—	—
為替予約	△159	為替差損	412	—	—
通貨スワップ契約	2	貸付金および有価証券利息／支払利息／為替差損	△937	為替差損	29

(2) 公正価値ヘッジにおけるデリバティブおよびその他のヘッジ手段

	損益認識されたデリバティブ等の損益		損益認識されたヘッジ対象の損益	
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目
金利スワップ契約	△252	貸付金および有価証券利息／支払利息	251	貸付金および有価証券利息／支払利息
為替予約	△5,310	為替差損	5,310	為替差損
通貨スワップ契約	△673	為替差損	673	為替差損
外貨建の長期借入債務	60	為替差損	△60	為替差損

(3) 純投資ヘッジにおけるデリバティブおよびその他のヘッジ手段

	その他の包括利益に認識されたデリバティブ等の損益 (有効部分)	その他の包括利益累計額から損益に振替られたデリバティブ等の損益 (有効部分)		損益認識されたデリバティブ等の損益 (非有効部分および有効性テスト除外分)	
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)
為替予約	△5,525	—	—	—	—
現地通貨建の借入金および社債	△427	—	—	—	—

(4) トレーディング目的またはヘッジ手段の指定を行っていないデリバティブ

	損益認識されたデリバティブ損益	
	金額(百万円)	勘定科目
金利スワップ契約	—	—
先物契約	△10	有価証券等仲介手数料および売却益
為替予約	△24	有価証券等仲介手数料および売却益
クレジット・デリバティブの買建／売建	23	その他の営業収入／その他の営業費用
オプションの買建／売建、その他	△1,424	その他の営業収入／その他の営業費用

当第2四半期連結会計期間におけるデリバティブの連結損益計算書に与える影響（税効果控除前）は以下のとおりです。

(1) キャッシュ・フロー・ヘッジにおけるデリバティブ

	その他の包括利益に認識されたデリバティブ損益 (有効部分)	その他の包括利益累計額から損益に振替られたデリバティブ損益 (有効部分)		損益認識されたデリバティブ損益 (非有効部分および有効性テスト除外分)	
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)
金利スワップ契約	△45	貸付金および有価証券利息／支払利息	5	—	—
為替予約	△1,145	為替差損	4	—	—
通貨スワップ契約	982	貸付金および有価証券利息／支払利息／為替差損	△405	為替差損	66

(2) 公正価値ヘッジにおけるデリバティブおよびその他のヘッジ手段

	損益認識されたデリバティブ等の損益		損益認識されたヘッジ対象の損益	
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目
金利スワップ契約	△768	貸付金および有価証券利息／支払利息	768	貸付金および有価証券利息／支払利息
為替予約	△11,941	為替差損	11,941	為替差損
通貨スワップ契約	△975	為替差損	975	為替差損
外貨建の長期借入債務	△20	為替差損	20	為替差損

(3) 純投資ヘッジにおけるデリバティブおよびその他のヘッジ手段

	その他の包括利益に認識されたデリバティブ等の損益 (有効部分)	その他の包括利益累計額から損益に振替られたデリバティブ等の損益 (有効部分)		損益認識されたデリバティブ等の損益 (非有効部分および有効性テスト除外分)	
	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)	勘定科目	金額(百万円)
為替予約	△11,173	—	—	—	—
現地通貨建の借入金および社債	△8,451	—	—	—	—

(4) トレーディング目的またはヘッジ手段の指定を行っていないデリバティブ

	損益認識されたデリバティブ損益	
	金額(百万円)	勘定科目
金利スワップ契約	△116	その他の営業収入／その他の営業費用
先物契約	△2,366	有価証券等仲介手数料および売却益 生命保険料収入および運用益 ※
為替予約	△11	有価証券等仲介手数料および売却益 生命保険料収入および運用益 ※
クレジット・デリバティブの買建	37	その他の営業収入／その他の営業費用
オプションの買建／売建、その他	△9,598	その他の営業収入／その他の営業費用 生命保険料収入および運用益 ※

※ 上表における先物契約、為替予約およびオプションの買建／売建、その他には、当第2四半期連結会計期間において、保険事業における変額年金保険契約および変額保険契約の最低保証リスクを経済的にヘッジするために保有する先物契約、為替予約およびオプションの買建から生じる損失を含んでいます（注記15「生命保険事業」参照）。

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在におけるデリバティブ等の想定元本および相殺前の公正価額は以下のとおりです。

前連結会計年度末					
	想定元本 (百万円)	デリバティブ資産		デリバティブ負債	
		公正価額 (百万円)	勘定科目	公正価額 (百万円)	勘定科目
ヘッジ目的でヘッジ手段指定されたデリバティブおよびその他のヘッジ手段					
金利スワップ契約	206,605	2,528	その他受取債権	634	支払手形および未払金等
先物契約、為替予約	370,243	1,018	その他受取債権	4,708	支払手形および未払金等
通貨スワップ契約	93,276	3,534	その他受取債権	7,176	支払手形および未払金等
外貨建の長期借入債務	261,483	—	—	—	—
トレーディング目的またはヘッジ手段の指定を行っていないデリバティブ					
オプションの売建、その他	173,637	5,486	その他受取債権	3,605	支払手形および未払金等
先物契約、為替予約	65,094	56	その他受取債権	472	支払手形および未払金等
クレジット・デリバティブの買建/売建	13,715	29	その他受取債権	265	支払手形および未払金等

当第2四半期連結会計期間末					
	想定元本 (百万円)	デリバティブ資産		デリバティブ負債	
		公正価額 (百万円)	勘定科目	公正価額 (百万円)	勘定科目
ヘッジ目的でヘッジ手段指定されたデリバティブおよびその他のヘッジ手段					
金利スワップ契約	253,464	1,348	その他受取債権	735	支払手形および未払金等
先物契約、為替予約	599,773	871	その他受取債権	21,386	支払手形および未払金等
通貨スワップ契約	99,172	4,002	その他受取債権	8,154	支払手形および未払金等
外貨建の長期借入債務	262,839	—	—	—	—
トレーディング目的またはヘッジ手段の指定を行っていないデリバティブ					
金利スワップ契約	3,000	—	—	116	支払手形および未払金等
オプションの買建/売建、その他 ※	583,941	16,409	その他受取債権	3,495	支払手形および未払金等
先物契約、為替予約 ※	145,201	453	その他受取債権	2,136	支払手形および未払金等
クレジット・デリバティブの買建	13,700	—	その他受取債権	264	支払手形および未払金等

※ 上表におけるオプションの買建/売建、その他および先物契約、為替予約には、当第2四半期連結会計期間末現在、保険事業における変額年金保険契約および変額保険契約の最低保証リスクを経済的にヘッジするために保有するオプションの買建、先物契約および為替予約の想定元本それぞれ436,863百万円、62,430百万円および20,790百万円を含んでいます。また、上表におけるデリバティブ資産にはオプションの買建、先物契約および為替予約の公正価額それぞれ11,401百万円、121百万円および17百万円、デリバティブ負債には先物契約および為替予約の公正価額それぞれ1,138百万円および739百万円を含んでいます。

デリバティブ契約の中には当社が主要な格付機関による一定の投資適格信用格付を維持することを要求する条項を含んでいるものがあります。

格付が投資適格を下回る場合、当該条項に違反することになり、デリバティブの取引相手先は純額で負債ポジションにあるデリバティブに対して即座の支払いを要求できます。

当第2四半期連結会計期間末現在、信用リスク関連の偶発特性のあるデリバティブで負債ポジションにあるものはありません。

会計基準編纂書815-10-50(デリバティブおよびヘッジ活動－開示)は、クレジット・デリバティブの売り手に対して、信用リスクに起因する潜在的損失リスクについての情報の追加開示を要求しています。

当社および子会社はトレーディングを目的としてクレジット・デリバティブ契約を締結しています。前連結会計年度末の売建契約の詳細は以下のとおりです。なお、当第2四半期連結会計期間末現在、保有している売建契約はありません。

前連結会計年度末				
デリバティブの種類	履行が求められる状況	履行が求められた場合の支払上限額(百万円)	残期間	公正価額(百万円)
クレジット・デフォルトスワップ	参照先企業においてクレジットイベント(倒産・支払不能・債務免除等のリスラクチャリング)が発生した場合 ※	425	4年未満	29

※ 前連結会計年度末において、格付機関より B a a 1 以上の格付を付与されている企業を参照先としています。

20 資産および負債の相殺表示

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在、当社および子会社における、デリバティブ資産および負債等に関する認識済みの金額、相殺している金額、および連結貸借対照表上の金額の情報は以下のとおりです。

前連結会計年度末						
	認識済みの金額 (百万円)	相殺している 金額 (百万円)	連結貸借対照表 上の金額 (百万円)	連結貸借対照表上、 相殺していない金額 ※1		純額 (百万円)
				金融商品 (百万円)	担保 (百万円)	
デリバティブ資産	12,651	△214	12,437	△1,015	—	11,422
売戻条件付有価証券 買入取引、担保付有 価証券借入取引およ び類似の取引 ※2	3,064	△3,049	15	—	—	15
資産合計	15,715	△3,263	12,452	△1,015	—	11,437
デリバティブ負債	16,860	△214	16,646	△1,015	△571	15,060
買戻条件付有価証券 売却取引、担保付有 価証券貸付取引およ び類似の取引 ※2	3,049	△3,049	—	—	—	—
負債合計	19,909	△3,263	16,646	△1,015	△571	15,060

当第2四半期連結会計期間末						
	認識済みの金額 (百万円)	相殺している 金額 (百万円)	連結貸借対照表 上の金額 (百万円)	連結貸借対照表上、 相殺していない金額 ※1		純額 (百万円)
				金融商品 (百万円)	担保 (百万円)	
デリバティブ資産	23,083	△255	22,828	△798	△11,401	10,629
売戻条件付有価証券 買入取引、担保付有 価証券借入取引およ び類似の取引 ※2	6,781	△6,781	—	—	—	—
資産合計	29,864	△7,036	22,828	△798	△11,401	10,629
デリバティブ負債	36,286	△255	36,031	△798	△754	34,479
買戻条件付有価証券 売却取引、担保付有 価証券貸付取引およ び類似の取引 ※2	6,934	△6,781	153	—	—	153
負債合計	43,220	△7,036	36,184	△798	△754	34,632

※1 法的拘束力のあるマスターネットティング契約および、それと同様の契約のうち、相殺していない金額です。

※2 売戻条件付有価証券買入取引、担保付有価証券借入取引および類似の取引は、連結貸借対照表上、その他受取債権に計上しています。買戻条件付有価証券売却取引、担保付有価証券貸付取引および類似の取引は、連結貸借対照表上、支払手形および未払金等に計上しています。

21 金融商品の見積公正価額

以下の情報は連結財務諸表上の帳簿価額と、市場価額または公正価額との関連性について理解を高めるために開示するものです。この開示は、ファイナンス・リース投資、子会社および関連会社投資、年金債務、保険契約を除く金融商品およびデリバティブを含んでいます。

前連結会計年度末					
	帳簿価額 (百万円)	見積公正価額 (百万円)	公正価値測定に使用したインプット (百万円)		
			レベル1	レベル2	レベル3
トレーディング目的の金融商品					
短期売買目的有価証券	16,079	16,079	275	15,804	—
先物契約、為替予約：					
資産	8	8	8	—	—
負債	184	184	28	156	—
クレジット・デリバティブの買建／売建：					
資産	29	29	—	29	—
負債	265	265	—	265	—
オプションの売建、その他：					
資産	5,486	5,486	—	3,000	2,486
負債	3,605	3,605	—	3,605	—
非トレーディング目的の金融商品					
資産：					
現金および現金等価物	827,299	827,299	827,299	—	—
使途制限付現金	86,690	86,690	86,690	—	—
定期預金	7,510	7,510	—	7,510	—
営業貸付金(貸倒引当金控除後)	2,246,143	2,274,922	—	120,583	2,154,339
投資有価証券：					
時価評価可能	984,654	991,959	230,618	671,023	90,318
時価評価不可能 ※	213,843	213,843	—	—	—
負債：					
短期借入債務	309,591	309,591	—	309,591	—
預金	1,206,413	1,206,642	—	1,206,642	—
長期借入債務	3,858,874	3,865,456	—	1,235,377	2,630,079
先物契約、為替予約：					
資産	852	852	—	852	—
負債	4,782	4,782	—	4,782	—
通貨スワップ契約：					
資産	3,534	3,534	—	3,534	—
負債	7,176	7,176	—	7,176	—
金利スワップ契約：					
資産	2,528	2,528	—	2,528	—
負債	634	634	—	634	—

※ 投資有価証券のうち213,843百万円は、実務上困難なため公正価値を見積もっていません。



当第2四半期連結会計期間末

	帳簿価額 (百万円)	見積公正価額 (百万円)	公正価値測定に使用したインプット (百万円)		
			レベル1	レベル2	レベル3
トレーディング目的の金融商品					
短期売買目的有価証券	1,463,900	1,463,900	50,062	1,413,838	—
先物契約、為替予約：					
資産	338	338	147	191	—
負債	2,068	2,068	1,168	900	—
金利スワップ契約：					
資産	—	—	—	—	—
負債	116	116	—	116	—
クレジット・デリバティブの買建：					
資産	—	—	—	—	—
負債	264	264	—	264	—
オプションの買建／売建、その他：					
資産	16,409	16,409	—	853	15,556
負債	3,495	3,495	—	3,495	—
非トレーディング目的の金融商品					
資産：					
現金および現金等価物	814,923	814,923	814,923	—	—
使途制限付現金	97,985	97,985	97,985	—	—
定期預金	25,280	25,280	—	25,280	—
営業貸付金(貸倒引当金控除後)	2,317,413	2,331,512	—	204,178	2,127,334
投資有価証券：					
時価評価可能	1,327,444	1,337,557	117,040	1,134,619	85,898
時価評価不可能 ※	194,454	194,454	—	—	—
負債：					
短期借入債務	350,297	350,297	—	350,297	—
預金	1,218,164	1,219,445	—	1,219,445	—
長期借入債務	3,849,947	3,856,652	—	1,329,486	2,527,166
先物契約、為替予約：					
資産	751	751	—	751	—
負債	21,219	21,219	—	21,219	—
通貨スワップ契約：					
資産	3,982	3,982	—	3,982	—
負債	8,134	8,134	—	8,134	—
金利スワップ契約：					
資産	1,348	1,348	—	1,348	—
負債	735	735	—	735	—

※ 投資有価証券のうち194,454百万円は、実務上困難なため公正価値を見積もっていません。

## 公正価額のインプットレベル

活発な市場での市場価額が入手できるものについては、市場価額を使用し、レベル1に分類しています。活発な市場での市場価額が入手できない場合、類似した資産の相場価額など、レベル1に含まれる公表価額以外の観察可能なインプットに基づき公正価値測定を行うものについては、レベル2に分類しています。市場価額が入手できず、観察可能なインプットもない場合には、公正価値測定は割引キャッシュ・フロー法、一般的なオプション・プライシング・モデルなどの評価モデルおよび第三者の算定する価格に基づき評価しています。評価モデルおよび第三者の算定する価格を使用する場合には観察不能なインプットを含むため、レベル3に分類しています。

## 公正価額の見積もり

見積もることが可能な各種の金融商品の公正価額は、以下の評価方法や重要な前提によって見積もっています。

## 現金および現金等価物、使途制限付現金、定期預金、短期借入債務

契約期間が短期のため、帳簿価額を公正価額と見なしています。

## 営業貸付金

大きな信用リスクの変化がなく、短期間で金利見直しが行われている変動金利貸付金については、帳簿価額を合理的な公正価額と見なしています。また、買取債権についても、帳簿価額（貸倒引当金控除後）が債権の回収価値を適切に反映していると考えられるため、帳簿価額を合理的な公正価額と見なしています。同種の中長期の固定金利貸付金の公正価額の見積もりに関しては、期末日時点で当社および子会社が信用状況および残期間の類似した顧客との契約を新たに行う場合の利子率を用いて、将来のキャッシュ・フローを現在価値に割り引いて計算を行っています。なお、上記において公表市場価額やディーラーから提供される相場表等の価額がある場合には、その価額をもとにして公正価額の見積もりを行っています。

## 投資有価証券

公正価額を帳簿価額としている短期売買目的有価証券や売却可能有価証券（特定社債やその他一部のモーゲージ担保証券、資産担保証券を除く）は、通常、公表市場価額やディーラーから提供される相場表をもとにして公正価額の見積もりを行っています。また、売却可能有価証券のうち特定社債やその他一部のモーゲージ担保証券、資産担保証券については割引キャッシュ・フロー法および第三者の算定する価格に基づき、公正価額の見積もりを行っています（注記3「公正価値測定」参照）。満期保有目的有価証券については、公表市場価額をもとにして公正価額の見積もりを行っています。その他の有価証券のうち、一部の投資ファンドについては、1株当たり純資産価値または割引キャッシュ・フロー法を基に公正価額を見積もっています。それ以外のその他の有価証券（主に、市場性のない株式および優先出資証券）については、実務上困難なため公正価額を見積もっていません。これらは公表市場価額が存在せず、また個別に異なる性質を有するため、多大なコスト負担なしに公正価額を見積もれません。

## 預金

要求払預金については、帳簿価額を公正価額と見なしています。定期預金の公正価額の見積もりは、将来のキャッシュ・フローを割り引いて計算を行っています。その割引率は、現時点での類似した平均残存期間で預金を受け入れる場合に使用する金利を用いています。

## 長期借入債務

短期間で金利の見直しがされている変動金利長期借入債務については、帳簿価額を公正価額と見なしています。中長期の固定金利借入債務の公正価額の見積もりは、将来のキャッシュ・フローを割り引いて計算しています。その割引率は、当社および子会社が現時点で類似した条件で平均残余期間の借入を新たに行う時に金融機関により提示されると思われる借入金利を用いています。なお、上記において公表市場価額やディーラーから提供される相場表等の価額がある場合には、その価額をもとにして公正価額の見積もりを行っています。

## デリバティブ

取引所取引を行っているデリバティブについては取引市場価額を用いて公正価額を見積もっています。その他については、当社および子会社が期末日にそれらの契約を終わらせる場合の受取・支払額より見積もった価額を公正価額とし、未決済契約の未実現損益を考慮した金額となっています。当社および子会社のデリバティブの公正価額の見積もりには、主に期末日現在の金利をもとに将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割り引いた金額を用いています。

22 契約債務、保証債務および偶発債務

契約債務

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在、当社および子会社が行っているリース資産の買付予約額はそれぞれ20,390百万円および16,343百万円です。

解約不可能期間中の基本レンタル料の支払予定は以下のとおりです。

	前連結会計年度末（百万円）	当第2四半期連結会計期間末（百万円）
一年以内	7,558	8,135
一年超	48,587	52,242
合計	56,145	60,377

当社および子会社は、主に解約可能な事務所の賃貸借契約を締結しており、前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間に全体でそれぞれ4,808百万円および6,250百万円の賃借料を支払っています。また、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間に全体でそれぞれ2,643百万円および3,301百万円の賃借料を支払っています。

当社および子会社は、解約不可能なシステム運用・管理のアウトソーシング契約を締結し、前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間に全体でそれぞれ1,279百万円および2,020百万円の委託料を支払っています。また、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間に全体でそれぞれ1,192百万円および1,017百万円の委託料を支払っています。前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在における今後の支払予定額は以下のとおりです。

	前連結会計年度末（百万円）	当第2四半期連結会計期間末（百万円）
一年以内	2,931	3,177
一年超	3,035	7,254
合計	5,966	10,431

当社および子会社は、不動産開発案件の見積建設費用にかかるコミットメントおよびその他のコミットメント契約を結び、前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在の総額はそれぞれ69,375百万円および84,444百万円です。

当社および子会社は、契約上合意された条件に合致する限りにおいて、顧客に将来貸付を行うコミットメント契約およびファンドに将来投資を行うコミットメント契約を結んでいます。未実行枠は前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、それぞれ295,079百万円および294,997百万円です。

保証

当社および子会社は、会計基準編纂書460(保証)に従い、会計基準編纂書460に該当する保証契約の公正価額を、契約の開始時点において、連結貸借対照表に負債計上しています。前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在の、保証契約の支払限度額、負債計上されている帳簿価額、契約の最長期限は以下のとおりです。

保証の種類	前連結会計年度末			当第2四半期連結会計期間末		
	保証の支払限度額（百万円）	保証債務の帳簿価額（百万円）	契約の最長期限	保証の支払限度額（百万円）	保証債務の帳簿価額（百万円）	契約の最長期限
事業性資金債務保証	349,435	3,577	平成33年	402,685	3,934	平成34年
譲渡債権保証	212,150	3,671	平成57年	208,492	3,158	平成57年
一般個人ローン保証	96,183	9,607	平成30年	105,601	10,752	平成30年
住宅ローン保証	33,704	7,013	平成63年	25,050	6,728	平成63年
その他	3,070	92	平成36年	2,808	26	平成36年
合計	694,542	23,960	—	744,636	24,598	—

事業性資金債務保証：当社および子会社は、主に、金融機関が顧客に対し融資した資金の返済を保証しています。当社および子会社は、債務者である顧客が、契約に基づいて元本もしくは利息の支払を行わなかった場合に、債務者に代わり債務を履行します。一部の契約については、債務者である顧客の資産が融資の担保に差し入れられています。当社および子会社が債務者に代わり債務を履行する場合、当社および子会社はその担保資産を得ることができます。また、金融機関が顧客に対し融資した資金の返済を保証する契約には、保証履行額が保証料の範囲に限定されている契約が含まれています。前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在の当該保証契約の総額は、1,269,000百万円および1,254,000百万円であり、上表に含まれる、前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在の保証債務の帳簿価額は、それぞれ823百万円および718百万円です。このような保証に関し、上表に含まれる保証の支払限度額の金額は保証料の一定の範囲内に限定され、上述した保証契約の総額より小さな金額となっています。

保証の履行リスクは、過去に発生したクレジットイベントに基づいて検討しています。当第2四半期連結累計期間において、保証の履行リスクに大きな変動はありません。

譲渡債権保証：米国の子会社は、ファニーメイのDelegated Underwriting and Servicingプログラムに基づいて、事前にファニーメイの承認を得ることなしに、集合住宅や高齢者向け住宅ローン債権の引受け、実行、資金提供およびサービシングを行う権限を有しています。このプログラムにおいて、ファニーメイは債権購入のコミットメントを提供しています。

権限を譲り受ける一方で、当該子会社は、ファニーメイに譲渡した一部の住宅ローン債権のパフォーマンスを保証し、それらの債権から損失が発生した場合に、その損失の一部を負担する保証の履行リスクを有しています。当第2四半期連結累計期間において、保証の履行リスクに大きな変動はありません。

一般個人ローン保証：子会社は、日本の金融機関が行ったカードローン等について、債務者の支払を保証しています。子会社は、それらのローンの延滞が主として1ヶ月以上になった場合に、その債務者に代わり債務を履行します。

保証の履行リスクは、過去に発生したクレジットイベントに基づいて検討しています。当第2四半期連結累計期間において、保証の履行リスクに大きな変動はありません。

住宅ローン保証：当社および子会社は、日本の金融機関が第三者に対し融資した住宅ローンの返済を保証しています。当社および子会社は、それらのローンの延滞が主として3ヶ月以上になった場合に、債務者に代わって債務を履行します。住宅ローンには通常、当該不動産が担保として差し入れられています。当社および子会社が債務者に代わり債務を履行する場合、当社および子会社はその担保資産を得ることができます。

保証の履行リスクは、過去に発生したクレジットイベントに基づいて検討しています。当第2四半期連結累計期間において、保証の履行リスクに大きな変動はありません。

その他：その他の債務保証契約には、金融機関に対する支払保証および債権の代理回収契約に伴う支払保証がありません。金融機関に対する支払保証契約において当社の子会社は、金融機関の顧客が債務者となり、その債務が不履行となった場合に、債務者に代わって当該金融機関に債務を支払います。また、債権の代理回収契約において当社および子会社は、第三者の債務を回収しますが、当該債務を回収できなかった場合には、債務者に代わって債権者に支払いを行います。

#### 訴訟

当社および子会社は通常の営業の中で生じる損害賠償請求に係っていますが、経営者は当社の財政状態および経営成績に重要な影響を与える訴訟等はないと考えています。

## 担保

注記8 変動持分事業体に記載の連結しているV I Eが担保に供している資産以外に、金融機関からの長期および短期借入債務には、前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、以下の資産を担保に供していません。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
基本リース債権、営業貸付金、オペレーティング・リース投資	96,083	83,928
投資有価証券	130,991	162,376
その他営業資産	61,784	18,254
その他資産等	50,206	46,959
合計	339,064	311,517

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在において、主に取引保証金として、投資有価証券等をそれぞれ27,238百万円および23,085百万円差し入れています。

銀行および一部の保険会社からの長期および短期借入債務は、借入契約上、貸し手の要請があった場合には担保を差し入れることとなっています。しかしながら、当第2四半期連結会計期間末現在、当社および子会社は借入先からそのような要請を受けていません。

## 23 セグメント情報

以下に報告されている事業セグメントの財務情報は、そのセグメントの財務情報が入手可能なもので、かつ経営陣による業績の評価および経営資源の配分の決定に定期的に使用されているものです。

6セグメントの事業内容は以下のとおりです。

法人金融サービス事業部門	融資事業、リース事業、各種手数料ビジネス
メンテナンスリース事業部門	自動車リース事業、レンタカー事業、カーシェアリング事業、電子計測器・IT関連機器等のレンタル事業およびリース事業
不動産事業部門	不動産開発・賃貸・ファイナンス事業、施設運営事業、不動産投資法人（REIT）の資産運用・管理事業、不動産投資顧問業
事業投資事業部門	環境エネルギー関連事業、プリンシパル・インベストメント事業、サービサー（債権回収）事業
リテール事業部門	生命保険事業、銀行事業、カードローン事業
海外事業部門	リース事業、融資事業、債券投資事業、投資銀行事業、アセットマネジメント事業、船舶・航空機関連事業

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間のセグメント収益およびセグメント利益の情報は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間（百万円）							
	法人金融サービス事業部門	メンテナンスリース事業部門	不動産事業部門	事業投資事業部門	リテール事業部門	海外事業部門	合計
セグメント収益	37,273	125,236	99,300	78,683	103,474	151,364	595,330
セグメント利益	11,446	20,513	8,769	22,215	28,379	34,204	125,526

当第2四半期連結累計期間（百万円）							
	法人金融サービス事業部門	メンテナンスリース事業部門	不動産事業部門	事業投資事業部門	リテール事業部門	海外事業部門	合計
セグメント収益	37,444	131,729	92,204	241,251	181,924	251,733	936,285
セグメント利益	12,646	21,509	15,750	15,323	77,724	61,533	204,485

前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間のセグメント収益およびセグメント利益の情報は以下のとおりです。

前第2四半期連結会計期間（百万円）							
	法人金融 サービス 事業部門	メンテナンス リース 事業部門	不動産 事業部門	事業投資 事業部門	リテール 事業部門	海外 事業部門	合計
セグメント収益	18,914	62,840	52,758	47,210	52,247	91,703	325,672
セグメント利益	6,200	9,482	3,224	11,516	11,156	18,695	60,273

当第2四半期連結会計期間（百万円）							
	法人金融 サービス 事業部門	メンテナンス リース 事業部門	不動産 事業部門	事業投資 事業部門	リテール 事業部門	海外 事業部門	合計
セグメント収益	18,865	66,645	46,229	135,389	112,175	124,703	504,006
セグメント利益	6,794	10,495	4,903	5,488	48,770	21,880	98,330

前連結会計年度末および当第2四半期連結会計期間末現在のセグメント資産の情報は以下のとおりです。

	法人金融 サービス 事業部門 (百万円)	メンテナンス リース 事業部門 (百万円)	不動産 事業部門 (百万円)	事業投資 事業部門 (百万円)	リテール 事業部門 (百万円)	海外 事業部門 (百万円)	合計 (百万円)
前連結会計年度末	992,078	622,009	962,404	565,740	2,166,986	1,972,138	7,281,355
当第2四半期連結会計期間末	983,575	656,143	885,334	606,045	3,907,031	2,090,120	9,128,248

これらの表で報告されているセグメント情報は、非継続事業からの損益として分類された取引も含んでいます。

セグメント情報の会計方針は、税金費用、非支配持分に帰属する四半期純利益、償還可能非支配持分に帰属する四半期純利益、非継続事業からの損益および一部のVIEの取り扱いを除き、注記2「重要な会計方針」における記載と概ね同一です。各セグメントの営業活動に直接関連している人件費を含め、販売費および一般管理費の大部分は各セグメントに集計されています。セグメント情報では税引前当期純利益で業績を評価しているため、税金費用はセグメント損益に含んでいません。税引後で四半期連結財務諸表に認識される非支配持分に帰属する四半期純利益、償還可能非支配持分に帰属する四半期純利益および非継続事業からの損益は税引前のベースに修正されています。また一部の有価証券評価損、長期性資産評価損や為替差損益など、経営者がセグメントの業績評価にあたって考慮していない損益はセグメント損益に含まず、本社部門の項目として扱っています。

各セグメントに帰属させている資産は、ファイナンス・リース投資、営業貸付金、オペレーティング・リース投資、投資有価証券、その他営業資産、関連会社投資、棚卸資産、賃貸資産前渡金（その他資産に含まれる）、その他営業資産前渡金（その他資産に含まれる）および企業結合に伴う営業権およびその他の無形資産（その他資産に含まれる）です。なお、社用資産の減価償却費をセグメント損益に含めていますが、対応する資産はセグメント資産に含めていません。しかし、これらの影響額は軽微です。

会計基準編纂書810(連結－変動持分事業体)に基づいて連結対象となっているVIEのうち、VIEの資産がVIEの債務等の返済にのみ使用され、VIEの負債の債権者が当社および子会社の他の資産に対する請求権を持たない証券化のためのVIEについては、セグメント資産として当該VIEの資産の合計金額ではなく、当該VIEに対する当社投資相当金額を計上し、これに合わせてセグメント収益として当社投資相当金額に対する収益を純額で計上しています。

なお、連結対象VIEが保有する資産および負債に関わる損益のうち、最終的に当社が負担すべきでない損益については、セグメント損益に計上していません。

セグメント数値と四半期連結財務諸表数値との調整は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
セグメント収益		
セグメント収益合計	595,330	936,285
本社部門保有の資産にかかる収入	4,956	4,669
一部のV I Eが保有する資産にかかる収入	25,505	6,435
非継続事業からの営業収益	△16,688	△2,214
四半期連結財務諸表上の営業収益	609,103	945,175
セグメント利益		
セグメント利益合計	125,526	204,485
本社部門の損益	△13,413	△10,164
一部のV I Eの資産および負債にかかる損益	16,376	3,624
非継続事業からの利益(税効果控除前)	△9,995	△463
非支配持分および償還可能非支配持分に帰属する 四半期純利益(税効果控除後)	3,637	5,522
四半期連結財務諸表上の税引前四半期純利益	122,131	203,004

	前第2四半期連結会計期間 (百万円)	当第2四半期連結会計期間 (百万円)
セグメント収益		
セグメント収益合計	325,672	504,006
本社部門保有の資産にかかる収入	1,848	1,580
一部のV I Eが保有する資産にかかる収入	9,702	1,846
非継続事業からの営業収益	△4,191	—
四半期連結財務諸表上の営業収益	333,031	507,432
セグメント利益		
セグメント利益合計	60,273	98,330
本社部門の損益	△7,508	△8,344
一部のV I Eの資産および負債にかかる損益	6,574	402
非継続事業からの利益(税効果控除前)	△1,750	△362
非支配持分および償還可能非支配持分に帰属する 四半期純利益(税効果控除後)	2,614	1,662
四半期連結財務諸表上の税引前四半期純利益	60,203	91,688

	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
セグメント資産		
セグメント資産合計	7,281,355	9,128,248
現金および現金等価物・使途制限付現金・定期預金	921,499	938,188
貸倒引当金	△84,796	△77,793
その他受取債権	239,958	298,950
その他の本社資産	458,225	688,263
一部のV I Eが保有する資産	253,151	239,207
四半期連結財務諸表の総資産	9,069,392	11,215,063

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における当社および子会社の所在地別に分類した地域別情報は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間（百万円）					
	日本	米州地域	その他海外	四半期連結財務諸表との調整	連結合計
営業収益	450,301	76,983	98,507	△16,688	609,103
税引前四半期純利益	81,440	30,396	20,290	△9,995	122,131

当第2四半期連結累計期間（百万円）					
	日本	米州地域	その他海外	四半期連結財務諸表との調整	連結合計
営業収益	688,495	90,873	168,021	△2,214	945,175
税引前四半期純利益	138,637	16,703	48,127	△463	203,004

前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における当社および子会社の所在地別に分類した地域別情報は以下のとおりです。

前第2四半期連結会計期間（百万円）					
	日本	米州地域	その他海外	四半期連結財務諸表との調整	連結合計
営業収益	236,699	33,226	67,297	△4,191	333,031
税引前四半期純利益	36,865	11,791	13,297	△1,750	60,203

当第2四半期連結会計期間（百万円）					
	日本	米州地域	その他海外	四半期連結財務諸表との調整	連結合計
営業収益	380,091	51,659	75,682	—	507,432
税引前四半期純利益	69,198	7,535	15,317	△362	91,688

(注) 1 本邦以外の区分に属する主な国または地域

米州地域・・・米国

その他海外・・・アジア地域、欧州地域、豪州地域、中東地域

2 上記の所在地別情報には、税引前四半期純利益に税効果控除前の非継続事業からの損益が含まれています。

3 当社の子会社であるロベコ（本社：オランダ・ロッテルダム）は、世界中に顧客基盤がある資産運用会社であるため、全て「その他海外」に含めて表示しています。なお、法的主体の所在国に基づいて配分した場合、ロベコの営業収益は、前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間で「米州地域」18,189百万円および45,805百万円、「その他海外」16,556百万円および38,840百万円、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間で「米州地域」18,189百万円および23,478百万円、「その他海外」16,556百万円および20,407百万円となります。

会計基準編纂書280(セグメント情報)は企業全体の情報として、製品・サービス別の外部顧客からの収益の開示を要求しています。連結損益計算書の営業収益は取引別に分類されているため、要求されている情報を含んでいます。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間において、単独で営業収益の10%を超える顧客は存在しません。また、前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間においても単独で営業収益の10%を超える顧客は存在しません。

#### 24 重要な後発事象

該当事項はありません。

#### 2 【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月13日

オリックス株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 羽 太 典 明 ㊞  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 岡 野 隆 樹 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオリックス株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結資本変動計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第95条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表注記1参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表注記1参照）に準拠して、オリックス株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しています。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月13日
【会社名】	オリックス株式会社
【英訳名】	ORIX CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表執行役 井 上 亮
【最高財務責任者の役職氏名】	代表執行役 浦 田 晴 之
【本店の所在の場所】	東京都港区浜松町2丁目4番1号 世界貿易センタービル内
【縦覧に供する場所】	オリックス株式会社 大阪本社 (大阪市西区西本町1丁目4番1号 オリックス本町ビル) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表執行役 井上 亮および最高財務責任者 浦田 晴之は、当社の第52期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。